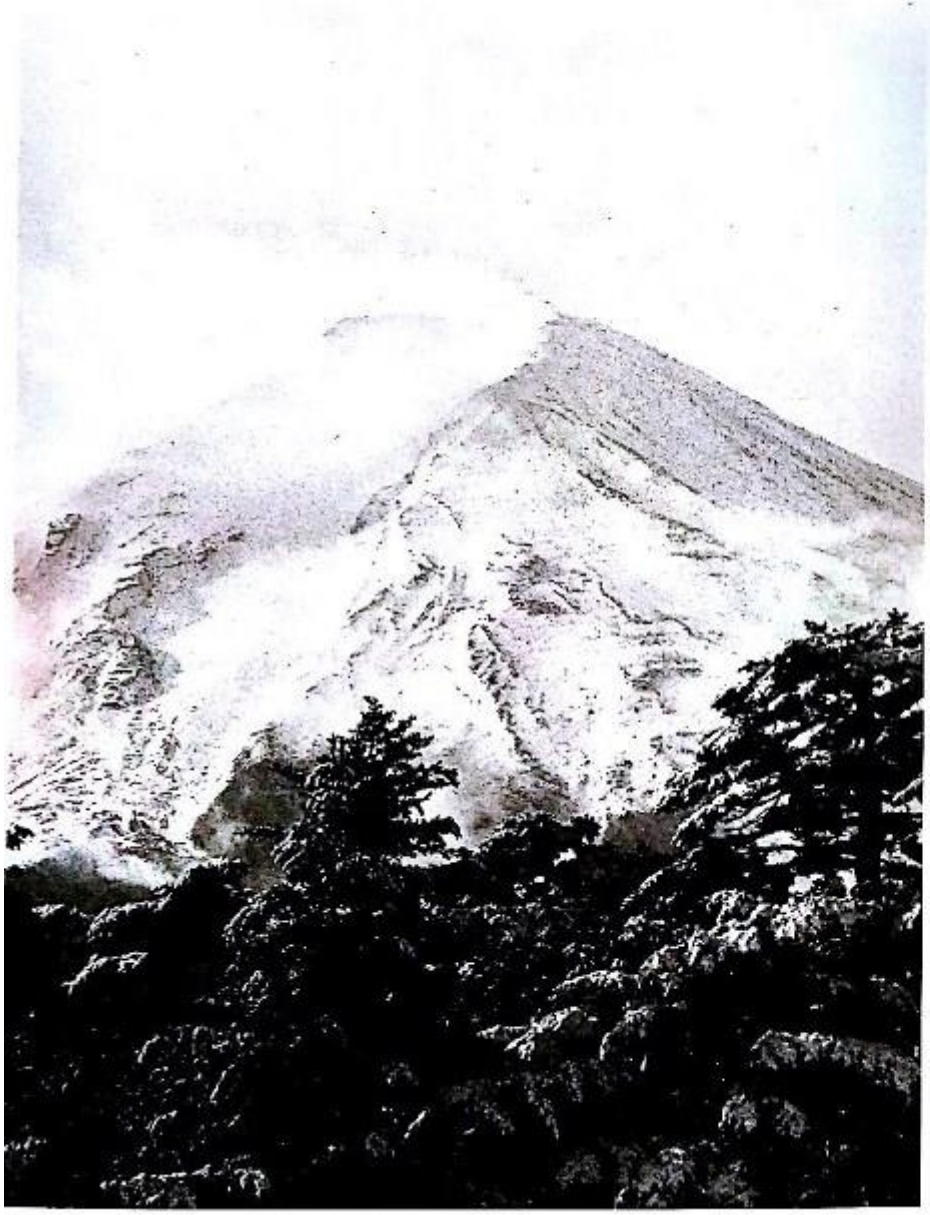


雪煙舞う富士山（富士吉田市鳥居の森公園より）　　中川　光郎

ボーナスセール 開催中 12/21まで

本格的OLOウェアブランドの超お買得アイテムがぎっしり! 数量限定モデルもありますので、お早めに。

ノースフェイス/ポーラフリース　¥9,800～
保温性に優れた素材を使用したジャケット&プルオーバー

ノースフェイス/ダーニャックスジャケット　¥17,800～
雪、雨、風にも対応する高機能ジャケット。幅広いコンディションにお応える優れものです

マーモット/ダウンジャケット　¥16,800～
シンプルなデザインで、軽量コンパクトで扱い勝手のいいダウンジャケット。ポケットに収納できます

ローアルパイン/シェルジャケット　¥17,800～
1着あると便利。防水性、通気性に優れたオールラウンドな登山用ジャケット。

モンベル/ゴアテックスジャケット　¥17,800～
薄型保温材シンサレートを中綿に使い保温性が高いゴアテックス使用のジャケット。ゴアテックスがこの価格とはうれしい

クラスブルバ/ホールアース/ダクロンシャツ　¥8,800～
保温力があっても便利。汗を素早く吸収、発散。サラッとしたドライ感を保つフィールドシャツ&Hシャツ

今年の冬はベーシックマウンテンパーカーが復活の予感!

暖らかいタッチがシックなベーシックなスタイルのマウンテンパーカーが、気軽にタウンでも、ちょっとした山にも使えて人気です。この機会にボーナス価格でどうぞ

ノースフェイス/マウンテンパーカー NP-2602
¥23,000→ボーナスセール特別価格
ノースフェイスの伝統性復刻モデルです。なつかしい肌触りがうれしい1着です

クラスブルバ/マウンテンパーカー UC0365
¥38,000→ボーナスセール特別価格
表地にゴアテックスを使い、機能性はばっちり。内側にフースをレイアードさせて、大きなポケット、アームの取り外しもできるシンプルな1着です

Fos Fire/オールウェザーパーカー
¥35,000→ボーナスセール特別価格
つやを消して落ち着きのよいナイロンゴアテックスを使ったベーシックで切きのこないオールラウンドなパーカーです

冬のアウトドアギア

冬を楽しむギア スノーシュー・シェラフ・テントがボーナス価格でお買得。さらに素敵なグッズプレゼントのおまけ

今年こそスノーシューでバージンスノーを楽しもう!

ノーザンライト/ワワサウ(写真)
ボーナスセール特別価格 ¥23,800
重量 1.66kg(ペア) 全長 63cm 幅 20cm

ノンパトロールR
ボーナスセール特別価格 ¥26,800
重量 1.140kg(ペア) 全長 76.5cm 幅 22cm

スーパープロアイン素材使用のシングルウォールテント ¥42,000

"がんばれ日本"暖かいソレルのスノーブーツを履いて長野オリンピックを応援!

ソレル/'98モデルスノーブーツ ボーナスセール特別価格
さらにお買い上げのお客様に、とっても暖かいネックウォーマーをプレゼント!

ソレル/'97モデルスノーブーツ カリブ ¥24,000→ ¥16,800
ソレル/'97モデルスノーブーツ スタジアム ¥16,000 ・¥11,200

'Xmasセール 12/22～12/28 クリスマスプレゼントに、年末・年始にお出かけのためにいろいろ便利グッズがお買得!

NEW YEARセール 1/2～1/8 暖かく楽しい企画がいっぱい

patagoniaコーナー OD BOXにはパタゴニアウェア、アクセサリーを集結した専属コーナーを展開。パタゴニアファンのお客様をお待ちしています。

その他にも、この時期の魅力的なウェア、ギアが多数ありません。このチャンスをご利用下さい!

通信販売も受承っています。お気軽にお問い合わせ下さい。

便利な名古屋の中心・栄
名古屋店 栄店
TEL 052-951-4141
FAX 052-951-4040

大阪店
Bar Sico内
東梅田地下街と西梅田駅よりほぼ中間

アウトドアのトータルショップ
遊衣自然で暮らす。
登食
潜住
OD BOX

Photo essay

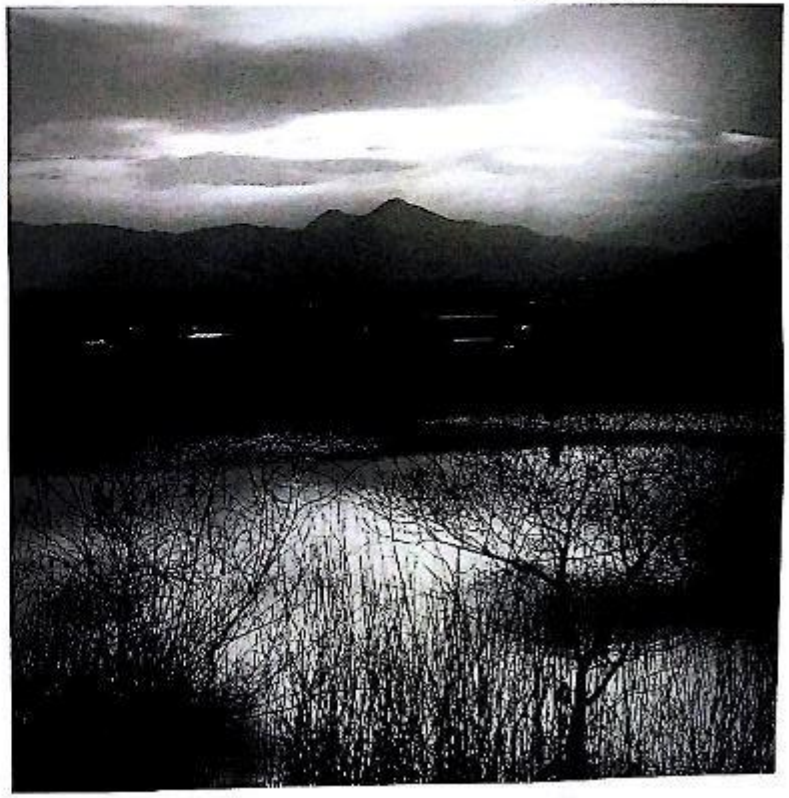
冬日和

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一

夕日をいっぱいに浴びた
重なり合う山々
山並みのライン
初春に寄せる様々な想いを
そのまま染め上げたかのよう
枝々を吹き抜けるかすかな風
水紋の織りなす優しげな表情
雄渾な自然美と枯淡な風情
きらきらと優しく輝きそよぐ尾花
空色瓦の中にすくっと伸びた塔
静かで凛とした強さとしなやかさ
焚き染められたお香
穏やかなたたずまい
寒さがふと緩む日は
春を待ち望む心をくすぐる

早朝の水上池

冬の法輪寺



夕照（檜原神社付近）

季節の実景

撮影　武市通治

新春

光の春

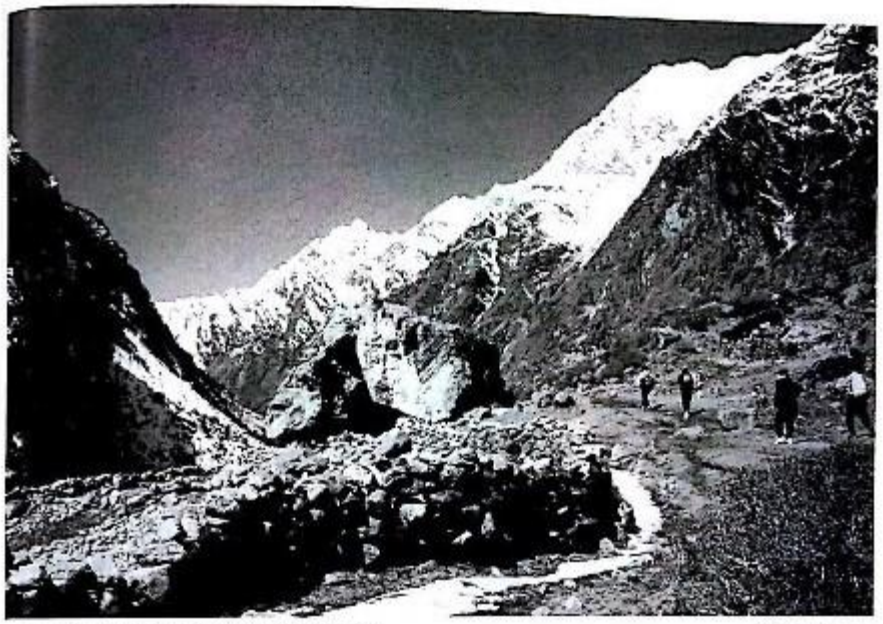
赤い実

春

吹雪く日

紅梅

霊仙山西南尾根（鈴鹿）　　小林　実



ランタン谷を下る（ランタン村上流にて）　　吉沢　栄一

例会で歩く霊仙山西南尾根（鈴鹿）　　小林　実

ガンチェンポ（キャンジンゴンパ手前にて）　　吉沢　栄一

新ハイキング 別冊 関西の山
'88年1・2月 新巻 第36号

●目次

表紙：松田敏男「西岳より赤岳を望む」（八ヶ岳）

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1967年より山岳版画、山詩画の制作を続行中。（年齢平安西岳、m7アルプス絵本小屋、東京ギャラリー百号、他）
京都山と自然に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

●グラビア
冬日和……梅影 由井 収 文
丰節の表景（新巻）「巻」はか……松永 恵一
（口絵）中川光郎・吉沢栄一・小林実・奥田英一郎 武市 通治 4 2
道標（山のエッセイ）
〝生きる〟ってことは ―カトマンドゥにて……奥田英一郎 13
「神体山」は明治の遺産……綱本 逸雄 11
日本一低い山に登る……生駒 登峰 13
熊野・妙見山のモグラ……岡本 真之 14

紀行
花房山から雲倉縦走……石 義人 16
硫黄岳……日野 鈴雄 19
〔連載〕日本霊山紀行36 伊吹山……浅野 孝一 22
双六岳から笠ヶ岳……鷲見 守康 26
武奈ヶ岳……松田 敏男 31
大三島・大崎下島・大崎上島……多摩 雪雄 34
〔連載〕比良を歩く㉔ 小女郎峠から蓬莱山……斎 虔夫 38
東ジャワ島・ブロモ山……吉見 英樹 41
舟ノ川流域に伝承芸能を訪ねる……渠田英一郎 45
鈴鹿の池を探訪する山旅㈠
御池岳周辺の池をめぐる……山本 久雄 51

エリア別研究
近江側から登る鈴鹿の山々……51

●1等三角点（500m以上）548座完登の記録（第5回）……坂井 久光
全国548座の完登を決意
●藤白峠から拝ノ峠・熊坂を歩く 熊野街道探索……中村 敏文 57 48
●文学歴史探訪ハイク㉔
飯盛山に柴太正行を訪ねて……松永 恵一 60
●関西登山案内書の変遷（上）……河野 恒夫 63

ニュースガイド
㈠竹之内山……廣矢次盛一
㈡湖東三山と山……山形 義之
㈢畑尻峠……岩田 昭彦 64 65 66

沿線ハイキングガイド……75
サービスチェーン……75
せせらぎ……77
新ハイ関西山行計画と報告……80
バス時刻表（比良山形）……94
編集後記・広告案内……96

巻頭言

新しい年、今年も活動を求めて元気にハイキングしたいものです。

一年間のうちで山を歩いていて「楽い」と感じる時期は、およそ11月頃から翌年の5月頃までです。関西でも周辺の山では積雪が見られる時期ですが、何と一年の約半分にもなります。

皆さんの中で、冬は寒いから、また夏は暑いからといって山を休んでいませんか。春や秋の気候の良い時だけ歩くという人もけっこうおられると思います。そんないいとこ取りで本当の山歩きの良さが実感できるのでしょうか。

提案ですが、そういう人は今年は冬も夏も毎月1～2度は山行するという計画を立ててみましょう。冬の寒い時に歩けばこそ春の芽吹きに感動でき、夏の暑い時に歩けばこそ涼しい秋風が心地よく実感できるのです。その実感のなかにこそ本当の山歩きの良さを感じとることができます。一年を通じて山に入り、野辺の自然に触れながら歩いてみてください。体力もつき、感動も倍加し、心のいやされる回数も増えるでしょう。

新ハイキング関西（代表）村田 智俊

雪の華三題

奥田 英一郎

稲村ヶ岳山上辻にて（大峰）

稲村ヶ岳山上辻にて（大峰）

日出ヶ岳山頂より三津河落山方面を望む（台高）

克

生きる"ってことは
―カトマンドゥにて

奥田　英一郎

二十年も前のことをどのように思い起こせばよいのだろう。

「ヤクアンドイエティ」という、当時ロシア料理を食べさせるレストランで、食後のコーヒーを飲みながらつい今しがた抄いてきたアッサンのことを思いだしていた。

ネパールハットの鋭い目つきの男たちと、原色のサリーをまとった女たちの群れが通りをあふれんばかりに流れてゆく。食料・雑貨・仏具・衣類などを売る店の古びた建物の二階の窓には、額にテイカを付けた女性が、じっと通りを見下ろしている。それは何一年、いや何百年昔もそうであったような、あたかも中世そのものの街の姿であった。

世界一の巨大寺といわれるボードナードの大ストゥパーでは、すすけた顔のチベッタンたちがマニ車を廻しながらマニ経を唱えるのに混じって、五体投地を続ける人がいた。

パグマティ川に面したヒンドゥのパシュパティナードでは、火葬台の上の遺体がいましも焼かれていて、白い煙とともに異臭が鼻をついた。遺体がまとっていた白衣は聖なる川に流されたが、すぐ川下でそれを拾っている人がいた。赤い炎が時々燃え、すぐそばの水辺では洗いものをする人たちがいた。

ボカラのビンダバシティでは神に捧げる生にえの鶏が、立て掛けてある刀でいとも簡単に首と胴に切り分けられていた。奥の一室では黄色い花のレイを首にかけた一組の若者が、緊張した面持ちで結婚の祝福を受けていた。

この国では牛も豚も、犬も鶏もそして人間もが輪廻転生の世界といいたい。これを輪廻転生の世界というのだろうか。

クーンブ山地のトレッキングでは白くたおやかな峰々に囲まれて、"シャンペンのしぶき"と言われる清澄な空気に浸っていた。

氷河隅谷をかかえたタムセルク峰、真っ白な真珠を首に散りばめたアマダブラム峰、ヒマラヤひだをくっきりと浮き立たせるクンデリー峰……それぞれがそれぞれに個性ある姿で美しかった。

クムジュンの民家では乾いた獣の糞でチャパティを焼いてもらった。夜の明りは灯油で、ヘッドランプはここでは魔法の灯だった。

夜が明けると、孫を抱いた老人は敬虚な面持ちでマニ経を唱え、少年はドッコを背負って山へ牛糞の糞を拾いに出かける。

克

随想（山のエッセイ）

女性は黙々と水を汲み石臼を廻していた。人々はただ日の出とともに起き、日没とともに休む。そこでの生活は日時や昨日とは全く無関係なのだった。

「ヤクアンドイエティ」はアルコールの入った人たちで賑わっていた。ぬくぬくとした店内で"いったい人が生きるってことはどういうことなのだろう！"と、自分でもよく分からないことをボンヤリと考えながら、いつまでもゆらめく炎を見つめていた。

「神体山」は明治の造語

網本　逸雄

登山関係書・雑誌で、信仰の山を扱ったコースガイドに、よく「神体山」という言葉が出てくる。原始信仰の山という意味で用いられているようだ。修験の山岳霊場もこの言葉が代名詞のように使われる。以前、私も「神奈備」を意味する古い名称と思って何気なく使っていた。が、そう単純でもない。

神体山、つまり神奈備の研究は、賀茂真淵「延喜式祝詞考」、折口信夫「万葉集評釈」、喜田貞吉「神饌石塔論」、景山春樹「神体山」ら、歴史・考古・地理・宗教などの各分野にわたって、著名な研究者の多くの著書や論文がある。

しかし、「神体山」を題名にした書は数例しかない。なかでも、神道美術研究で有名な景山春樹氏の著書『神体山―日本の原始信仰を探る』（学生社、一九七一年発行）はよく知られるが、このあたりから「神体山」の名称が一般に普及したのでないかと思っている。学術用語として使っている研究分野・大事典もある。

神奈備（神名備・甘南備・神名火・神辺）の名は、『豆三記』に四例、『万葉集』に二十三例（三室山など含めると四十二例）出てくる。しかし、神体山の語句が登場するのは明治以後である。

＊

まず、「神体」の名称は大倭神社注進状（一一六七年）、鎌倉初期の辞書、伊呂波字類抄（志、農字）、鎌倉末期の歌日本紀（十、述懐）などに見え、平安中期頃からの用語といえる。それより古くは「霊御形」（豆大神宮儀式帳）の例があり、神霊の宿るものの意味で用いられた。やがて、神体といえば、鏡・玉・剣など神社などの祭祀の場で奉納する人工の宝物を指した。これらを収める容器を厨子、御櫃代、さらにこれを収める容器を御船代といった。神仏習合時代は、仏像も神体といった。

神道研究者の岡田米夫氏によると、この神体という意味で山

克

岳信仰を表した「神体山」という名称は、古い文献などに少しも見えない。山を神体という名で呼んだのは大神神社の三輪山（奈良県桜井市）が初めてで、江戸時代である。

皇室守護の神道を唱えた儒学者・山崎闇斎の「垂加神道初重伝」に「三諸山（三輪山）は身皆山と云ふこと、諸は皆と云ふこと、身は天地の主、山は土ぞ。今は山を神体にする。身皆山じやによって、山を神体にしても能きこえる」とある。「みもろ山」を神体といったのは、山全体が神霊の宿るところからの名である（ただし、三輪神社は杉の御社ともいい、寛文年中の神社の覚書に「御神体に椙を崇奉候」とあるが、略述）。

これをはっきり「神体山」といった例は、明治四年三月五日大神神社の総代より、奈良県宛の口上書（三輪町西村文書）に初めて見える。

「当三輪山霊廟より三里十八町、麓より頂まで二十町五十六間と有之候、神代吉大国主大神御自ら御魂を当山に鎮座給い、故に神・体・山と奉崇尊候」（傍点筆者）

明治維新後、三輪山が政府に返納される（上知令）という危機的状況下で出されたもので、ついで、同年九月二日の同神社側から奈良県宛の答申書に「往古より、三輪山を以て、ご神体と拝み来り候儀にて、拝殿、神門ばかり、御正殿これ無く、神・体・山の儀いずれまで境内とも（中略）相分け難く」と三輪山を境内地として没収を逃れようとした。神体山という造語はこの時初めて生まれた。

上知は土地とも書く。もとは徳川幕府が大名・旗本の知行地を、犯罪や割替えで没収することだが、明治政府は明治三年十二月十日、「今般、寄華族元堂上並び旧官人以下録制を定められ、諸米（禄米）を以て下され候間、是迄領地の分は上地致すべき事」と太政官令第九百二号を発布した。奈良県行によって「巻足山」と定められ、杉・松茸・枯れ損木・落ち葉などを売って神社財政を潤していた三輪山も例外でなかった。地方官が視察して出した「御達」は「社頭建物四隅より三尺を除き、外悉く当上地」というものだった。神社側は正殿創建の願書まで出したほどだったが、結局、神社と氏子がつくった「神体山」が効いたのか、官幣大社となった。

上知令で全国の神社も同様の状況だった。本殿が無く拝殿・神門ばかりの神社がご神体とする御山を、諏訪神社はじめ三輪山にならって神体山というようになった、というのが神道学界では知られている。

もともと、上代には日本古語を一字一字、借用語の中国語で表現したが（万葉仮名）、「しん

克

随想（山のエッセイ）

たいさん」という言読みが古くには無かったのも当然なことである。その意味・用い方については再考が必要されている。

＊

神体山は、上代では「かむなび」「みもろ」「みむろ」といった。神英雄氏によると、今日残っている『神奈備』関係地名の全国分布は、「みむろ・みもろ・みわ・むろ」六十例、「こうやま・こうのさん・かむろやま・かぶとやま」二十八例、「かんなび・かんなべ・かんなん・じんなん」十六例で近畿・山陰・東海に集中している。すべてが古代からの遺存地名ではないだろうが、兵庫県の神鍋山、上賀茂社の神山、京田辺市の甘南備山、奈良県の神奈備山（三室山）などがある。

特徴として山容が秀麗で（必ずしも円錐形でない）、周辺の山では目立ち、山中に磐座、古墳が存在し、山麓には延喜式式内社、古社、古代祭祀遺跡、降臨神話・伝承、落雷を題材にした説話などがある。奈良の雷丘（三諸岡）、泉賀の三上山（御神山）、田上山（太神山）も神奈備山だから、その数はもっと多いだろう。『拾芥抄』に載る七高山（比叡、比良、伊吹、愛宕、金峰、神峰、葛城）もそうである。神奈備（みむろ、みもろ）と神社（延喜式は「かみのやしろ」）は語源上も関わりが深いが、またの機会にしたい。

日本一低い山に登る

生駒　嶺峰

日本一高い山は富士山で、日本人ならだれでも知っている。外国でも日本の象徴として富士山は知名度が高い。

高齢者となった私の若い時は、日本一高い山は台湾の新高山（玉山）で、二番目は同じく台湾の次高山（雪山）であった。

終戦後は富士山が日本一に復活し、日本にとっても富士山にとっても日本一に返り咲いたのは幸いであった。私はその姿・形からしても、やはり富士山が日本一であって欲しい。

そもそも山とは何だろう。『広辞苑』には「平地より高く隆起した地塊」とあり。測量部の山岳標高一覧では「地表面が大きく盛り上がったもの」と考えられている。はなはだ抽象的だが、技術的には国土地理院の地形図2万五千分の1図に記載された中より選ばれる。

山の総高の高度順一覧は地理院でも発表され、その他の山岳図書でもよく見かけるが、最低順のリストは全く見たことがない。

しかし世の中は広いもので、低い山を選んだ「日本低山一覧」も作成されているとのことである。

克

これには仙台市の「日和山」標高6㍍が選ばれている。江戸末期に海岸警備のため築かれたものと言われる。毎年7月1日に山開きが盛大に行われ、日本一低い山の説明板も立っているそうだ。

それならばと秋田県測量設計協会が、もっと低い山を作ろうと、秋田県大潟村の標高マイナス4㍍の地点に、高さ3・776㍍、標高0㍍で、富士山の1000分の1の「大潟富士」を作った。ここは埋め立て地で、その後地盤沈下を起こし、計画通りの高さではないとの噂もあるらしい（「地図測量史跡」参照）。

ところで、最近取り上げられているのは、何と地元大阪港の天保山で、標高4・5㍍。2等三角点がある。三角点があればはっきりと標高が確認され、高さが証明される。

天保山と言えば、瀬戸内海航路の港として栄えたのだが、今では海遊館やマーケットプレイス、大観覧車のほうが有名で、港はわずかに談路島や関西空港便があるのみ、大型客船は南港に移っている。

船乗り場の右手に公園があり、その中の一隅に高い記念碑が立っている。「明治天皇視察之所」と刻まれていて、その碑から3㍍ばかり離れた生け垣の側に三角点標石が入っている。ここには経緯度の記された説明板と「日本一低い山」と記された木札が立っていた。すでに日本一低い山として認識されているようだ。

そこは安治川の一隅に張り出した岬状の所で、先端には灯台が立つ。上空は高速道路が大きくおおいかぶさり、山の面影は全くない。何が作られるのか公園内は工事中だったが、通り抜けても問題はないだろう。

三角点の側に「現代館」に記されていたので、公園の南にある現代館を訪ねる。ここは美術館で、入館するには入場料が必要だが、スタンプだけなら受付で無料で押してくれる。

スタンプは「ギネスブックで世界一低い山。てんぽーざん登山記念」となっており、日本一だと思っていたら、世界一になっていて驚いた。

（平成9年8月）

能勢・妙見山のモグラ

岡本　真之

初夏だった。黒く湿った暗い杉林を抜け出ると、いきなり強い日差しに包まれた。白く乾いた道が目に眩しい。右手に流れを見ながら、ゆるやかな谷間を登って行く。

左斜面は、コナラ・クヌギ・カシワなどの林で、岩の裂け目からはヤブツバキが根を張り、

克

随想（山のエッセイ）

厚い葉を光らせて黒々と繁っている。木蔭を拾いながら歩いて行った。

道が谷川を横切ると、谷が狭まってきて、森の湿った枯れ葉の匂いが強くなった。立ち止まって冷たい岩に腰を下ろし、胸元に風を入れる。頭上の枝が風で揺れるにつれ、木洩れ日が足元の林床をチラチラと眩びはねていた。するとその陽ち葉の地面が、モコモコと持ち上がってくるのに気がついた。そして、その盛り上がりは前へ前へと進んでくる。

地下数㌢の柔らかい腐葉土の層を押し上げ押し上げ、モグラが地中を前進しているのだ。前方に岩がある。岩の根元で前進が止まった。そして、地下から小指より細い鼻先がニューと現れた。丸い鼻の穴が二つ並んでいる。心もち赤剥けした鼻先には短かめの黒い毛が疎らに生えていた。それは何か滑稽で、かつ、わずかに獰猛な感じもしたが、それは私の偏見かも知れない。

赤剥けした鼻先は、前後左右にピョコピョコと潜望鏡のように動き、初夏の大気を嗅ぎ回った。そして、それが私に向けられた時、鼻先は瞬時停止したかに見えた。しかし次の瞬間には、それはスッと下へ引っ込められてしまった。それきり地面の動きは全くない。試しにその辺を掘ってみたが何も見当たらない。彼は私の匂いに気づくや、たちまち地中深く潜行したに違いない。赤剥けした鼻先だけとの対面だった。

数週間後のよく晴れた日、六甲山の尾根道を歩いた。宝塚から登って、船坂峠の近くまでくると、林の中の窪地に厚く落ち葉が溜っている所があった。そして、そこを例の地下トンネルが再びモコモコと盛り上がりながら進んでくる。そっと近寄って、トンネルの先端を靴先で掬い上げた。

土塊に混じって、丸くて黒い固まりが見えた。その青黒い毛並が日の光を反射して、ムクムクと銀灰色に輝くと、上が二、三度鋭く掻き上げられた。と、すでに彼は地中に消えていた。

この日は有馬へくだった。気がつくと手の甲に森の枯れ葉の香がわずかに移っている。少し惜しいような気もしたが、共同浴場の赤錆色の湯（金泉と言っている）で洗い流して、代わりに、タオルを茶色に染めて帰った。タオルには、数日間湯の香が残っていた。

雪稜を歩く

花房山から雷倉縦走

石　義人

奥美濃

奥美濃の山へは何度かチャレンジはしているものの、縦走の経験はなく、ほとんどがピストン山行。春の櫛現山から花房山・雷倉（別名・かみなりぐら）の縦走はあこがれであった。三山縦走というわけにはいかなかったが、その半分にトライしてみた。

前の晩、ヘールボップ彗星を家の側から見ることができた。肉眼でもその尾がはっきりと確認でき、かすかな感激を覚えた。

早朝、京都発5時30分。いつものように一人で名神高速道を一路東へ。天気は悪くない。関ヶ原インターで降り、国道21号線から417号線へと揖斐川町を通り抜け、藤橋村へ。さらに北上し、横山ダムのダム湖が尽きるあたり、東杉原の奇怪な藤橋城の側を通り、赤いモダンな橋を渡った所にオートキャンプ場がある。その広い駐車場に着いたのが7時15分。車が一台駐めてあり、先行者がいるようだ。

すぐに身支度し、7時30分出発。目の前の荒れ果てたお寺らしき建物の側からのびる林道に入る。その先すぐ左に赤布が下がっており、「花房山登山口」と書かれていた。道があるような無いような、けっきょく適当に歩きやすい所をとにかく上へ上へと登る。赤布も所どころにあり、道形も見え、登りづらいということはない。けっこうな急坂を何か所か乗り越えると、大きな杉の木のある約800㍍のピークに出た。ここまではいうほどの雪もなく、なんとなく物足りない。先を見上げれば花房山が目の前で、まだら状に白く染まった山々が連なり、期待できそうだ。

花房山より櫛現山を望む

少しくだって、急登すると、数か所「ミニ蟻の戸渡り」に似たやせ尾根があり、けっこう緊張する所である。頂稜に近づくと急に雪も多くなってきた。しかし、先行者のトレースがあるので迷うことはない。急な斜面を登りきり、稜線に上がると櫛現山のほうから山が見えだし、左には意外と近くに花房山の頂上が見える。

快適な雪稜を登りきると360度の大パノラマの花房山頂上（1189㍍）である。小津から来たと言う三人パーティが食事中であった。林道の終点から2時間30分で登れたと言う。遠くは霞んではいるものの、すばらしい大展望。能郷白山が真っ白であった。そしてその奥には白山が、目を転ずればなつかしい美濃沃丸・三周ヶ岳が見え、金糞岳も見える豪華版であった。写真、眺望、そして食事と充実した時を過ごす。それから、いざ雷倉へ出発である。

雷倉への稜線に踏み出したとき、三人パーティの女性から「どちらへ行くんですか」と問かれ、「雷倉へ」と答えると「へェー」とびっくりされてしまった。ここから見た雷倉ははるかに遠く、雪稜も所どころで途切れ、ブッシュが見え隠れしていそうな感じであった。しかし、食事中に必死で観察したところでは、何とか雪はつながっており、行けそうに思えた。

縦走に入ると高旭谷側は急速に落ち込み、雪庇も崩れ、その根元に大きな亀裂がパックリと開いている。大きく急な雪面には無数の亀裂が縦横無尽に走り、いつずり落ちてもおかしくないように思われたが、意外としっかりと安定していて、よく締まった雪稜は快適そのものであった。

よく晴れた穏やかな春山日和のおかげで、注意深くルートの選択ができ、スムーズに歩けて快適にどんどんくだることができた。数か所のピークを越え、やっとという感じで最低鞍部に着いた。ふり返れば鋭角な花房山がすっくとそびえ、なんとも印象的だ。そこから丸いゆったりした、大きな雷倉の頂をめざし、急な雪面をゆっくりと登った。

頂上（1166㍍）の一角にはロボット雨量計が立ち、広々とした展望のよい所であった。花房山から3時間、ブッシュをこいだのはわずか5分。会う人もなく、静かで快適な雪稜のすばらしい縦走が満喫できた。ここからは花房山を始め、今歩いてきた尾根をはっきりと望むことができ、感激ひとしおである。

春光満つ　残雪の稜線に
青葉吹く　深いクレバスの底に
奥美濃は春の息吹に　燃え上がる

ここにも踏み跡はなく、だれひとりきた様子がない。隣のピークに行くと雑木林の中に雷倉のプレートがあり、数人の踏み跡があった。この踏み跡は根尾村側の八谷へくだる尾根上にのびていた。私の下山予定ルートは、今まで記録のない尾根である。

雷倉より花房山（右は鹿麻粒山方面）

八谷へくだる尾根とは反対の北西にのび、1044㍍のピークを通る尾根で、真っ白に雪をまとい、それほど困難には見えなかった。歩いてみるとやはり雪もよく締まり、すばらしい雰囲気の雪稜であった。人の気配は全くなく、天気が良いので安心してくだれた。1093㍍への分岐を過ぎ、雑木林から杉や檜の植林帯になるとおもしろさは消えた。少しズボズボともぐり始めたが、それほど苦労ではない。尾根をはずさないようにくだる。右は深く切れこんだ深谷で、対岸に林道が見え始め、今いる所までのびてきている。ルートが正しかったことが確認でき、ひと安心だ。あとは696㍍の林道合流点まで頑張るのみとなり、16時過ぎ無事に林道に降り立った。

そこからは駐車地まで約1時間30分の林道歩きが残っていた。

（平成9年3月21日歩く）

△参考タイム▽

京都5・30—駐車場発7・30—750ピーク8・55—花房山10・40—雷倉14・10—林道16・10—駐車場17・40

△地形図▽2万5千＝美濃広瀬・樽見

KOBEの登山専門店

手作りザックの店です。

心ときめき、背負い安いザックです。

トレックオール45

●2～3泊の小屋泊りから本格的な山歩きに対応出来るオールマイティモデル
●フロントにメッシュポケットと大型ポケット
●側面には片側はスルーポケット、片側はインサイドポケット
●両サイドに大型ワンドポケット・コンプレッションベルト
●角度調節可能なインサイドフレーム内蔵

カラー　ベージュ×ネイビー、ベージュ×ワイン
　　ベージュ×モスグリーン
容量　45ℓ　重量　1,100g
サイズ　16×35×70㎝
素材　東レ・セルスパン
価格　¥15,500→新ハイ価格

雪山シーズン到来
雪鳥・オコジョも雪化粧
湯けむり、新雪、雪あそび
雪山ハイクの準備は
ととのいましたか？

イモックに申込下さい。

IMOCK. KOBE

神戸ザック

〒650神戸市兵庫区大開町97 103-1
TEL(078)521-5851
FAX　521-3528

初心者向きの冬山をピストン

硫黄岳（いおうだけ）

日野節雄

八ヶ岳

八ヶ岳は標高3000㍍に満たないが、アルペン的要素のある山だ。私は中央本線の車窓から夏も冬も楽しく眺める。それは憧憬の遠慮からかも知れない。

若いころは、冬山のために年間を通してトレーニングしていたが、現在はピッケル持参の山や、ヘルメットをかぶる沢や岩は止めることにして、銀嶺の冬山は眺めるだけの対象にしていた。ところが、冬の北八ヶ岳山行に参加して昔の虫が蘇ぎだしていた矢先、仲間のSさんが硫黄岳へ単独で行くと聞いて私は同行を申しでた。話によると、1月下旬から2月上旬は天候も安定していて、横岳まではむずかしいが、硫黄岳なら雪崩に発生しないし、ピッケルもこの時期はいらないと聞いて出発した。

茅野駅から数人を乗せたバスが美濃戸口に着く。日曜日なので人が多い。店は春まで休みと書いてある。直進する道は阿弥陀岳への尾根道で、赤岳鉱泉へは登山届箱のある左の林道に入る。アイゼンを着けて下山して来る人は少なく、ストックのみで歩きだす。美濃戸山荘まで乗用車が入っているので、そのタイヤ跡を除けば夏山並みに歩ける。途中二か所、林道からはずれて右側に近道がある。標識はないが踏み跡に入る。ほぼ平坦な道だ。

やがて小松山荘と赤岳山荘の前を通り、美濃戸山荘に着く。団体客らしいグループもいる。水の出っぱなしなのは夏と同じで、ここにある三軒の山荘は冬でも休日とその前日は営業しているようだ。乗用車で来る場合は前もって申し込んでおけばよいとのこと。

昨年の夏、目の前に登山道があったのでついそれに入ってしまい途中で気がついたが、これは行者小屋に行く南沢ルートであった。変化のある道なのでもう一

赤岩ノ頭から横岳・赤岳・阿弥陀岳方面

度歩いてみたい道だが、今回は赤岳鉱泉へ左の林道を行く。ここも左側に近道がある。鳥の囀りを聞くがこの時期何を餌にしているのだろうか。
　二つ目の堰堤で林道は終わり、丸木橋を渡って左岸に渡ると急に雪が深くなった。くだって来る人が多く、しかもノーアイゼンで軽い雪を崩して来るものだから歩きづらく、四本爪アイゼンを各片足に着ける。天気は良いし、風もない。のんびりと休みながら登る。幾つかの丸木橋に来ると大同心・小同心の岩壁が見え、カメラタイムにする。そこから10数分で赤岳鉱泉に着いた。朝食は7時からと言うので夕食のみで受付をした。
　テントが数張りあり、訊くと横岳・赤岳などの岩壁・氷壁登攀と言う。若者だけでなく、かなりの年配者や女性もいる。装備が良くなったとはいえ、その体力・気力には脱帽する。
　中山展望台まで散策に出かける。途中右側に雪崩が発生した所があって、遭難者があったと聞く。雪山はいつどこで何が発生するか分からない。展望台からは、阿弥陀岳・赤岳・大同心と迫力満点だ。
　小屋に戻ると大部屋に石油ストーブが点火されていて、今夜は私たち二人だけ。嬉しいような寂しいような。夕食はいつものように心尽くしの品で、冬期は風呂はない。21時が消灯でその前にテルモスの湯を沸かし、布団に入れて寝る。
　翌朝、小屋の前の道を登る。二人共足元だけを見て歩いていたものだから、立派な道標を見落とし、ジョウゴ沢に入り込んでいた。蒼く光る氷壁があり、十本爪アイゼンで蹴っても歯がたたない。早々に引き上げ、正規の尾根道に入る。あたりは針葉樹林が雪をかぶり、冬山気分を満喫させてくれる。
　Sさんは重登山靴に十二本爪アイゼン・ピッケルと冬山登山の装備。私は軽登山靴に十本爪アイゼン・ストックである。
　登山道の雪は土・日曜の人出でほどよく固められ、ジグザグの道は夏山より歩きやすい。針葉樹林からダケカンバの大木に変わり、それも終わると雪の大斜面に出た。右手に硫黄岳の絶壁が見える。この斜面も電光型の道になっていればよいのだが、雪では直降が常識だ。くだりで足場を崩してしまうから登るほうは大変だ。二人共ふくらはぎが痛くなったころ稜線に出、左が赤岩ノ頭だった。
　鼻がつまり、口で呼吸して来たから飲んだ一口のコーヒーのおいしいこと、生まれて初めて味わったような気分になる。展望はこれから登る硫黄岳に続き、横岳・赤岳・中岳・阿弥陀岳が、ちょこっと権現岳の頭も覗く。北面には近く東西の天狗岳から、遠く北横岳に先週登った蓼科山と、八ヶ岳の全貌が見え、南アルプスは仙丈岳・甲斐駒・北岳と見分けられる。風はそれほど強くないが、雲の流れが早いので首にタオルを巻き、バンダナで鼻と口をおおい、毛糸の手袋を二重にして登りだした。尾根は雪がスラブ状になっている。夏は山頂近くにある岩を、左に回り込んでよじ登ったが、右に道標があるので行くと、ちょっと緊張させられる足場があった。
　硫黄岳の山頂に出ると風速7～8mだが、何しろ寒い。バンダナが首に落ち鼻が痛い。指先は凍傷になりそう。ロボット雨量計の小屋で風を避けようと覗いてみたが、雪がつまっていて入れない。景色なんか見ていられる余裕もないが、北アルプスを探すと雪雲の下だ。ぐるりと見渡し、証拠写真を撮って早々に下山にかかる。先ほどの岩場で私がもたついて

いるのを見て、Sさんが先行する。やはり急下降の所はピッケルを雪に差し込むと安心感があるのかも知れない。
　あるリーダーが「ピッケルは滑落防止用に持ってこさせるので、停止用ではない」と言うが、このことかも知れない。滑落停止だったら訓練して体で覚え込まなければできない。そして「初心者同士」とは言ったが、むずかしいと思ったら岩の手前で満足すればよいし、風雪で見通しのきかない時はもっと下で退却しよう。私たちも計画では台座ノ頭までと予定していたが、あまりの寒さに私が降参した。目出し帽・厚手の手袋・オーバー手袋・マフラーにフードをかぶるなど、身仕度を完全にしていたら行けたのにと反省した。
　ほっとしたあとはコーヒータイムで、もう一度景色に見いる。風が強まり足元に雪煙が回る。南アルプスは黒い雲に隠れ、直下に赤岳鉱泉が見え、反対側はオーレン小屋方面だ。
　くだりに入ると風で細々の雪が舞いながら降ってくる。氷片はキラキラ光り、まるでダイヤモンドダストのように美しい。景色を見ながら歩いても標準タイムより大幅に早く赤岳鉱泉に着いた。
　昼食後、外に出ると強風になっていた。アイゼンを脱いで歩くところだが、感触を味わうため着けて歩いたら、美濃戸山荘へ55分間で着いてしまった。店は閉まっていた。一服して美濃戸口へ歩くが、人っこひとり会わない。バスから見た八ヶ岳は雲に隠れていた。
　今回の冬山は好天に恵まれたものの、寒さのため短時間の滞頂であった。しかし、夏山の何倍もの爽快感が残った。
（平成9年2月2日～3日歩く）

《参考タイム》
一日目　茅野駅10・00（バス）美濃戸口10・47～11・00―美濃戸山荘12・00～30―赤岳鉱泉14・40―中山展望台（往復約1時間・泊）
二日目　赤岳鉱泉6・40―赤岩ノ頭8・35～50―硫黄岳9・15～30―赤岩ノ頭9・45～10・15―赤岳鉱泉11・05～12・05―美濃戸山荘13・00～10―美濃戸口14・00～45（バス）茅野駅15・32

＜費用＞
茅野駅＝美濃戸口　バス往復　1800円
赤岳鉱泉（夕食付き）　6700円

＜地形図＞5万＝八ヶ岳
　昭文社＝「17八ヶ岳・蓼科」

＜問い合わせ先＞
赤岳鉱泉（現地）　0266（72）3939
美濃戸山荘　0266（79）3965
諏訪バス（茅野）　0266（72）2151

連載

日本霊山紀行 36

伊吹山

1377メートル

浅野孝一

幾度か上下する東海道新幹線の車窓から眺めた山であった。眺めているだけでなかなか登る機会がないと考えていたが、突然登ることができた。

4月に二週間ばかり入院していたとき、見舞に来てくれた親友との間に伊吹山登山の話が出た。8月初旬であったが実行することができた。

荒ぶる神の宿ると言われている伊吹山は大きな山である。山腹の西方はセメント会社の石灰石鉱山があって、毎日山肌は壊されている。数十年前から見比べてみると、その崩れ方がずいぶん進行しているのが分かる。いずれ山の斜面は関東秩父の武甲山のようになるのではないかと考えられる。

さっそく伊吹山の故事来歴をたどってみる。『日本山嶽志』は「伊吹山（別名鵜吹山、異吹山、伊富貴山）近江國坂田郡美濃國揖斐郡ニ跨ル、坂田郡伊吹村大字上野ヨリ凡三十町（或云凡三里）揖斐郡春日村大字川合ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千五百四十五尺」。また『近江名跡志』には「日本七高山ノ一ナリ、山上ヨリ晴日ニハ駿河ノ富士山・越前ノ駒嶽ヲ遠スヘシ、上古日本武尊東夷ヲ征伐セラレ、帰路伊吹山ニ妖神アリト聞き給ヒ、山ニ登テ之ヲ征伐シ給フ、……伊吹山ノ南方ヲ寺ヶ嶽ト云フ、登路二十町餘アリ、土人云フ、役小角・僧行基ノ登山シテ修行スル地ナリト」。

何はともあれ伊吹山に登った。JR東海道本線近江長岡駅で下車した。バスの発車まで時間があったので登山口の三の宮神社までタクシーに乗った。そして三の宮神社裏手から三合目までは伊吹山ゴンドラに乗った。

ゴンドラ終点の三合目から広いスキー場の中を四合目まで、四合目から登山道に入った。ひと息ついた所は五合目で茶屋があった。山頂まで見通しのきく斜面のジグザグ道を多くの登山者が一列になって登ってゆくのが見える。

合目ごとに標識があり、ジグザグ道の八合目に金輪堂と呼ばれている休憩小屋があった。薄暗い堂内には石仏と仏壇がある。昼食をとってからまわりを見た。展望はあるが遠望はきかない。山の斜面は潅木帯で、夏草が咲き乱れている。刻の尾根上にも小さな小屋が見える。行道岩上の日輪観堂であった。

八合目から小さな岩場が続く。頂上には九合目にいる人々の姿が間近に見えてきた。眼下には関ヶ原一帯の山麓が広がってくるが、米原や琵琶湖方面はかすんでいて見えない。

人通りの激しい山頂周遊コースを右上に登った所が広い山頂で、伊吹山頂覚心堂があった。休憩茶屋の間を歩いた所に日本武尊の石像があった。

三角点は広い山頂の草原の一角にある伊吹山気象観測所（大正三年八月一日）の傍らにあった。

草原の山頂からは伊吹山の北方に連なる美濃や湖北地方の山々が見えたが、そ

人がいっぱいの伊吹山山頂の日本武尊石像

伊吹山付近略図

伊吹山山頂の御堂

12月20日～30日冬のバーゲンセール

ニッカズボン	90%OFF	¥930
フリース・オーバーミトン	90%OFF	¥410
ゴア・オーバーミトン	90%OFF	¥470
マウンテンセーター	90%OFF	¥940
ゴアテックス・ダブルヤッケ上下	70%OFF	¥13800
ゴアテックス・シングルヤッケ上下	50%OFF	¥26000
レディス・アンダーウェア各種	70～90%OFF	
各有名メーカー・フリース	50%OFF	

'97～'98NEWプラスチックブーツ

コブラック・バリオソフト ¥30800　ローバー・チベッタEX ¥45000
コブラック・クリマモンタナ ¥38400　ローバー・チベッタ ¥39500
スカルパ・ベガ ¥42300

営業時間12時～20時　吹田市内本町1-23-7　TEL06-319-0697

CAMP・HIKE・CLIMB
TOMY WALK

の果ては夏雲のなかに隠れていた。

山頂一帯の草原にはイブキの名を冠する植物が多く、その花をめぐって蝶の飛翔が多く見られた。山頂からドライブウェイ終点の山頂バス停までは、表登山道の倍以上の人で、一般観光客も多く歩くのが大変であった。

伊吹山は昔から薬草の産地として知られている。山全体に1250種の植物の生育が知られており、イブキと冠する植物は20種以上あると言われている。私たちはイブキトラノオやイブキジャコウソウ等の花を知っている。

山頂バス停からのお花畑遊歩道

江戸期より伊吹艾が日本全国に売り広められてきた。その艾を売っている絹が旧中山道柏原宿にある。

かつて山中には式内社の伊夫岐神社、伊吹山四院であった観音寺・弥高寺・太平寺・長尾寺、その他の寺院があったが、織田信長の浅井攻めでことごとく破壊されてしまったと伝えられる。

また、伊吹・比叡・比良・愛宕・神峰・金峰・葛城（高野）を本朝七高山と称している。

伊吹町内の伊吹には、かつて山頂にまつられてあったという、伊吹大神をまつる伊夫岐神社とヤマトタケルと白猪の像がある。

（平成9年8月2日歩く）

A参考タイム▽

三の宮神社・伊吹山ゴンドラのりば9・35—三合目ゴンドラ終点9・40—五合目茶屋10・58～11・09—八合目金輪堂12・30～53—伊吹山13・40～14・20—伊吹山頂バス停14・50

〈地形図▽2万5千＝関ヶ原・美束

〔この花・この草〕

ラカンカ（Siraitia grosvenorii）

ウリ科

仏教の修行を完成して阿羅漢（信りの境地）に達した者を阿羅漢（略して羅漢）といい、十八羅漢・五百羅漢等が有名ですが、この名を持つ生薬が近頃話題の「羅漢果」です。

山地の暗く湿った所に生える中国華南地方の多年生草質藤本。果実は、片手にすっぽり入る位の球・卵形で、絨毛に被われています。

成分にモモルディコサイドなどを含み、感冒・咳・喉の痛み・暑い時の口渇に、一日量9～16gを煎じて服用します。

主な甘味成分はテルペングリコシド配糖体で、この糖分は腸から吸収されずに排泄されてしまうので、糖度は砂糖の300倍以上なのにカロリーがほとんど0ということです。その一方、各種ビタミンやたくさん質・ミネラル群はバランスよく含まれています。

今から30年程前、糖尿病に効くとブームになったこともありますが、最近は色々な健康食品にも利用され、カロリー制限の必要な人の甘味料やのどあめ等にも使われています。

㊙

"登山・ハイキング・ウォーキング専門旅行社"

アミューズトラベルの海外歩き旅

～異国の街歩き、花や雄大な山々を眺めるハイキング、そして遥かなる頂きへ～

★マウントクックの麓、マウントクックリリーやマウンテンデイジーなど高山植物が咲き誇れる中を歩くニュージーランドハイキングの決定版！
マウントクック・フラワーハイキング 6日間
1/22発 208,000円・2/11発 218,000円

★全長54km、世界一美しい散歩道。牛等があふれる森、絶大な山々の景観を楽しみながら歩くニュージーランドトレッキング
ミルフォード・トレッキング 10日間 3/8発 458,000円

★ボルネオ島の南西キナバル山（4101m）に山中2泊でゆったり登頂するプラン
ボルネオ島・キナバル山登頂 6日間 2/6発 228,000円 催行決定

★アンナプルナ・ダウラギリなど8000mを越えてそびえる巨峰群の大パノラマを楽しむヒマラヤトレッキング
ヒマラヤ大展望 プーンヒル・トレッキング 8日間 3/11発 298,000円 催行決定

★シェルパ族の暮らしぶりやチェパポール峠から展望する世界最高峰エベレストやローツェ、アマダブラムなどの高峰群。これぞヒマラヤ！
エベレストゆったりトレッキングとホテルエベレストビュー 9日間
3/28発 368,000円

★アフリカ大陸最高峰をゆったり登頂とサファリを楽しむアフリカ満喫プラン
キリマンジャロゆったり登頂とサファリ 15日間 3/22発 588,000円

★最北端！アラスカの空の下、犬ぞりに乗り、オーロラを眺め、チェナ温泉に3泊する大自然満喫プラン
アラスカ・オーロラと犬ぞりの旅 6日間 3/5発 228,000円

★好評の"高橋恵山家、高橋恵一氏と歩く"シリーズ。世界遺産タスマニア島のクレイドル山国立公園をゆったりハイキング。 催行決定
タスマニア島・クレイドル山登頂&ハイキング 8日間 1/22発 428,000円

★好評の"高橋恵山家、高橋恵一氏と歩く"シリーズ。トンガリロ国立公園3泊のゆったりハイキング。またツアー中に高橋氏85歳の誕生日のお祝いも。
ニュージーランド北島の名峰登頂&ハイキング 8日間 3/13発 388,000円
☞他にもお得コースをご用意しております。また詳しい行程表もございますので、お問い合わせください。

"南国へ飛ぶ" 特別プラン

霧島韓国岳と開聞岳（往復航空機）
①1/17(土)~18(日)41,500円 ②2/12(水)~13(金)41,000円 ③3/7(土)~8(日)41,800円

英彦山と由布岳（往復航空機）
①1/31(土)~2/1(日)39,000円 ②2/21(土)~22(日)39,000円

阿蘇高岳と久住山（往復航空機）
①3/13(金)~14(土)40,000円 ②3/22(日)~23(月)41,000円 ③3/29(日)~30(月)41,000円

小笠原島・乳房山とホエールウォッチング 2/10(火)~16(月)178,000円

西表島縦走と於茂登岳 2/21(土)~24(火)128,000円

アミューズトラベル株式会社 ☎06-265-3303
運輸大臣登録旅行業第1366号/社団日本旅行業協会正会員 〒541大阪市中央区本町4-5-3本町三井ビル2号館

新ハイ例会・自然観察山行

双六岳から笠ヶ岳

鷲見守康

北アルプス

太平洋高気圧に勢いがなく、梅雨明けの一週間後に台風が本土に上陸するという異例な夏。その蒸みを引きずったままさらに一週間が過ぎた8月上旬、霊の多い早咲の新穂高バスターミナルは、登山者の姿ばかりであった。

山行参加予定の19人が全員揃い、簡単な自己紹介の後、左俣林道をわさび平に向かう。道沿いの林縁に、ユキノシタ科のエゾアジサイ・ノリウツギが多く、時どき背丈を超えそうなオオウバユリ（ユリ科）がクリーム色の花を咲かせてすくっと立っている。花もいいのだが、サワグルミ（クルミ科）・トチノキ（トチノキ科）・カツラ（カツラ科）など、このあたりの川辺林がきれいだ。オノエヤナギ（ヤナギ科）・サワラ・クロベ（ヒノキ科）も混じっている。

花は少しずつ増え、ソバナ・ヤマホタルブクロ（キキョウ科）・クガイソウ（ゴマノハグサ科）・コキンレイカ（ハクサンオミナエシ・オミナエシ科）・タマガワホトトギス（ユリ科）など渓山の花たちが満開で、できれば散策気分でゆったり歩きたいと思う。なにせ、コキンレイカは何年かぶりであり、タマガワホトトギスにいたってはやっと二回目の対面である。

わさび平に近づくと、樹齢数百年は数えようかというブナ林に入り、気持ちが高揚してくる。「ギョロン、ツィー」と一声ずつ区切るマミジロ（ヒタキ科）のさわやかなさえずりが聞こえる。こういう林の中では、ともすると子どものように無邪気にはしゃいでしまうことがあるので、山行を共にしたことのある職場の同僚から、職場の愚と山を歩いているときの顔とはまるで違う、とからかわれたことがある。きょうは自分の中のそんな子どもの部分を押し殺して歩く。

双六小屋と後方に鷲羽岳を見る

笠新道登山口を見て、やがてわさび平小屋に到着。予約しておいた朝食をとり、昼食の弁当を貰って再び出発。

ブナ林を抜け左俣林道と分かれ、橋のたもとから小池新道を登る。左手岩壁に石英斑岩の柱状節理が見られる。小池新道はしばしば岩塊や角礫の上を歩く。湿度が高く蒸し暑い。

日曜日のせいか、下山して来る登山者と頻繁にすれ違う。「登り優先」の原則で、道を譲ってくれることが多いのだが「すみません。19人です」と告げると、少数ではあるが、表情の歪む人たちもいる。確かに20人近いパーティというのは、アルプスでは大集団なので、迷惑がられることがあってもしかたがない。迷惑がられるばかりではなく、第一、自然観察にしても全員がまともにできはしないのだ。そんな自己矛盾をかかえたままリーダーを続けている自分がふとおかしくなったりする。ともかく、傍若無人な集団にだけはなるまい、と念じる。

荒生のない岩塊原で休憩をとる。蒸し暑さに全員がまいっているようだ。私もだいぶバテている。もともと下界に気がかりなことを残したまま入山してきたため、心は天気と同じようにすっきりしていない。精神的に萎えてしまっているのだ。

抜戸沢を越え、シシウドが原一帯はウラジロタデ（タデ科）が大きな群落をつくっている。大ノマ乗越との分岐点から直角に折れて進むと、熊の踊り場に出て、休憩。喉の乾きが激しい。

この山域は北アルプスでも両部に位置し、今年は積雪も少なかったから、雪渓や雪田の残雪でつくる「かき氷」を味わえる楽みは薄い。となれば、本物のかき氷を期待するしかないわけで、「鏡平山荘のかき氷を食べましょう」とパーティメンバーと自分自身を励ます。

熊の踊り場からはあっけなく鏡平に到着した。天気さえ良ければ、槍ヶ岳遠峰を水面に映して絶好の撮影ポイントとなる鏡平ノ池も、カメラマンの姿はまばらだ。

鏡平山荘の広場でザックを下ろし、昼食休憩とする。北の方角に、槍ヶ岳の西鎌尾根に続く稜線の峰々が壁のようにそびえ立っている。双六岳はまだ見えない。稜線上に出てからだ。

休憩を終え、ひょうたん池の橋を渡り、いよいよ弓折岳稜線への登りになった。しばらく雪崩斜面のダケカンバ林を行く。樹木が少なくなった頃、背後に頂上部は雲に包まれてはいるものの、槍ヶ岳・穂高連峰が一望できるようになった。足元は明るいお花畑で、マルバダケブキ・オタカラコウ（キク科）・ハクサンボウフウ（ユリ科）・ヤマトリカブト（キンポウゲ科）などの咲く高茎広葉草原をトラバースして行く。槍ヶ岳の山頂部にまとわりついている雲が時々薄くなり、瞬間的に穂先が黒々と現れると、パーティは歩みを止

めてざわめき歓声をあげる。

稜線に飛び出し、己折岳に至ると北方向にようやく双六岳が見えた。長い平頂のたおやかな山容だ。

アルプスの尾根歩きとなって、パーティの活気は勢いを増し、足並みも軽やかになったようだ。雪田やシナノキンバイ・ハクサンイチゲ（キンポウゲ科）などのお花畑を楽しみながら進むと、やがて、双六岳と樅沢岳との広いコルに双六小屋と点々と並ぶカラフルなテント場を見出す。双六小屋の背後にそびえるのは、鷲羽岳（注）だ。

午後2時10分、双六小屋に到着。双六小屋は、北アルプスでは名のある山小屋で、さすがに設備がいい。かなりの混雑なのだが、24人用の部屋を指宿し、宿泊料金も一人500円程度割り引いてくれた。

着替えをすませると、夕食まで部屋で静かに横になる人、おしゃべりに興ずる人、そして広場のベンチで寝を始める人と、思い思いの時を過ごす。寝の中に混じり話に耳を傾けていると、いつもそうだが、新ハイ会員の山歴の豊富さには驚かされる。私などよりリーダーの資格十分と思える人がいくらでもいるのだ。

夕食を終え、早い就寝となって、ひとしきりいびきのことが話題となる。いびきと言えば、仙丈ヶ岳の馬の背ヒュッテや燕岳の燕山荘で、他人の猛烈ないびきのため一睡もできなかった経験がある。メンバーの中には、アイマスクと耳栓を持参するなど、ぬかりない人もいたが、山小屋泊に耳栓は必携品と言えるのかも知れない。

二日目。あたりはガスが立ちこめ、風も強い。予定通り、ザックを小屋に預け身軽な出で立ちで双六岳山頂をめざす。平頂の双六岳の頂上部は広々として、砕石を敷き詰めたような景色が四方に展開している。おそらく、周氷河作用による線条構造土なのだろうが、どうも確信がもてない。1時間ほどで山頂に到着。ガスで何も見えず、各自登頂記念の写真を撮ってそそくさと下山。

双六小屋で改めて身支度を整え、笠ヶ岳に向け出立。明日にかけて天候は下り坂のため、笠ヶ岳山荘に到着後、きょうのうちに山頂を踏むことと予定を変更する。

低山登山～本格トレッキングまで、
登山用品のことならおまかせ下さい。
新ハイの会員さまに割引します。
山とスキーのヨシミ
〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(772)7231
JR天王寺駅北出口右へ歩道橋渡ってスグ

きょうの行程は尾根歩きの縦走である。メンバーの様子は特に変わりもなく、リーダーとしては全員が元気なのが何よりだ。

己折岳からダケカンバの立つ大ノマ乗越を越える。進むにつれガスも切れて、時どきわずかに晴れ間がのぞき、笠ヶ岳の全容は隠されているものの、しなやかで優美な稜線が南北にのびている。シナノキンバイやミヤマキンポウゲ（キンポウゲ科）のきらめくような黄色と白いコバイケイソウ（ユリ科）とがつくりだす雰囲気がとてもいい。

シナノキンバイの群落

秩父平に至り、昼食休憩をとる。きょうのうちは天気は何とか持ちそうだ。

秩父平のお花畑で、ライチョウの親子に遭遇。お花畑を過ぎるとガレの登りになった。登りの中途で見下ろした秩父沢と岩稜の景観はかなりの迫力である。登りがゆるやかになるとハイマツ帯になり、所どころホシガラスの食べ残したマツボックリが落ちていた。登りきった小広場で休憩。

笠ヶ岳は依然としてガスのなかだが、笠ヶ岳への稜線は両へきれいにのびている。メンバーの中には、7月例会山行で歩いた薬師岳の姿を、ガスの切れた北の虚空に瞬時目にした人もいた。

抜戸岳は西側斜面を横切って行く。東側は急峻で、いわゆる非対称山稜なのだが、日本アルプスなど、わが国の高山は東が荒々しい崖状で、西側は長いゆるやかな斜面を形成している。この西側の長大斜面をルートとして歩けることが、わが国に縦走という登山形態を発達させた理由の一つとも言われている。

非対称山稜がもっともあざやかな山岳は、私の知るかぎりでは白馬三山だが、昨年、後立山連峰を歩いたとき、鹿島槍ヶ岳の非対称山稜の美しさに息をのんだものであった。

東側の岩壁の壮絶さに目を奪われながら進んでいると、突然、崖の真っただ中に大きな黒い塊が動いた。カモシカだった。パーティの悲鳴にも似た歓声を受け、カモシカはゆっくりとくだっていった。

まもなく、笠新道との分岐点に到着。眼下はカール壁にシナノキンバイの見事な群落を抱いた広大なお花畑である。カール壁の岩場を短く電光型に下降して登山道が刻まれており、その道を目で追っていくと、カール底には点々と登山者の姿があった。

巨岩がごっくりと割れた抜戸岩をくぐり抜け、コルから登り返すとテント指定地に出た。山荘はすぐそこなのだが、累々と巨岩の塊が続く斜面はけっこうしんどい。

小笠のコルに建つ笠ヶ岳山荘に宿泊の手続きをすませると、ザックを置き空身で岩が累のように敷き詰められた道をさらに進む。15分ほどでたどり着いた山頂

は、あたり一面乳白色の世界で何も見えなかった。

笠ヶ岳山荘に古い建物でトイレも少なく、設備面では見劣りするが、食事はおいしく、若い従業員の応対も快い。

夕食までの2時間ほど、私たちは二階の大部屋に陣取り、ビールなど口にしながら山の話などに花を咲かせた。夜、笠ヶ岳は嵐のように激しい風雨であった。

三日目。雨具をつけ、ガスのなかを出発。笠新道との分岐点まで戻る。雨が降りだして休憩もままならず、カール盤の岩場を下降する。群落をつくっているシナノキンバイの株の一つ一つがはつらつとしており、花冠も心なしか大きく感じる。ペンキマークを拾いながら、不安定な砕石のくだりを慎重に進む。やがて大きな露岩帯となり、あちこちの溝は川のようであった。

雨が激しくなり、休憩をとっても立ちつくすしかない。「きょうは全員が無事に下山することだけに専念しよう」と考える。

杓子平が終わると、笠新道の急傾なくだりになった。ジグザグとひたすらくだる。時どき、尻もちをつくような形でこけそうになる。雨で道が滑りやすくなっているせいでもあるのだが、そもそも私はくだりではバランス感覚が悪いようだ。この条件下では、後に続くメンバーも悪戦苦闘しているようで、足を痛めた人、登山道からやぶへ転落した人などもいた。

まもなく、針葉樹林帯に入り、ほっとする。標高1700m付近からブナが姿を現し、やがてブナとミズナラの原生林になった。

登山道沿いで次々とブナの大木に出会い、私はうれしくてしようがない。大木にはそれぞれに存在感があるのだが、とりわけブナの大木は生き物としての息吹を感じるのだ。

歴史の深みから届けられる声なき声なのか、そうしたものを森の霊気というのかも知れない。

雨はなおも降り続き、4時間半を要して左俣谷林道に出た。

（平成9年8月3日～5日歩く）

（注）山行中は、三俣蓮華岳と鷲羽岳でした。

◇参考タイム◇

一日目　新穂高バスターミナル5・00（集合）5・15―ワサビ平小屋6・35（朝食）7・00―鏡平分岐点9・40～55―鏡平小屋11・00（昼食）11・45―弓折岳12・45―双六小屋14・10（泊）

二日目　双六小屋5・50―双六岳6・15～45―双六小屋7・45～8・00―大ノマ乗越9・45―秋父平11・10（昼食）11・45―笠新道分岐13・35―笠ヶ岳山荘14・20～35―笠ヶ岳14・45～15・00―笠ヶ岳山荘15・15（泊）

三日目　笠ヶ岳山荘5・30―笠新道分岐6・20―杓子平7・15―笠新道登山口10・00（解散）

＜地形図＞

昭文社＝「5上高地・槍・穂高」

やはり関西の名山

武奈ヶ岳

比良

松田敏男

比良山にスキー場ができる以前の姿を、私は知らない。山上の湿原、八雲ヶ原がスキー場の開設に伴い、埋め立てられたというニュースを子どもの頃に聞いて、たいへん悲しくなったことは記憶にある。

後年、1987年にスキー場拡張反対の運動に参加したこともあった。しかし一方では、リフトに乗ったこともあれば、スキー場を利用する側にも立っている。割り切ることなどできないのが自然と人間との関係なのかも知れないが、やはり湿原を土で埋めた事実は、今でも悲しい。

武奈ヶ岳には、これまで九回登っている。この数は南アルプスの駒津峰と並んで最も多い。私はリフトを利用して登ったことは一度もないが、一般の人でも簡単に登れる山だから頂上付近はごった返していることがある。そんな時はまっすぐ前を見て、人にぶつからないようにだけ注意して、頂上を通過することになる。

しかし今回の山行はこれまでにない爽快なもので、武奈ヶ岳の印象を強くした。それは正月明けに頂上でテントを張るという情態が、成功の第一歩だったのだ。これには14年前の1983年の1月4日に、日帰りで武奈ヶ岳に登った時のすばらしい印象が基本にあった。頂上から南・北アルプスを見たのである。年末年始で工場などが休業していて、空気の透明度を高くしたのではないか。頂上にて、竹生島・伊吹山・鈴鹿の雲仙山など、断定できる山や琵琶湖の島を手がかりに、スケッチして帰った。山の形から、おおよそ見当がついたけれども、家で地図帳を広げて、ものさしで角度を測り、正しいことを確信した。直線距離にして、200～220キロ離れた南・北アルプス。そ

西南稜より武奈ヶ岳

の光景をもう一度、それも頂上でテントを張ることにより、見える確率の高い早朝をねらっての山行だった。

三が日が過ぎた1月4日の朝、保田さんと西村さんと私の三人は京都駅に集合して、お馴染みの湖西線に乗る。時間が早くて、スキー客は箱館山行きの人たちだけだ。今年は5日が日曜日なので、年始の休みが最も長い年なのだ。三日間のそれぞれの行事を済ませたあと、これを見逃すわけにはいかないと、集まった次第である。だからもう電車の中で、すでに私たち三人はハイテンションとなっていた。近江高島駅でバスに乗り換え、これまたお馴染みの終点、畑まで乗る。

以前私たちの会山行の車が、凍てついた坂道をスリップして一回転した所を登る。集落を抜けて地蔵峠への登山道に入ると、もう静かな雪の道。杉林に入ればすがすがしい新年登山の喜びに満たされる。今年も元気に山に始まった。感謝、感謝である。一泊だけだから、食料もそんなに重くなく、快適だ。

地蔵峠に着き、主稜線にのった。これからはこの稜線を南下して、ひたすらテント場予定の武奈ヶ岳をめざすのみだ。少し稜線を東にはずれる所からは、黒い杉の森を山頂に載せた釣瓶岳のやさしい三角錐が見えていた。再び稜線の上に出れば、西側の朽木の谷から冷たい風が吹き上げていた。でも上々の天気だから、ザックを下ろして休む時もすがすがしいくらいだ。少々のラッセルは覚悟していたが、よく踏まれていて、楽に登れる。

釣瓶岳の頂上は大きな数本の杉の下にあって、どこか懐かしさの漂う所だ。ゆっくり昼食とする。少し雪が舞い始めているので、ツエルトを広げて、三人でその端にすわって、真ん中に空間をつくる。ガスの火をつければもうそこは別天地。温かくて身も心もゆったりとしながら、ラーメンをつくる。いつものようにドリップコーヒーもたてて、近郊の雪山の良さを存分に味わった。

ツエルトをとれば、寒くてうら寂しい頂上に放り出されて我に返ることになったが、温かい食べもの、飲みもので体は満たされているから、ザックをかつげば、またルンルン気分でいざ出発だ。少し雪が舞っている空を見上げて、明日の朝は晴れますようにと祈りながら、いったん細川越までくだる。

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ！
登山靴のことならお任せ下さい。
（定休・火曜日）
〒604 京都市中京区丸太町通鴨川東入
☎（075）211-5768
FAX（075）231-0318
山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

さあここからは北稜の登り。今回の山行の一日目のハイライトだ。雪山の醍醐味を知る場所だ。「森林限界を抜けるぞ」と叫びながら、樹林帯から雪のササ原に出た。北稜はササの丈が高いので、雪稜とは言いがたいが、気分はどんどんハイテンションとなる。

狐の足跡を先途にして北稜を登りつめると、頂上直下に先客のテントが一張、風を篠みで避ける、なかなかの好位置に張ってあった。そしてだれもいない頂上に着いた。視界はほとんどないが、本日はここまでと思うと、楽しい。

さっそくテントを張る位置を決めようと、頂上付近を左へ右へ捜してみるが、風よけになる地形もなく、また雪が思いのほか少なくて、少々迷ってしまう。こうなれば、いちばん上の風をまともに受ける所に張ってしまおうと決める。テントを開ければ、アルプスがまともに見えることを思い描いて。フライをしっかり引っ張って、テントの本体にくっつかないようにした。三人用テントに三人というのは少し窮屈なので、要らない荷物を入れたザックにカバーをかけて、ツエルトでくるんでフライとテント本体の間に置いた。

アルコールが体をめぐれば、もうこの地は我らだけの別天地。最高の気分だ。

武奈ヶ岳付近略図

下界の明かりが見え始め、昼もまたたき、明日への期待感が高まった。

翌朝は快晴だった。いちばん左に白山が、その名の通り白く大きく、朝日に輝き、その右に能郡白山が白山を小さくした形で見え、その上に北アルプスの連山。槍・穂高が凛々としたスカイラインを描き、たおやかな形の乗鞍岳、白に黒のコントラストのある御嶽、その右には手前に大きく伊吹山が盛り上がっている。伊吹山に隠れながらも右へ中央アルプスの一部、そして仙丈ヶ岳・北岳・間ノ岳・農鳥岳・塩見岳と続いている。少し黒めの大きな恵那山をはさみ、右へ赤石岳と聖岳。そして霊仙山から逆光ににぶく光る御池岳や藤原岳など鈴鹿連山の大きな山脈。

14年前に見たと同じ光景を、また目の前にすることができた。痛快極まりないこの頂上。やはり関西の名山。われらが武奈ヶ岳だ。

丹波高原にも目を向ける余裕ができた。ひときわ高いのが百里ヶ岳。手前にはシラクラ、左へ峰床山・岩子山。

朝食を済ませてテントをたむ頃、もう早出の登山者がひとり、登ってこられた。西南稜を快適にくだる。ワサビ峠から口の深谷におりる頃には、一、二のパーティとすれ違う。もうこの頃には遠望がきかなくなっていた。急速に雲が広がり、暗い冬空にまた戻っていく。ほんのひとときの快晴を、私たち三人は共有できたのだ。

金糞峠をくだり始めると、もうこの山行は終わりも同然。あとは体の重さでしぜんに下へとおりていく感じだ。比良駅の手前で雨になった。

ホームで電車を待つ間、雲の中にかくれた比良山を見つめ、ただただ満足感に浸った。車中では、吹雪となった車窓の景色が、いちだんと山旅に風情を添えた。

（平成9年1月4日～5日歩く）

△コースタイム▽
畑（5時間30分）武奈ヶ岳（5時間）比良駅

△地形図▽昭文社「46比良山系」

冬でも暖かい瀬戸内の島々

大三島・大崎下島・大崎上島

多摩雪雄

瀬戸内海

(一) 大三島

村上水軍の守護神、全国の大山祇神社一万余社の総本山がこの大三島に鎮座する。我々山屋にとっては大山祇神社と木花之開耶姫は尊崇篤い神である。その総本社に詣でる日がついにきた。

平成八年1月中旬、JR呉線忠海駅から港に向かうと、頂上に雪が見える尖った岩山の忠海富士に登高欲が頭をもたげる。しかし、きょうは四国各山地に渡る第一日目なのでスケジュールは守らなければなるまい。

駅から15分で忠海港に着く。大三島の盛港には高速船で30分。島のバスは日に三便。第一便が出た35分後の8時05分に着岸するので、ジャンボと中型のタクシーを予約しておいた。

「センセ、どこ行くの」「同乗のSLに間に合わせ」ワシガトウサンだ」ジャンボの女性から走り出した先頭車に声がかかる。

"そうか、センセはやっぱり私たちのおとうさんなのだ"と、思ったそうだ。

舗装車道は北面から山頂の西斜面を三回転すると、わずか25分で山頂直下の駐車場に着いた。そこには自然研究路の案内板があり、大山祇神社から2・5キロ、1時間30分とある。ここからの眺めもいい。トイレ棟を右奥に見て一段上の頂上まで10分。

鷲ヶ頭山2等三角点標石（486・5

鷲ヶ頭山より安神山の稜線（右）

2m）は、南国の樹草の植生が見られる公園風に整備された、小広い頂上の中央の大樹の直面にある。背後の小さいササの円峰に登るまでもなく、芸予諸島の最高峰として瀬戸内海の重要展点でもある360度の大好望は、壮麗な表現だが、"言葉に尽しがたい"。

ベンチもあり、眺望を十分に堪能したのち、9時20分頂上をあとにする。無風。全天薄い高層雲、高曇。薄日も差して暖かく、気温9℃。

環境庁と愛媛県が設置した表示板が、頂上の「Mo1瀬戸内海の誕生」から始まって、南海放送、NHK大三島TVの脇に、島の植生、鳥類と続き、図記されていない遊歩道が頂上を西の安神山へ導く。そのコンクリートの狭い道は、急な階段をくだって二度車道を突っ切るとあとは地道となって、40分後に「Mo5鳥帽子岩」に出る。後ろから廻りこんで尖頭に立つこともできる。

この付近は累々と火成岩が山肌をおおっていて、冬枯れした雑木の間を左右の眺めを常に意識しつつ、ゆっくりくだって

11時10分、安神山4等三角点（267・0m）の冬枯れの小丸に着く。標石は点の記と位置が逆で、くだって来た左手の草むらに小さい丸太の鳥居と石祠があり、右側の草を踏みしだくと龍王大権現の祭壇があって、その左手にあった。

ここから見下ろす南西方の台本川両岸の緑帯が海からまっすぐに平地をよぎり、鷲ヶ頭山真南の台ダムが大きく見下ろされるが、この山体の南面は植生がなく、点々と黒い枯れ木が目立っている。八年前、人工ダムの工事人の焚火により、二日半燃え続けて全山丸焼けとなった。鷲ヶ頭山からの見晴らしが良くなったのを喜ぶべきか、破壊された自然を憂えるべきか。

安神山から道は向きを変えて北尾根をおりるようになり、苑地を抜けて国内の国宝、重文級の甲冑の約八割が展示されているという国宝館に出て、日本唯一の女性鎧も見た。海事博物館では珍しい魚貝類の標本中、鯨の雄のシンボルの巨大さに目を見張り、ガンギエイの仔魚は想像上の火星人そのものであった。

大山祇神社境内諸施設は、本殿、宝物印塔始め、ほとんどが重文で、神門前の大クスノキは樹齢二六〇〇年の天然記念物である。1時間30分拝観して12時30分神域をあとにする。

抜けてゆく町中には食堂やマーケットもあり、15分で達した宮浦港から快速船1時間で四国の今治港に着く。今治城・国分寺塔跡・綱敷天満神社・志島ヶ頂松林等の名所古跡をめぐって、北条市の旅館・太田屋に第一夜を過ごした。

（平成8年1月中旬歩く）

△コースタイム▽文中を参照

△地形図▽2万5千＝木津・水江

大三島タクシー 0897（82）0136

割烹旅館・太田屋 0899（33）0021

(二) 大崎下島

竹原から高速船で40分、大崎下島大長港に着いたのは平成九年2月初旬の16時07分。

船中で上蒲刈の女性たちから島の様子を訊いたり、沖浦のオババと話し込んだりする。「この町の人らは何を生業にしているの」「オキュータは町ではないの、いなかだわ」とはいえ、郵便局もあれば円妙寺という名刹もある。

下島東端の御手洗港が藩政時代から栄えた。七郷が遠浦行の途路、立ち寄った家や軒を連ねる遊女屋。そのうちの青胡子屋は史跡として今も白壁を巨きく見せている。また、潮の干満により接岸できる石段は、オチョロ船で客引きをする女たちの哀愁の場でもあった。

昨年の19号台風で御手洗は大被害を受け、屋根の新しい天満宮や蛭子神社、その他を、町の人が何げなく話しかけてきて1時間余も案内してくれた。この日は、小長港前の旅館・里に泊まる。

この島にはタクシーがなく、翌朝宿が手配してくれたジャンボで二往復する。役場から送られてきた1万分之1図には、久比から南行する岸道が頂上まで通じ、一峰寺公園として「青く澄んだ海と瀬戸の多島美が一望出来る」と記した立派なパンフレットによって、小長から20分、二台目が頂上駐車場に着いたのは8時20分。そこには八角形の大きな展望休憩舎が新設され、少し後方には立派なトイレ棟もあった。

丸太段を登って行くと、一峰山水分神社が平成八年10月に建立され、左横一段上には、449・33㍍の一峰寺山1等三角点標石は理窟のない綺麗な面をわずかに地表上に現していた。磁北は0度、規定通りに埋定されている点名御手洗島は、平成五年3月更新された点の記の一峰寺と二角点。その他の配置は当然のことながら異なっているが、図上に表現されていない頂上までの車道の記載はある。

「きょうはぬくといじゃねえか」と言われるまでもなく、数日前の降雪が残るとはいえ、無風。雲無しの快晴。気温3℃ながら暖かい。

東西のゆるやかな尾根には管理歩道が通じ、展望東屋の一本柱を囲むようにベンチが配置され、枯れ枯れの木立とはいえやわらかい風光漂う一峰寺公園の憩いは、永く皆の心を潤すであろう。

頂上から高差30㍍位、歩程100㍍ほどくだった八角形の休憩舎の脇から9時ちょうどに北東への尾根をくだりだした下山隊は、運転手のオッサンのみかん山で、道はあるとのことだったが、やはり枯れ枝や草むらは払わねばならなかったとのこと。

私は、前年10月に大腿骨頭部を骨折して入院2ヶ月、目下リハビリ中で、まだ山歩きは無理なのでオッサンの車で下山し、御手洗の名所古跡の見物と由来を聞くことができた。

オッサンはこの島の代表的人物で、あちこちに土地や工場を持ち、大きな車庫の二階には古物商顔負けの逸品が山積みされていた。

（平成9年2月上旬歩く）

△コースタイム▽文中を参照
△地形図▽2万5千＝大長・大浜
旅館・里　0846 6（6）3953

㈢　大崎上島

小長港から船で15分、真向かいの上島明石港には13時45分に着く。ここのタクシーは一台だけなので、ジャンボが二～三台ある木江の会社に予約しておいたので、すぐに出発できた。

この島もバイパスや広い新車道ができて、上島トンネルを出た北口すぐ先から新道に入って、独標273㍍をぐるりと廻り、独標317㍍の東で図示の車道に合し、わずか10分で頂上の第二駐車場に着く。

本郷～原下～山尻と廻って25分かかる予定であったが、TV塔三基の西と中央の中間が広い第二駐車場であった。

石鎚神社・薬師堂参道案内図と、神峰山登山道指標と、展望台まで150㍍・10分とある指示板に従って、ホームTV塔脇から尾根筋をゆっくりたどる。

一峰寺山頂より東への管理歩道

石鎚神社遥拝堂は住居と隣接していて、前面はコンクリート製の大きな展望台もある広場となっている。案内板に五百羅漢とあるのは数体の地蔵尊のことで、車道から登ってくる破線道が合した地点にあり、清潔なトイレ棟もある。

なお10分で神峰山に着く。2等三角点（点名大崎・452・6㍍）の標石は、光神寺薬師堂の前面に遮蔽のない綺麗な姿を長く現していて、古い鐘楼と樫の古木の中間に位置している。

鉄筋コンクリートの立派な堂宇は平成五年12月建立され、薬師様は八授と墨書した大きな男根を待らせていた。

いこいの森、伝説の山頂から望む多島美は瀬戸内海随一の景観を誇り、小島の緑と紺碧の海の見事なコントラストは、しばし忘我の境に遊ぶ。というのは、展望台からの眺めで、ゆっくり休んだ一行が北東への稜道をくだって行くのを見送ったのが14時50分。

私は、待たせてある車で大崎町の古刹西光寺や、大正三年に船大工が建てたという木江町の木造五階家、そして天満港に軒を連ねる古い造りの遊女屋の路地をそぞろ歩いて、港近くの大通りに出ると、薬師の展望台にいた若い男女の外国人多数に逢う。明日は島一周の駅伝があり、毎年多数の外国人が訪れるという。

下島でも上島でも、逢う人ごとに柑橘類を手渡してくれ、声をかけてくれる。また乗船時に券売場で売り物のみかんを数袋手渡してくれたりもした。沖浦のみかんが一番うまく、広島にも出荷しているという。

16時に下山隊と渡船待合所で合流し、この日は三原から笠岡に出て泊まる。

（平成9年2月上旬歩く）

△コースタイム▽文中を参照
△地形図▽2万5千＝木江
藤原タクシー　0846 6（4）2626
三松屋旅館　0865（62）2411

連載

比良を歩く ②

小女郎峠から蓬莱山

秦　康夫

比良山系の主稜線と、主な登山ルートを一通り歩いてみようと南の端、霊仙山からスタートしたシリーズの第二回。前号は小女郎峠まで来たので、今号は安曇川側の坂下から小女郎峠を経て、南比良の盟主・蓬莱山へ登り、キタダカ谷道を琵琶湖側へくだることにした。

新装なったJR京都駅舎だが、ここは全然変わっていない、いつもの3番ホーム。湖西線を堅田駅で降り、総勢10名が二台のタクシーに分乗して、登山口の坂下に向かう。

通常は、堅田駅からの江若交通バスか、出町柳駅からの京都バスを利用するのだが、昨年、安曇川沿いの国道367号線に新道が開通してバスがトンネルを通るようになり、現在「坂下」のバス停がないので、やむを得ずタクシーとなった。料金は約5000円で、五人乗れば一人あたり1000円。堅田からのバス代、一人850円とあまり変わらない。バスでは、新道の三つ目のトンネルを出た所の「下坂下」から国道を少し引き返すことになる（なお、江若交通バスにロータリー工事の完了次第、旧道の元の路線に戻す予定）。

タクシーは堅田駅から30分弱で旧バス停の坂下に着いた。安曇川に架かる橋を渡り、祥昌寺の境内を借りて支度を整える。本日の降水確率は50％。気象情報通り、いつ降りだしてもおかしくない曇天が広がり、雨具は出しやすいようにザックの上のほうに移動させておく。

9時15分スタート。しばらくは、やたらと枯れ木の多い杉と檜の植林が続く。右に谷におりる道が現れるが、目印のテープに従い左に進む。薄暗い植林帯の中に、鮮やかな朱紅色の花をつけるフシグロセンノウが、目を喜ばせてくれる。

北に向かっていた道が東に向きを変えると広葉樹林となり、葉の色合いがにわかに明るくなってまるで春山の趣。うっとおしい気分が一気に晴れる。

蓬莱山山頂の「彼岸の鏡」

右に小女郎池への道標がある所で小休止。これを見落としてまっすぐ行くとヘク谷におりてしまう。数年前間違えたことのあるコースだ。

小女郎池へは右に折れ、雑草を踏んでひたすら登る。奥のものらしい足跡が続いている。道がヤカ谷側に回り込むと展望が開け、谷を隔てて南の尾根が見えてきた。倒木が道をふさいだりしてはいるが、このあたりなかなか気分のいいコースである。

大きな杉が現れると間もなく植林帯に入り、突然、急なジグザグの登りが始まった。杉や檜に色とりどりのポリエチレン・テープが巻きつけてあり、休憩の時、これは何の印かと話題になったが、どうも熊や鹿に樹皮をはがされるのを、防ぐためのものようだ。

いまが盛りのコウヤボウキの花が目につくようになると、やっと急坂の植林帯を抜け出し尾根筋になった。左の谷は、何度か沢歩きを楽しんだヘク谷である。右に見える稜線は、このシリーズの前回歩いたキッケ山から権現山のあたりか。道はなだらかな登りくだりを繰り返して両に向かう。左方には、蓬莱山の頂上付近が姿を現してきた。

ササ原に突入。背の丈ほどもあるササをかき分けて、露に濡れながら足さぐりでそろりそろりと進む。ふり返ると、女性たちはいつの間にか、手ぬぐいなどでほおかぶりし、大事な顔のプロテクトを怠らない。少し離れると前の人が見えなくなるので、はぐれないように全員が数珠つなぎになって、わいわい・がやがや・ざわざわ（これはササの音）と、ササ歩きもなかなか楽しいものだ。

ササがミヤコザザほどの低さになってきて、小女郎池は近い、と思うとまた背丈ほどの高さになる。だがこれは少しの間で、11時10分ごろ池の南の端に出た。きょうはほかに人がいないせいもあって、いつもにもまして静かな雰囲気である。ここで標高1060㍍。約670㍍ほど登って来たことになる。

美青年に化身した池の主の大蛇を葬って、池に入ったというお孝女伝説（池名の由来になっている）で知られる小女郎池は、雨乞いの池でもあるようだが、きょうのところは雨は願い下げとしておきたい。

ゆっくりと休憩後、小女郎峠を経ていよいよ蓬莱山への急登が始まる。クマザサに覆じる花弁を閉じたリンドウと、時おり見かける野仏に励まされて、12時ジャスト、やっとたどり着いた山頂は四面がス。登山リフトの機械音が静寂を際だたせるなか、わずかに堂満岳から武奈ヶ岳方面が、ガスを通してぼんやり見える。

広い山頂では、供養塔の横にお地蔵様が九体、赤いよだれ掛け姿でわれわれを迎えてくれるが、お天気の神様のほうは一向に歓迎の色を見せない。石組みの塔になっている「彼岸の鏡」で記念撮影を

したが、これを鳴らせば晴れる、との説を唱える人がいて、交代で鳴らしてみた。震動が風を呼んで、ガスも少しは薄くなるかも知れない。方位盤によると、若狭湾・白山・伊吹山・鈴鹿山脈が一望のもとらしい。残念。

展望はあきらめて、1等三角点（1174㍍）から少しくだった所にある「山の神休憩所」を借りて昼食をとることにした。20人くらいは食事のできるきれいなお堂である。

中には守護神の比良大神がまつってあり、山行の安全を祈願して参拝。粗いノミ跡がくっきりした、鉈彫り（円少彫りというそうだ）の木像もケースに納まっている。高さは1㍍ほどだが、顔の表情がまことになごやかで、ちょうど大相撲の解説でおなじみの尾車親方（元大関琴風）そっくりであるのもおもしろい。

ゆっくり食事をして時間をつぶすが天候はいっこうに好転せず、13時10分ごろ出発。リフトの南側、グラス・スキー場の中をくだり始めた。ガスは先ほどより濃くなって「雲のなかの散歩」の雰囲気であるが、前を歩く人の姿がすぐ隠れてしまうので、離れないように声をかけあったり笛を吹いたりして、一団となって進む。笹平のフィールド・アスレチックやアーチェリー場も、日頃の喧噪がうそのように人影もまばらである。

打見山頂上までは行かず、リフトの中間あたり、ゴーカートの遊び場の横から、クロトノハゲ方面への表示に従って右へくだる道に入る。

天命水と名づけられた水場があり、ゴンドラ駅展望台からの道がおりて来ている。ゴンドラの下をくぐるあたり、まだ青くて小さい栗のイガがたくさん落ちていた。風も相当吹いたようだ。

「まごころの茶」という絶好の休憩場所に出た。芝生もある。あいにくの展望だがここでゆっくり休憩。一服すると、どこからか冷凍グレープフルーツや、ようかん・アメなどがまわってくるのはいつもの通り。ともすれば休憩時間が長くなり過ぎるのが、このグループの欠点である。山頂の休憩所にあったのと同じ表情の木像が、六角形の小さなお堂に納まって、にこやかな笑顔をこちらに向けている。

ここから10分ほどくだった所が花崗岩のクロトノハゲ。前面に広がるはずの琵琶湖は、薄いガスを通してぼんやりとかすみ、北の堂満岳・釈迦岳方面も展望ゼロだ。

早々に下山することにして、急な勾配のキタダカ谷道を慎重にくだる。植林が現れると間もなく天狗杉。大きな杉の木が三本ある。ここまでくればひと安心だが、まだ先は長い。1時間半ほどかかって、予定通り16時過ぎにJR志賀駅に到着した。

展望のきかなかったのが残念だが、その代わりほとんど人にも会わず、久しぶりに静かな雰囲気が満喫でき、しっとりした山行であった。

（京都北山グループ例会・平成9年9月7日歩く）

◇コースタイム◇

坂下（30分）ヘク谷への分岐（40分）植林帯の急な登り（1時間）小女郎池（5分）小女郎峠（30分）蓬莱山（30分）クロトノハゲへの分岐（30分）クロトノハゲ（30分）天狗杉（1時間20分）JR志賀駅

◇地形図◇2万5千＝花背・北小松

◇文献◇「46比良山系」昭文社

二日間で1000㌔の大ドライブ旅行

東ジャワ島・ブロモ山

吉見英樹

インドネシア

この山は有名なバリ島の横、ジャワ島の東の果てに位置し、スラバヤから約4時間のドライブで行けるが、ただ一口にジャワ島と言っても、日本の島の感覚で考えると本当にえらいめに遭う。

西の端にあるジャカルタとバリ島では、1時間の時差がある。山自体の難度は無いと言ってよい、歩きたくなければ全く歩かなくても山頂に着けるのである。ではどのようにして行くのかと言えば、4WD車と馬を乗りつげばたどり着けるのである。あの漫画家のエビスさんがTVの番組で行っているので、推して知るべしである。

ではなぜそのような山へ行ったのかと言えば二つの理由がある。一つは長女を山のダイナミックさに触れさせたかったこと。その条件として、間違っているのは重々承知の上であるが歩かなくてよい山。二つめはブロモ山はその景観の異様さ、ドラマテック度、大きさで世界中にその名を知らしめているからである。トレッカーでも旅行者でも一度は行くべしと、「地球の歩き方」にも六ページに渡って書き連ねてある。この前行ったリンジャニ山にたった四行だから、その扱いは比較にならない。

そんな具合で簡単に旅行計画を立てたのであるが、やはり事前の情報と実際が大きく異なり、結果二日間で20時間、距離にして約1000㌔の大ドライブ旅行になってしまったのである。

ブロモ山からスメルン山を望む

8月18日～18日

グアム経由でデンパサールに到着。さっそく地元のエージェントと価格交渉をする。二人で「キャッシュやで」と電話で値切りまくった。とにかく今回は二週間の休みがあるので、値切りに二日や三日

かかっても全く平気なのである。

その間は、プールでトロドリ（トロピカルドリンクの略）を飲み、昼寝をしたり、ヌサドアへ買い物や食事をしに行ったりで余裕綽綽である。二日がかりで半分の価格まで値切ったのである。しかし、「ガッハッハ」してやったりと喜んでいたのはこの日限りであった。やっぱりおためが付いていて、この小旅行の疲労の原因を値切り行為でつくったと断言してよいだろう。

8月19日

朝6時にピックアップのエージェントがやってきた。車が向こうからやってきたが、見てびっくり、何と750ccの軽バンではないか。今さらこの車では駄目だとも言えず、娘と顔を見合わせながら、次回からは車種も確認しなければならないと肝に命じたのであった。とにもかくにも長旅の始まりである。

デンパサールを出て一路西へ西へ、ココナッツの森をドンドン走る。小1時間も走ると海岸線が見えてきた。村々の地域寺院はなかなか豪華である。バリ島の西端にあるフェリー・ハーバーまで約3時間半のドライブだ。途中、街を通過するがこの辺になるとずいぶん田舎になり、三輪自転車のベモ、乗り合い馬車のチドムが目に入ってくる。車窓からは一面のココナッツ畑と、遠方に3140㍍のアグン山が見える。やっとハーバーに着くと海峡の向こうに名前は忘れたが、3400㍍の火山がそそり立っている。

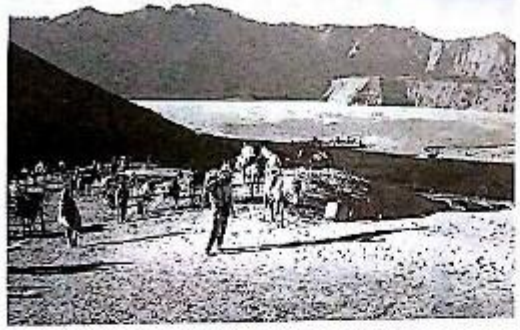
海峡を渡るのは30分ぐらいである。ゆらゆらと漂うようにフェリーは対岸へ渡るが、対岸の街が手にとるようによく見える。もちろん観光客は私たちだけである。

対岸のジャワ島はハワイ島のように荒涼とした風景で、火山がいきなり立ち上がっているのは、ハワイに来たのかと思うほどである。ジャワ島はバリ島とは根本的に違う風景である。バリ島は緑が多く、ジャワ島は殺伐とした光景が続く。明らかに暑く、木々が無い。火山灰の土地に立ち枯れたような林が、延々と続く。何時間走ってもズーッと続く。途中低い山がいくつか見えてくるが、全部ギザギザの山になっている。噴火爆発したときに山の大半がぶっ飛んだに違いない。この異様な景色が4時間も続く。ここジャワ島はモスリムが多く、町や村を通過するたびにコーランの大音響が流れてくる。

ついに山側に車は進路を変えた。なんとすでに9時間が経過している。細い山道をエンジンを唸らせながら上っていく。木々の少ない谷あいをグングン上っていく。ついさっきまで海抜3～4㍍を走っていたのに、1時間で標高2400㍍まで上がるのだから、無理はない。

小さな民宿がたくさん見えてきた。どうやらここがブロモ登山のベースになる所だと、すぐに判った。マサレイ（白人）やポーターがうろうろしている。オー、ついに今夜の宿に到着だと喜んで車から降りると、ガイドが地元の人と難しい顔をして話し込んでいる。ひと目でトラブルと判る雰囲気だ。嫌な空気が流れているが、恐る恐る内容を確かめてみると、道を間違えたとのことである。外輪山の反対側の村に来ているようで目的の所に行くにはいったん下へおり、また上がるので、さらに4時間かかるらしい。

ヒヤヒヤの交渉の結果で、ジープを雇いこの軽バンをロープで引っ張りながらクレーターに突っ込み、一気に突っ切ろうということになった。かなり目茶苦茶な計画だが、これが今回の旅のスーパーハイライトシーンであった。私たちがジープに移り、内輪へとくだっていくと目の前に大クレーターが広がっている。そのバカでかいクレーターの中には、プリン型やプリンの上がふっ飛んでないのやら、それの巨大なものやらがゴチャゴチャと存在している。このかなり異様な、一見趣味の悪い光景は、我ら親子の度肝を抜くには充分すぎるぐらいであった。クレーターにおりたら、深々と火山灰を上げながら車は走る。ジープの中にも灰が入ってくるのでバンダナでマスクをするが、これは西部劇の盗賊のようである。後ろを見ると軽バンがロープに引かれて、右や左にグワングワンと揺れながら、暴れ馬のように走っている。さぞかし怖いのだろうなと彼らガイドたちの顔を見たが、全員大はしゃぎをして笑っているではないか。こっちも連られてバカ笑いの連続だ。



ジープから降りてカルデラへ馬で行く

前方を馬に乗ったマサレイが隊列を組んで走っている。そしてそのはるか向こうに、荒涼とした砂漠の中に寺院が見える。本当にここはインドネシアか？　まるでタクラマカン砂漠を疾駆めざして走っているようにしか思えない、不思議な錯覚にとらわれた。

途中でジープを降り、カルデラまで馬に乗り継ぐ。娘は全く歩く意志がないのだ。ひとときの噴火口を楽しんだあとジープは、反対側の外輪山を駆け登っていった。約500㍍ぐらいの高度差だろう、やっときょうの宿・ブロモトサリに到着した。

くたくたといっても過言でない。いくらお金を積まれても、きょうはもうぜったい車には乗らないぞ。しかしあすはきょうしたことの、同じことを反対向きにしなければバリ島へ帰れない。でもそれを口に出すのは、あまりに恐ろしいので、考えないようにした。娘も何も言わないのは、同じ気持ちだったのだろう。まるでクブーのように、二人ともこれには触れず、やれ「腹がうまい」「星がきれい」「宿がいい」とか言いながら、この夜は早々に寝ることにした。

幸せだったのは、ホテルがヨーロッパ風のお洒落なシャレーで、かのスハルト大統領も来られた有名なところらしい。私たちの旅にもズバリ結がついた。

8月20日

午前3時に起きる。食堂にはすでに多くの台湾人、マサレイが集まっている。のんびりとして大遅刻をしてきたガイドたちと出発。今からサンライズを見に行こうというのだが、またもや道を間違えてしまったようで、ガイドの頼りないこと、このうえない。

有名なブロモのビューポイントに着いて、日の出を待つ。ここからの写真はいろいろな本で紹介されているので、わくわくして待つ。しかしかなり寒い。私も娘も持っているものはパジャマにいたるまで全部着こんで来た。私など、パンツ二枚・パジャマ・タイツ・ズボン・ハーフパンツとゴロゴロ状態だがそれでもやたらと冷える。気温は8℃だ。ここにもう人だらけで、人の踏や中に入って風を防ぐことにする。防風林ならぬ防風人だ。待つこと20分、太陽が顔を出し、全容がおぼろげに見えだしてきた。

ウーン、やっぱり唸るしかない光景だ。想像はして来たもののやはり本物はすごい。ビューポイントから、眼下に直径何十㌔にも及ぶカルデラ砂漠が広がり、その中に巨大な籐菌のような噴火口山が何個もそそり立っている。噴火口山の山肌はアコーディオンのジャバラのような縦ひだが、深く頂上から数えきれないぐらいの数の筋となっている。100㍍以上遠くに富士山とそっくりなスメルン山(3670㍍)が見えるが、遠近感がつかめず、近くに見えてブロモ山の景色の一部になっている。

色は最初チャコールグレイでとても地球には見えない。エビスさんが言っていた通り月世界にいるようにも思えるが、私にはなぜか暗く、冷たく、深い、海底の景色に思えてならなかった。生命感の全く無い無機質の世界だ。

人々の歓声と共に太陽が昇って、景色がグレイからレンガ色に変化してくる。陽が当たり山のひだが、より一層くっきりと浮かび上がってきた。その時、スメルン山がドーンと大きな噴煙を吐き出した。噴火だ！　噴煙は瞬く間に大きな黒い雲になって遥かかなたへ流れていく。四方何百㌔という景色が、箱庭にように収まっているので、あの噴煙がどれくらいのスケールなのか想像もつかない。夢中でシャッターを押す私を、「写真オヤジ大爆発！」と娘がからかってくる。

ゆっくりと陽が昇り暖かくなってきた。娘もすごく感動しているようで、私もやっぱりうれしい。私事ではあるが、娘は今年18歳、この先何年私の旅について来てくれるかと考えると寂しくもなる。

この場を去るのが惜しい、そんな人がまだまだ名残惜しそうにポーッと眺めている。さようならと、ミキリをつけるのはなかなかに難しかった。

7時、帰路に着いた。帰路は昨日と同じ行程。ひたすら車に乗るのみだ。ただ耐える。やっとバリ島のホテルに着いたのは夜の6時になっていた。2日間1000㌔の無謀な旅は、無事終わった。

もしブロモへ行かれるときは、スラバヤからのバスツアーをおすすめする。これは身をもって得た貴重な結論である。

ちなみに私が使ったツアーエージェントは、これでけっこうバリ島では中堅の信頼のある旅行社であるが、それでもブロモへは四年前に一回行っただけであるとのことだった。道理で道をよく間違えた。要するにバリ島からブロモへは、その行程の辛さから、ほとんど行く人がいないということなのだ。このことをガイドが私たちに言ったのは、我々が疲れ果ててバリ島のホテルに着く30分前であった。ハッキリ言って、そんなことは最初に言って欲しかった。しかし、人なつっこくて、ヤッパリ強か人たちであった。

(平成9年8月16日～20日探訪)

山村民俗探訪記—惣谷狂言・篠原踊り

舟ノ川流域に伝承芸能を訪ねる

大峰

奥田　英一郎

大峰の奥深く、十津川の支流になる舟ノ川流域の最奥部に惣谷・篠原という二つの集落があって、それぞれの集落に古くから伝わる狂言と踊りがある。

惣谷狂言・篠原踊りと言えば、知る人ぞ知る伝統芸能で毎年1月25日に、この寒ざむとした山村の神事のあとに奉納される行事である。いずれも県の無形文化財の指定を受けているが、昨今の過疎の里だけに保存会の人たちの努力で大切に伝承されている。

舟ノ川は大峰の中央部になる頂、仙岳、八経ヶ岳、明星岳、七面山といった2000㍍に近い山から西に流れる川であるが、源流の地獄谷とか日裏山谷といった谷は厳人仲間はもちろん、土地の人でも怖れる険悪な谷で、篠原の民宿で聞いた話だが、近年起きた遭難事故の際、遺体を運び出せないので、現地で荼毘に付したということだった。

大塔村の惣谷・篠原はかつて川上村の高原とともに古くから「木地師の里」として知られた所で、今も惣谷には轆轤を作っている人がいる。また明治から昭和の始め頃にかけて、高級料理店で出されたという岩茸の採取が盛んに行われた所でもある。雪の季節にこの純朴な山里に伝わる狂言と踊りを訪ねて、民宿の主人から山の話とともに民俗談などを聴くのは楽しいものである。

篠原踊り「梅の古木踊」

私たちは、かつて篠原の人たちが天川村や下市に出るのに使ったという川迫峠を越えようと思い、天川村と大塔村の役場に問い合わせたところ、雪の峠越えはすすめられないと言う。念のために民宿にも電話をすると、峠越えなどとんでもないということで、やむなく五条からバスで大塔村に入り、宇井からさらに舟ノ川をたどった。

その日は今冬一番という寒波がきて、天候急変の徴候で知られた天辻峠を越える時、バスの運転者さんはチェーンを付けるのに一苦労だった。宇井で篠原行きの村営バスを待つ間に、30㎝ばかり積った除雪を手伝ったりした。バスの客は学校帰りの小学生が数人だけだった。

舟ノ川に沿って雪の降りしきる林道を走る。渓谷は深く、はるか下の河原は真っ白で、流れだけが黒く蛇行している。山肌はぐっすりとした雪で、残念ながら大峰の主稜は見えない。篠原の集落は深い雪の山肌に人家が点在していた。あらかじめバスの到着時刻を知っていた民宿の奥さんが、雪のなかを出迎えてくれる。夜7時から踊りの稽古があるという忙しいなかなのにである。

夕食にこんにゃくのさしみ、アマゴの煮付、タラの芽の天ぷら、大根煮しにかやしめじのくるみあえ、ぜんまいのからしあえなどをいただいているところに役場に勤めておられるご主人が帰宅され、生薬のことから山の話まで聞かせていただく。

夜8時過ぎにヘッドランプを持って雪の降りしきるなかを公民館へ行く。10人ばかりの男女の村人が踊りの練習に励んでいて、汗をほんのりかいていた。あす神前に本納するという三曲に加えて二曲ばかりも演じてもらったうえ、酒、ビールまでいただくという歓待ぶりだ。

寒い夜だった。この大峰の山深い渓谷の民宿の雑れ座敷に休ませてもらった。渡り廊下は雨戸を閉めないままだから用足しに起きるたびに冷たい板張りをひたひたと歩いてゆく。久しぶりの旅の丸寝であった。互いに亀の子が首をすくめるような格好でふとんの中にうずくまって眠る。

翌朝も雪模様であった。踊りに出る奥さんは早くから気ぜわしく立ち回っていた。われわれもあわただしく朝食をすませて惣谷へ向かう。4㎞ばかり下流、林道から少し舟ノ川へおりた小広い台地に天神社があり、杉の木立ちに囲まれていた。境内の片隅では焚火が用意されていて、村人があわただしく動き廻る。観客のなかには遠くから来ている人も混じっていた。天神社の台地を隔てて質素な建物があり、そこが狂言が行われる舞台であった。昔は奉納が終わると舞台をお寺に移してゆっくりと村人たちがくつろいだらしい。

ほどなく神事が始まる。神主さんの祝詞に続きお祓い、そして稲の奉納となる。このあと山の幸、海の幸が献上され、さらに村の各種代表の拝礼が終わると、いよいよ狂言の奉納となる。

その日、初めに用意されたのは「縁引き狂言」である。商人・僧侶・商人の妻の三人が登場するが、演じるのはみな男性である。筋は商人が長崎へ商いに出かけたあと、主人が留守になるというものように商人の妻は、寺の僧を招いて酒宴を楽しむ（さき一つと、進めるという古語を使っていた）。酒の肴に小鯛が呼われて二人が打ち興じている最中に、突然、主人が戻ってくる。酒宴が一転して騒ぎとなる。

おもしろいのは商人が商いに出る際に、妻に残すあと勘定に、"一に火の用心、二に倉の用心。"と言うのだが、これを聞いた妻が"金も銀も無いのに倉の用心とは……"と問い直すと"殺ぐらのことじゃ"とか、また麺さで坊主が逃げて行ったあと、"隣の豆腐人またうせよった"と言うようなアダルトな言葉が出てくることである。

「かなぼうし狂言」では仕職・小僧・

六平・七平・八平の五人で演じられる。寺を譲られて悩んでいる小僧に、村民がいろいろと寺へ借りものにやって来る。情れない小僧に住職は断り文句を教えるのだが、傘を借りに来た男に馬の断り文句を使うなど、断り文句が次々とずれて使われるのである。最後に瓶の年忌のお参りを頼みに来た男に"老僧はただ今だん狂い（鬼が暫時の時や発情時に陥れること）をしている"と馬の断り文句を使う。これを聞いた老僧は怒るのだが、小僧は隣のお松さんとの関係をばらすのである。

いずれも男女の機微に触れる狂言で、わずかな小道具を使い、素人が演じるのだが、そこがまた素朴で楽しいものであった。

昼にいったん民宿に帰り、用意してもらった白張りずしをいただいて、午後は篠原踊りを見に行く。天神様は惣谷とは逆に、林道を10分はかり上がった小高い台地に鎮座していた。

やはり型通りの神事がうやうやしく行われたあと、こちらは雪を踏んでの踊りとなる。沿革を訪ねると、元禄、宝永の頃、猛な狼がいてこの害悪を除くため、狼退治を天神社に願って踊りを本納した。以後狼の難から逃れられるようになり、年々行われるようになったという。

踊りは太鼓を打つ男性二人、囃子方を手伝う老人が一人。踊り子は総勢五人で、神前に向かってそれぞれ横一列に並ぶ。打ちながら唄い、踊りながら唄う。男性は黒の紋付、踊り子は近年揃えで作ったという黒の紋付で、踊り子は老女、中年、少女という構成であった。

奉納された三曲は「梅ノ古木踊」「宝踊」「世の中踊」。この三つは天神社に奉納される神楽なもので、余興の席では演じられないものであるという。歌も踊りもものの静かでやや単調なようだが、言い換えれば優美で古風な踊りであった。

歌詞の一部を紹介すると、梅ノ古木踊りでは"花（梅）は切いよ　桜は色よ人は育ちで振りゃいらぬ……"と締めている。宝踊りでは"家を建てよう、倉を建てよう……"。世の中踊りでは"みな世の中　良かれと笛を吹く……"といずれも、花を賞め、繁栄を願い、平穏を言ぶという農民の切なる願いが歌われている。

エンドレスなメロディーの繰り返しは全国のあちこちにある踊りや歌とも通じ、フェイドイン、フェイドアウトのない山里のボンロといったところだろうか。金箔をほどこした扇子を持って舞う踊りも華やかさはないが、しっとりとした味わいがあり、雪の山里の静かな杉木立ちに深く浸透してゆくようであった。

演ずる人と観ている人を合わせても三十数人、何と素朴で可愛いい行事なのだろう。これといった楽しみの少ない山里にあって、営々と引き継がれてきた伝承芸能に、最もオリジナルな日本古来の姿を見る思いだった。

雪を踏んで宮の谷に懸かる宮の滝を見に出かけた。白い雪の壁の中を、三段になって40～50㍍の高さから落ちる姿は見事であった。中ほどにしめ縄が張られていたが、村人たちの、自然に対する畏敬の念が偲ばれた。

（山村民俗の会会員）

（平成9年1月訪ねる）

○惣谷狂言・篠原踊りは例年1月25日

＜宿泊＞

奈良県吉野郡大塔村篠原「えびすや」

＜バス＞

五条発十津川行き、大塔村役場前または宇井でのりかえて村営バス篠原行き

連載

1等三角点峰（500㍍以上）548座完登の記録（第5回）

全国548座の完登を決意

坂井久光

その頃（昭和四十七年～五十年）に登った思い出に残る山々と、「一等三角点研究会」会報の「聳嶺」について話をすすめたい。

1等三角点峰の100座目は岡山県の花見山（1188㍍）で、牧場の柵に沿って登った。101座目は岐阜・富山県境の点名・六谷山（1397㍍）。この山は『岐阜百山』にも載っていない記録のなかった山で、地元では「切らず山」と呼んでいておもしろい伝説がある。

「昔、このあたりの村々は、その村の安全や幸福を願って守護神をまつっていた。村に何か不幸なことが起こると、守護力がないと言って、ご神体を川に流したりもした。ある時、神様を流してしまい、しばらく不在の時があった。その折、上流からご神体が流れてきたのを拾い上げてまつったが、女神だったせいか、生れる子は男ばかりだった。村人は困り果て、ご神体をこの山の大木の洞穴に封じ込めた。その後このことを知らずに山に入った樵夫（きこり）が相次いで怪我をするので、そのことを知っている村の古老が『これは神様の祟りだ』と言って、その後怖がってだれも入山しなくなり『不切山』と呼ばれるようになった」という。この山は東茂住（神岡鉄道）から大津山鉱山行きバスに乗り茂住峠への分岐まで行き、峠までは車道を歩き、あとは破線のやぶをこいで登った。

黒法師岳の山頂

会報「聳嶺」には全国の十三の基線と1等三角網別に、1等三角点の所在地・標高等を毎号連載し、会員の登頂記録や研究・文芸・登頂の1等三角点一覧などを主な内容として好評を得た。全国から会員が入会するようになり、平成九年現在では、130人を超えている。

春・秋に年二回の例会を実施し、第一回目の例会は静岡の文殊岳（1041㍍）で、松浦勇次・滝沢芳章・伊藤宏・山県忍と私の五人が登った。

その後昭和四十九年5月3日、単独で富山県の濁谷山（1238㍍）をめざした。小早川沿いの虎谷の公民館で一泊し、残雪を利用して熊の足跡が残る杉林を通り、谷筋をつめて登頂した。古老から昔は金山があったと聞いた。翌日も付近の山を登り、イワナを釣ったりして連休を楽しんで帰京した。

同年、秋11月3～4日、伊藤宏・滝沢芳章の両君と三人で、上越の黒姫山（1222㍍）・鉢ヶ岳（1317㍍）・米山（993㍍）を登った。黒姫山は瀬問の藤島玄さんの紹介で、「沢蟹山岳会」会長で当時電化セメント課長の小野健さんに案内してもらい、ジープで登山口まで送っていただいた。

同行した、山に熱心だった伊藤宏さんは、その後突然行方不明となり、今日にいたっている。まことに残念でどこかで生きているなら戻ってきてほしい人だ。

その頃入会した中田勇氏も熱心な会員で、東京から広島へ転勤したので広島・山口・島根の山々をともに彼の愛車で案内していただいた。時には泊めてもらうこともあり大変お世話になった。

滝沢さんには丹沢山の沢登りに案内していただき、ともに毎号原稿を書いた。上信越の1等三角点に詳しく、特に上州の武尊山は土的存在であった。

また、その頃入会した仲西政一郎氏は、当時「泉州山岳会」会長で、恩師森本次男氏や山田奈良雄氏と「関西山小屋倶楽部」を作ったり、山と渓谷社から『近畿の山』を出したりした、本格派の登山家であった。私が近畿一円の1等三角点を全て登ったのを知り、二人で近畿の1等三角点のガイドブックを書かないかと言われ、原稿は書いたが、彼が紹介した実業之日本社の担当社員の退社によりその計画は没になった。しかしそのことを知った後輩の宮後氏や、親友の「北山クラブ」会長の金久氏から、大阪の創元社を紹介していただき、出版契約を結んだものの石油ショックで出版が大幅に遅れ、三年後の昭和五十一年にやっと出版された。

国土地理院からも点の記を始め、種々の情報が入るようになった。当時の1等三角点の総数は969座と割り、そのうち500㍍以上の山は547座である。そして沖縄の与那覇岳（198㍍）の標高（最高点）は503㍍と知り、それを合わせると548座となる。このくらいの山なら、一生かければ登れないことはあるまいと、このライフワークを思い立った。

1等三角点は、測量のため陸地測量部が選定したもので、名山ばかりとは限らないが、付近での最高点に設置されているのがほとんどなので、名山・聖峰が多い。なかには無名峰やつまらない山々もあるが、登った者のない山もあり、これにこだわるのもおもしろいと思って、全国踏破を決意したのである。

南アルプスの1等三角点は、アプローチの悪い当時は、良い山小屋がない山も多かった。京交山岳部の坂田利春・曽川敦美両氏が入会し、毎夏南アルプスの踏峰を踏破した。「聳嶺」創刊号には黒法師岳（2067㍍）を昭和五十年3月に特別例会として計画を発表し、関東支部の滝沢さんにリーダーを依頼した。私も資料を求めて、山と渓谷社刊『南アルプス』の著者で、「日本山岳会」会員の山本朋三郎氏に尋ねたところ、「私は登ってないが、日本山岳会静岡支部の水野公男氏がよく知っているから返事を依頼した」との手紙をいただいた。次いで水野

氏から「大井川鉄道の下泉から山犬の段経由の林道が山麓までのびている」と、詳細図やコース・タイム等貴重なデータを送っていただいた。文中には、瓜岡の藤島亥さんから、京都に坂井という1等三角点マニアがいる旨報告を受けていたので、ぜひ知り合いたいと思っていたところ、その本人に手紙を書くはめになったのは全くの奇縁だとあきれておられた。ちなみに彼は上信越の1等三角点をほとんど登っておられ、自費出版に『一等三角点』がある。2月上旬、京都市の本能寺会館で会い、宮川町の料亭で一夕をともに過ごして別れた。その後、1等三角点の本点一覧表と補点の分も各一部ずつ送ってもらったが、補点一覧表には間違いが少々あり、正誤表を作って気づいた点を知らせた。

黒法師岳は私にとって忘れられない山となった。腎臓病で長い病床の親母を末弟が父とともに看病していたが、老人でもあり急な悪化の心配はないだろうと、3月20日一行五人が金谷駅に集合した。

菅林署の小屋で一泊し、翌21日登った。残雪が少なく、ササのやぶに足をとられながらのラッセルには難儀したが、私が交代してウサギの足跡を見つけ、それについて登ると落ち込まずに歩けるようになった。上部は雪が締り、その日の午後4時頃バラ段の頭から急坂をくだり、急斜面を登って山頂に達した。積雪が多く三角点は見ることができなかった。あとでこの三角点の頭部表面は通常十の印だが、ここのは×印になっていて、マニアには貴重な三角点として有名であることを知った。下山中に日が暮れ、遅く浜松の灯が見えた。小屋に帰り着いたのは22時を過ぎていた。

翌日家に電話したら、母が急性肺炎を起こして亡くなり、連絡できず、葬式も済ましたとのこと、びっくりして親の死に目に会えない親不孝をなげいた。小学校二年生の時から多病で病弱の私を我が子同様に育ててくれた恩に何ら報いることなく、登山に夢中になっていた我が身がなさけなく、また、父が事業に失敗した頃、私を助けて夜遅くまで働いていた継母のやさしくて小柄な姿、そして質朴で明るく生きた一生を悲んで心から泣いた。

その後も中田氏の協力で冠山（1339ｍ）や猿岩山（1223ｍ）など、中国地方の山々、そして長瀬の鍬ヶ岳や至仏山を登り、ついでに上州の武尊山（2158ｍ）をも登った。その帰路、東京の石神井に「エーデルワイスクラブ」会長の坂倉登喜子さんを訪れて懇談した。

その年の秋には四国の高越山（1122ｍ）や、剣山（1955ｍ）・二ツ丸山（5985ｍ）・胴切山（884ｍ）・旭ヶ丸（1920ｍ）等を踏破した。

胴切山には興味深い悲しい伝説が秘められていた。「昔、平家の落人が当地へ逃げてきて胴切山のコルで源氏の武士に胴体を真二つに切られて殺された。村人がそれを憐れんで地蔵尊を峠に安置して供養した。しかしのちにそれが大部さんに代わったという。それでこの山を胴切山と呼ぶようになった」と山麓の親切な農夫から聞いた。

高越山は山頂近くに寺があり、昔は神仏混合の聖山だったが、明治になって寺となった。三角点は頂上にはなく、住職に聞いて約10ｍ程低い所で見つけた。

ツガの大木が参道に並び、ブッポウソウやカッコウの声が聞え、一帯は県立公園に指定されており、振興1等三角網の一次拡大線の山である。

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々

鈴鹿の池を探訪する山旅(一)

御池岳周辺の池をめぐる

山本久雄

月に二度は訪れる鈴鹿の山々。その中にひっそりと身を隠すように点在する珠玉のような池やヌタ場を、滋賀県側から訪ねて、ゆったりとした山旅をしてみたいと思います。

これらの池のほとりにたたずみ、水面に映る空や樹影にちりめんの波を立ててゆったりと吹きわたる風に身をまかせる。流されてきた時間とこれから流れてゆく時間とに思いめぐらす。たえず動いている自分と、じっとここにいる彼等との時間の接点をもてる幸せを感謝します。

池といえばまず、御池岳山頂のテーブルランドに近辺に点在する池沼を思い浮かべます。お花池・丸池・弥助の池・風池・山西池・上池・ワリハダカエデの池・サワグルミの池・中池・平池・南池・南小池・真ノ池・元池。水はないけれどぜひ訪れてみたい空池・幻池・霧池・釜池・北池・草原池・日本庭園の池・キハダの池・東池・奥ノ池（奥ノ平中央池）・土倉岳のヌタ場等です。

その他、藤ヶ岳の三池（ヨキオノコバの池・その南方の池・北西尾根の池）やダイジョウ峯方の池、鈴子ヶ口の水舟の池、竜ヶ岳の太尾の長池。そして不思議な地形の土倉岳北方のヌタ場等も忘れるわけにはいきません。

今回は御池岳周辺の池やヌタ場を三日間で探訪しましょう。

その前にチェック！　2万5千分の1の地図とコンパスで地形や自分のいる場所を判断できますか？　万一迷ったとき安全なルートへ自力で出られますか？　時間と相談してエスケープできますか？

池めぐりは気楽にできるものではありません。歩く季節は日の長い晩春から初夏がよいのですが、足に自信があれば晩秋しが利き、空気の澄んだ晩秋から初冬がおすすめです。

文章を読む前に2万5千分の1の地図とコンパスを用意してください。地図は「篠立」「竜ヶ岳」があれば結構です。地図を広げ磁方位を決めてからこの文章を読み出してください。では池めぐりに出かけましょう。

伝説のある「幸助の池」

一日目

さて、池めぐりに出かけるには、何はともあれ御池岳に登られねばならない。さようのコースはまず数掛橋から御池谷の急

坂に挑戦しよう。

静寂そのもののヒルコバから御池川源頭を少しくだると、数分で左岸にはっきりした谷と頭著な尾根がおりてきている。谷を越え尾根に取りつく。あとはひたすら尾根を外さないように上へ上へとたどる。高度1100㍍を越えると尾根がゆるやかになるので少し右手に振る。目の前にササにおおわれた窪地が見えてくる。これが「お花の池」である。

池の左手をからみテーブルランドの縁をはずさないように歩きやすい所を選んで行くと「西のボタンブチ」に着く。天狗堂からサンヤリの展望を楽しんだら進路を西東にとり尾根を越えて行くと、見た目には気持ちよさそうだがびっしりと生えこんだササ原を行くようになる。この右手、緑の絨毯（じゅうたん）の中に「ヒョウタン」と呼ばれる双子のドリーネがある。このササ原をてこずりながら越えると、目の前に少し小高い尾根が見えてくる。進路を南東にとり、1182㍍峰を登りきれば「丸池」に到着する。大きいドリーネの底に水をたたえて静まり返っている。しばし休憩しよう。ここまでで被捕から約2時間30分ほどで到着できる。

ここからは高度をあまり変えないで丸山の山腹を撫でるように南東へと進路をとる。右前方に天狗の鼻が見えてくるので強引にそちらに向かう。見晴らしのよい場所で昼飯としよう。でも元気な人はあと5〜10分も頑張ればボタンブチへたどりつける。

ボタンブチからテーブルランドの縁をササをこぎながら行くとすぐ二次林の林となる。このピークを越えれば「幸助の池」である。丸池と同じで丸いきれいな池だ。水面にオオイタヤメイゲツの樹影を映してきょうも美しい。「お花と幸助の伝説」はいまさら語ることもないだろう。きょうはここで折り返し、天狗の鼻へと来たルートを帰る。

天狗の鼻からは右寄りに歩きやすい所を行くと尾根を一つ越えて「風池」となる。晩春から初夏なら、たくさんのモリアオガエルの卵が樹木の枝に花を咲かせているだろう。ここから谷状になった所をしゃにむに登るとすぐにヌタ場状の「山東池」だ。あとはササに邪魔されながら、ここはパワーで上に向かうと丸山へと続くハイキング道に出る。丸山で休憩しよう。

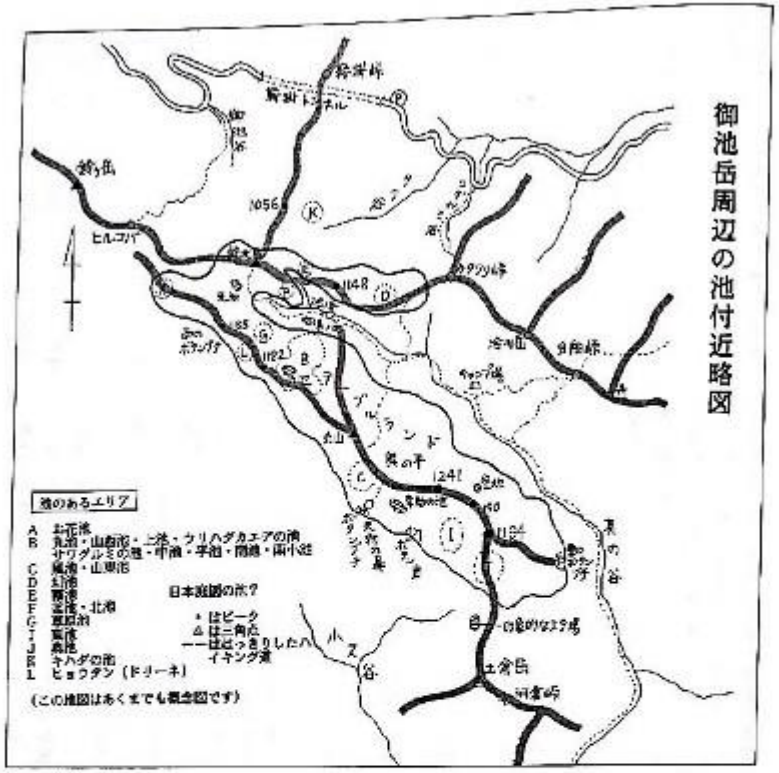
山と自然の本

《新刊》山の響き　田畑吉雄　2500円
比良の父・角倉太郎　比良登山今昔ものがたり　2200円
関西　山越の古道(上)(中)　中庄谷　直　1942・2000円
京都丹後の山(上)(下)　内田　嘉弘　1942・2000円
兵庫丹波の山(上)(下)　慶佐次盛一　2000・1942円
近畿の山　日帰り沢登り　中庄谷直・吉岡章　1942円
京都　北山百山　北山クラブ　3800円
京都　北山を歩く①〜③　澤　潔　各1845円
京都滋賀南部の山　内田　嘉弘　1942円
近江　湖北の山　山本　武人　2000円

《●》
仏和山岳用語集　村西　暁次　2200円
鈴鹿の山と谷①〜⑤　西尾　寿一　3167・1380円
美濃の山①②　大垣山岳協会　各2200円
奥美濃　ヤブ山登山のすすめ　高木　泰夫　1942円
飛騨の山山(ヤブ山編)(国境編)　酒井　昭市　2427・2718円
福井の山150　増永　迪男　2913円
勝の峰／緑の山(さいの山シリーズ)　増永　迪男　各1942円
山城三十山　日本山岳会京都支部　1845円
初登山　今西錦司初期山登り作集　斎藤清明編　2718円
初登頂　花嫁の峰から天帝の峰へ　平井　一正　2816円

★表示の値段は消費税を含みません

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
☎京都　075-751-1211　〒606



ここからは踏み跡を無視して北西に進路をとる。地図には丸山北西にコブのように地形が飛び出すように描かれているが、その場所はササ原が広がっている所。その中の最も低い部分に信じられないほどに小さな「山西池」が、あなたの来るのを待っている。あたり一面にはまぎらわしい炭焼き釜の跡も点在している。ここにたどり着くのが後半部一回目の難関となるだろう。

さらに北に尾根をたどるとササ原の中に突然ヌタ場のような「上池」が出現してくる。勢いあまって落ち込まないよう足元に十分注意してほしい。さて西、わずか西南西に進路をとり、1182㍍峰めざしてあくまでも強引に尾根や谷をブルドーザーのごとく越えてゆけば「丸池」に帰り着ける。

ここまでくればきょうの池めぐりは60％成功したようなもの。ここからほぼ北、わずか西よりに広がる浅い谷に沿ってすぐ「ウリハダカエデの池」「サワグルミの池」が続く。さて120度右後ろに向きを変え南東にゴソゴソとやぶを分けると「中池」だ。三角形をしていて別名

雨乞いの舞台にふさわしい「元池」

「オムスビ池」とも呼ばれている。

今度は120度左手に折り返し北西に向かうと、今もヌタ場のようになって、ササの中にっそりと「平池」が隠れている。「サワグルミの池」からちょうど乙字状の行進となるが、ここが後半部二回目の難関である。

さらに進めば「南小池」と、ドリーネをはさんで「南小池」がある。ここには昨年、親子であろうか大小二頭のシカとおぼしき足跡があり、思わず目頭が熱くなったのを覚えている。さて、勢いに任せてうるさいやぶを越えれば「真の池」となる。あとはハイキング道をたどり「元池」へと向かう。鈴北岳への道が右折するところで前方の何にもなさそうなやぶをすこしこぐと「元池」である。この池こそ雨乞いの舞台にふさわしい。なぜこのような場所に、いつ来ても水が満々とあるのだろうか?

少し戻り西に目を向けると大きな尾根が見える。水平にやぶをこいで行くと、20～30分もあれば到達できた「お花の池」の近くに出られる。またはその手前、あいだの谷を少しくだり、二俣状から尾根を適当にくだりながらトラバースして行くとヒルコバへと帰り着く。鞍掛橋までであとひとがんばりだ。ぐったり疲れて長い春の日もすっかり傾く17時頃、車へたどり着けるだろう。

二日目

空池・霧池・幻池・北池・草原池・キハダの池へは鞍掛峠まで車で入る。いったん鈴北岳を越えて真の谷をキャンプ場のすぐ手前の谷の分岐までくだり、右手の尾根に取りつく。2万5千分の1の地図を見ると標高950㍍付近で尾根東側の一部が不自然にふくれている。めざす「空池」は大きな窪みとなっているこの場所にある。水はないが底には大きな板木が数本あり、物音ひとつしない、なぜか神秘的な雰囲気の所である。来たルートを戻り、真の谷を登るとしばらくで右へカタクリ峠へのルートを見送る。その先丸山への分岐を左に見送れば、すぐ右側の谷状を強引に登ってみよう。「幻池」にはすぐ到着できる。

別名「ヒキガエルの池」とも言われる「幻池」をあとに尾根尾根をしばらくたどり、左手に谷が見えてきたらやぶを分けて谷におりる。通称「眠怠の谷」と呼ばれる、バイケイソウがいっぱいのしっとりした谷をすこし登ると、はっきりした谷の分岐となる。「霧池」は右手の谷の源頭近くで、すぐそこにある。分岐まで戻り昼飯にしよう。

お腹がふくれたら出発し、左手の谷を登る。鞍頭が近づいたら左手の鞍部を越える。ここもバイケイソウがいっぱいだ。この近くに水溜りを見つけても「ウワッ!新しい池だ」と喜ばないでほしい。これは最近炭焼き釜の跡に水が溜り始めた「釜池」である。鞍部から右寄りに進路をとり、からみつくやぶを分け、少しくだると「北池」である。まわりが開けているせいか、アルプスの池のようなあっけらかんとした雰囲気の池である。

そのまま谷状を少しくだると鈴北岳に向かうハイキング道に出る。その道をたどり「真の池」を過ぎた所で左手の尾根を強引に登り、鞍部状の所で右手におりると斜面を増す斜面を滑り落ちるようにくだれば鞍掛峠トンネルの少し東の国道へたどり着く。

を強引に登り、鞍部状の所で右手におりると斜面を増す斜面を滑り落ちるようにくだれば鞍掛峠トンネルの少し東の国道へたどり着く。

さらに勾配を増す斜面を適当におりる。左岸側が比較的傾斜がゆるい。するずる滑り落ちるようにくだれば鞍掛峠トンネルの少し東の国道へたどり着く。

三日目

東池・奥ノ池・土倉岳のヌタ場は丁字尾根（酒池岳西尾根）から取りつく。T字尾根がテーブルランドの急崖に消えるあたりから、左手のボタン岩をめざして北北西に進路をとる。急な崖のトラバース登行となるので足元には十分に気を配ろう。秋なら、しかも運がよければすばらしい花に出会えるかも? できる限り植物を踏みつけないように歩いて行くと、ササが行く手をはばむテーブルランドへと登り着く。場所はボタン岩の少し手前あたりが理想的だ。この先で尾根のような所を北に向かうと左側にドリーネがあり、その縁をさらに進むと左下の深いドリーネの底に「真池」がある。

ここからは前方の尾根を見ながら歩きやすい所を東へ1190㍍峰をめざして行く。西の1194㍍峰のピークとの鞍部から右手のササ原を西に進路をとり、と思いれよう。さらに勾配を増す斜面を適当におりる。左岸側が比較的傾斜がゆるい。するずる滑り落ちるようにくだれば鞍掛峠トンネルの少し東の国道へたどり着く。

XCスキー（クロスカントリー）で冬の池ノ平湿原の樹氷と霧氷を楽しみませんか

◎本年度よりインストラクターによる講習会がありますので初めての方でも楽しく滑れるようになりますのでお気軽に参加下さい

◎夜9時より星の観賞会があります

1泊2食付き
11,000円～13,000円

長野新幹線佐久平駅からJRバス高峰高原行き、終点から徒歩10分

高峰温泉　〒384　長野県小諸市高峰温泉
電話　0267-25-2000

「背のドリーネ」と呼ばれ地図にも載っている大きなドリーネを右に見るように進む。すると前方左手に中くらいのドリーネがあり、そこから浅いが谷状に地形が窪んでいる場所に出る。

この谷状の所を左にみてゆくとボッカりと「奥の池」にたどり着く。個人的な考えだが、私は御池岳最深部に静かに鎮座するこの池こそ伝説の「お花の池」だと信じている。「幸助の池」の相手にふさわしい上品な雰囲気が漂っている。ここに来たときはお花さんと向かい合い「グチ」をこぼしてみましょう。何んでも聞いてくれるはず。メルヘンのような時を過ごして真の谷間をたどると比較的やぶにいじめられないで「東のボタンブチ」へたどり着ける。

天気が良ければ視線を落とすと真の谷から少し上に「頭蛇ノ窟」がぽっかり開いており、視線を戻せば藤原岳の「天狗岩」を眼前に、その向こうに養老山脈、そのまた向こうに木曽川の馬飼橋あたりが見える。私事で恐縮ですが、ここへ来ると名古屋で暮らし、休日には自転車で木曽川の堤防を走り回り、渡し船に乗り、船頭さんと話をして過ごした日々が思いだされます。

感傷の息に吹かれ、テーブルランドの縁を西に向かいトラバースして行く。土倉岳への尾根が上から見下ろせる所で休憩にしよう。いつも圧迫された都会の隙間で、仕事に追われてちまちまと生息している私はここが大好きだ。いっしょに目を閉じてください。白いカレンフェルトの石に腰を下ろす。青い空の下、手すりもゴミ箱もベンチも案内放送も視界をさえぎる樹木もなく、あたりは背の低いササがあるのみ。後ろには奥の平が広がり、目の下には果しなく広がる瀬・山・街がある。心まで開放されておおらかになったら腰を上げて先に向かおう。

この場所から下を見ると尾根の右手に何やらありそうな窪みがある。一気に尾根をめざして駆けおり、くだりきった所で右側の急傾斜の山肌をわずかにおりると「土倉岳のヌタ場」に出る。

ここは小又谷の源頭にあたり、目の前はヌタ場が広がり、その先は要塞のような壁が両岸に迫り、その先はボッカリと空が開いている。なぜか立ち去りがたい雰囲気をかもしだしている。ここからは土倉岳、河倉峠を越え、巡視路に出てノタノ坂に向かうか、河倉峠から桂谷への廃道をたどるか、土倉岳西尾根をたどり小又谷林道に向かうか、各人の足と脚次第となる。だが小又谷林道はすっぽり抜け落ちて通過が困難な場所があり、桂谷は生えこんだ廃道でやぶとのデスマッチを強要されるなど、どちらも「鈴鹿の鉄人」向けルートとなる。でも車まで帰らなければならない。ここはおとなしくノタノ坂に向かうのが無難だろう。きょうの余韻を味わいながら車に向かおう。

この文章を書くにあたり鈴鹿を歩く友人の協力を仰ぎました。友情に感謝する次第です。

テープや印に頼らず山の中を歩き回る。そばには信頼できる友がいる。こんなすてきな山旅もいいものです。私感ですがテープや印をあちこちにつけて回ることは自分の存在を誇示しているようで好きではありません。帰りの目印ならば回収しましょう。山の中までベタベタと烙印を残すのはやめたいものです。「自分が通過した遺跡は残さない」、きょうもこの自分の哲学で山を歩きます。

さて、他の山域の泡めぐりは次号に。

藤白峠から拝ノ峠・蕪坂を歩く
熊野街道探索（海南駅～紀伊宮原駅）

中村敏文

コースタイム　JR天王寺駅（電車50分）海南駅（30分）～①藤白坂（1時間）～②藤白峠・聖蓮峰寺（1時間）～③藤本王子・藤本神社（1時間）～④拝ノ峠・蕪坂（40分）～⑤山口王子跡・宮原神社（30分）宮原駅（電車1時間30分）JR天王寺駅（徒歩15分）

前号（和泉砂川駅～紀伊駅）に続いて歩いた第6回の紀伊駅～伊太祁曽駅。第7回の伊太祁曽駅～海南駅は紀ノ川流域の平地コースなので割愛し、今号は第8回の藤白峠越えコースを取り上げる。

①　藤白神社（海南市藤白）

海南駅から南へJR紀勢線の西側の市街地を2キロほど行くと、全国の鈴木家宗家として有名な鈴木家が公開されている。

鈴木家の遠祖は天武十三年（684）に建稚臣を賜った朝臣で、饒速日命五世の孫である伊香色雄命の後裔となる。源義経に従い衣川で戦死した鈴木三郎重家と亀井六郎重清兄弟は藤白の住人であった。亀井家は早く途絶えたが鈴木家は上皇・法皇が熊野御幸時にも立ち寄った土地の名家である。

鈴木家からだらだら坂を上がると、樹齢八百年の大楠におおわれた藤白神社境内で、大楠の根元に楠・藤・熊の字を頂いて命名すると長命で出世するという子守楠神社がある。民族学の第一人者で博学多才の南方熊楠も当社から名前を頂いた。

旧県社の藤白神社は樹に長い立派な拝殿と唐破風付の社殿が見事である。斉明天皇の天武十三年（657）創建の古社で饒速日命ほか六柱をまつり、藤白（藤代）王子ともいわれ熊野九十九王子のうちでは格式の高い五体王子の一つである。

子守楠神社（藤白神社境内）

「紀伊万葉の会」「熊野古道を歩く会」の会長である吉田昌生宮司の話では、当地は熊野詣での上皇・法皇や平安貴族が必ず宿泊した要地で、王子社に法楽を捧げ社前で歌会を開き懐紙に歌を記したという。

②　藤白坂（海南市藤白）

藤白神社の社殿右手に小さな有間皇子神社があり、そこから熊野古道は舗装されてみかん畑の間を南へのびている。少し行くと有間皇子墓の石社と万葉歌碑が建てられ、五輪塔が数基あるが、皇子墓のもの所は見当がつかない。

有間皇子は謀反の罪で捕らえられ、紀温泉に滞在中の斉明天皇の元へ送られ、都へ護送される途中に藤白坂で絞首刑に

なった。中大兄皇子の策略か、蘇我赤兄の保身のための誤略に落ちたのか、有間皇子は不運であった。

皇子墓の伝承地を過ぎると樣木林をたどる細い坂道は急になり、海南の海が右手に見え始めると俗にいうハイクに適した自然いっぱいの山の坂道となる。

③ 藤白峠・地蔵峰寺（下津町藤白）

藤白坂を登りつめた峠が標高270㍍の藤白峠で、地蔵峠寺の地蔵堂がある。様式上の推定では室町中期の建立で、正面側柱に永正十年（1513）の銘がある。堂内の総高三㍍の石造地蔵菩薩坐像は峠の地蔵さんと信仰され、元亨三年（1323）と大工の薩摩産守行経の銘がある。鎌倉時代には八角形の覆屋程度の建物があったと発掘調査で推測された。現本堂は昭和五十一年に解体復元され地蔵ともども重文指定となる。

地蔵堂の右手が県指定史跡の塔下（峠の意味）王子社跡で、明治末までは橘本神社へ合祀された若一王子神社があった。

その裏手の台地は「御所の芝」と呼ばれる熊野古道の景勝地で、花山院が熊野詣での際に頓宮とした和歌浦を一望できる地である。

藤白峠の南側は一面のみかん畑に開拓され、古道は農道によって寸断されている。峠から橘本王子へくだる古道はゆるい曲がりの1㌔の道のりだったが、曲折する農道を歩くと倍近くも長くなる。

④ 橘本王子跡・橘本神社（下津町橘本）

橘本王子は明治末まで橘の大樹の下に存在したが、橘本神社へ合祀後はなくなり、王子跡の石碑は阿弥陀寺境内にある。

古道から少し西へはずれ、加茂川北岸の岩屋の滝の山麓にある福勝寺を訪ねる。本尊は千手観音の高野山真言宗だが、虚空蔵菩薩を安置する徳川頼宣創建の求聞持堂がある。

古道へ戻り、1㌔近く歩き橘本の南はずれにかかると市坪川左岸に橘本神社がある。昔は所坂王子の鎮座地で明治末に旧橘本村氏神として、垂仁天皇の命で密柑（橘）の原木を持ち帰った田道間守を主神にまつり、塔下王子社・橘本王子社と里神社など村内の小祠も合祀した。

橘本村と市ノ坪村は熊野街道の伝馬所に設定された街村で、橘本神社から1㌔南に山路王子神社（市坪王子跡）がある。近世の市ノ坪・沓掛・大窪の氏神で天照大神・応神天皇を祭祀してある。

⑤ 拝ノ峠・蕪坂（下津町沓掛・小畑）

山路王子神社から長坪山脈を越える標高320㍍の拝ノ峠へは、市坪の街道を南下して村はずれで南南西へ農道に拡張された古道を歩き、沓掛との中間では屈折する農道を迂廻して細いほぼ直線の古道を抜ける。

沓掛は加茂川の支流、市坪川の最上流域で川沿いに熊野古道は上がり、下沓掛・上沓掛の集落を南南西へ上がりきると、小畑との境界になる拝ノ峠へ着く。

拝ノ峠からの古道は標高455㍍の白倉山北斜面から西斜面を伝う横道で、加茂川支流の宮川上流域の小畑に段々畑が続く。

拝ノ峠から長坪山脈を越えるゆるやかな道を平途八丁または横午と呼び、小畑と有田市糀の境界付近が蕪坂峠と呼ばれる。『続風土記』には登り八丁、峠の平途八丁、下り六丁をすべて蕪坂としてある。

「紀伊名所図会」には「カブラもて鹿を射し坂なれば、カブラ坂と名付けしや。峠に茶店あり」と記してある。大正の中頃までは蕪坂にも数軒の民家があったが、今は果樹園のみで、拝ノ峠から約1・5㌔くだると有田市宮原町畑の蕪坂王子跡へ着く。王子社は明治末に宮原町道の宮原神社に合祀されたので跡地は竹やぶとなっている。

なだらかな横道の蕪坂

⑥ 山口王子跡・富原神社（宮原町道）

蕪坂王子跡から屈曲する街道の東側に残る古道を1㌔くだると爪書地蔵に着く。弘法大師が熊野修業のさいに阿弥陀仏と地蔵菩薩を大岩に爪書きしたと伝承されるが、遍照山金剛寺の方二間のお堂の中は暗くて二体の尊像は見えない。

爪書地蔵から南南西へほぼまっすぐな古道を1㌔もくだると山口王子跡へ着く。誉田別命を主神とした平安時代創建の古社で、宮原庄六ヶ村の郷土神として信仰された。明治末に宮原神社に合祀されて小祠を残していたが、現在はみかん畑になっている。

山口王子跡からほぼ南へ旧道村の街道筋を10分程行くと伏原の墓がある。熊野詣での途中に死亡した人々の墓で、遺族や村人が建立して霊を供養したという。

伏原の墓からさらに南へ1㌔ほど進むと古道より東へ離れて宮原神社が鎮座する。平安時代に勧請された応神天皇・神功皇后を祭祀する八幡神社に、明治時代に蕪坂・山口王子社を合祀し宮原六ヶ村（畑・道・東・南・瀬川原・滝）の産土神とした。

宮原神社から南へ入ると旧南村の宮原町新町で、西へと方向をかえて10分ほど行くとJR紀勢線の紀伊宮原駅へ到着する。

文学歴史探訪ハイク ㊳

飯盛山に楠木正行を訪ねて

松永恵一

東高野街道

東高野街道は縄文時代以来の峠線道路で河内を南北に通ずる大道である。生駒・信貴の山並みの西麓をほとんど一直線に走るこの道は、今日国道170号線と呼ばれている。東西に二本の170号線が並行して走るが、東側が古来の東高野街道で、西側は大阪外環状線である。

河内平野の北半分は、縄文時代前期の頃、大阪湾が東に大きく入り込んで海になっていた。古墳時代の前期頃まで河内潟、河内湖と呼ばれる状態であった。生駒・信貴の山並みの西麓を、南北に縫う東高野街道は頻斜変換線に相当しており、縄文・弥生時代の遺跡が多く、古墳や神社が数多く存在する。古くから、自然湧水を利用して集落が営まれ、踏み分け道が幾筋も生まれたのであろう。それを利用して直線古道が設置され、その道を踏襲したのが東高野街道である。

高野という名は、高野山への参詣道という意味。平安末期に空海を敬愛する人々が、空海の入定したと云えられる高野山奥の院に納骨する風習が全国的に広がった。高野聖と呼ばれる布教者たちは、東高野街道を利用して、京・南都を始めとして諸国に赴き、各地で遺骨を集め、高野山をめざして東高野街道を戻った。

京から船で淀川を、または陸路を淀川沿いに天王山南麓の大山崎に至る。ここは西の方、山陽道方面へ向かう『西国街道』の起点。高野詣での人々は、大山崎から対岸の男山八幡宮の下の橋本の宿に渡り、南の河ヶ峠を越えて西南に向かう。枚方市の茄子作町で生駒山の東麓を南北に走る磐船街道と分岐する。四条畷市の中野町で清滝街道と交わった東高野街道は一直線に南下し、柏原市の安堂で、大和川と石川の合流点を渡り、河内長野市を経て紀見峠を越え紀伊国に入り、橋本市に至る。ここからは東南方、指呼の間に高野山が望まれる。

飯盛山山頂に立つ楠木正行の銅像

飯盛山

大和と河内の国境を南北に走る生駒山地西縁で、独り突出しているのが飯盛山である。椀に飯を盛った形をしているので飯盛山と名づけられたという。

標高642・3㍍の生駒山上から見下ろすと、室池のある高壇に続いて、314・3㍍の飯盛山がこんもりと見える。続いているかのように見えるが、実は滝谷、桜池谷に浸食されて孤峰になっている。京都西南の咽喉部をおさえつける天王山のように、大和への西北の入り口でもあり、河内平野の東北部を扼する戦略上の要衝の地であったことがよくわかる。

南北朝時代の楠木一族と足利方の激戦の地、楠木正行の悲劇の地であることは忘れがたい。飯盛山麓には正行らをまつる四条畷神社がある。

吉野を出でゝ打ち向ふ
飯盛山の松風に
なびくは雲か白旗か
ひゞくは敵の関の声

母がよく口ずさんでいたこの歌が「四条畷」という題で、大和田建樹作詞、小山作之助作曲、明治三八年発行の『新編教育唱歌集』に収められているのを知った。

四条畷の合戦

建武の中興の業成らず、楠木正成は足利尊氏を湊川に迎え討つが戦死する。

正平二年（1347）9月、父正成より朝敵追討の遺訓を受けていた正行が挙兵。河内国観音寺の合戦で山名時氏を破り、11月、河内国野の合戦で細川顕氏を破る。尊氏は正行の動きを抑えるため、執事の高師直・師泰ら六万の軍勢を淀へ派遣する。正行は最後の合戦になることを覚悟し、吉野の皇居に参内、後村上天皇に拝謁してその決意を語る。後醍醐天皇の御陵を拝し、如意輪寺の壁におのおの名字を書き連ね、時世の歌を記した。

返らじと　かねて思へば　あずさ弓
なき数に入る　名をぞとどむる

梓弓で射る矢が立ち帰ることがないように、再びこの世に帰ってくることはあるまいと思うので、あらかじめこの過去帳に名を連ねることである。

正平三年正月5日、河内の四条畷に会戦する。三千の兵を率いた正行は、先陣を打ち破り、師直に迫るが取り逃がす。多勢に無勢、矢傷を負った正行は弟正時と差し違えて自刃し、従党皆これに倣った。時に正行23歳の若さであった。

室池

室池は生駒山系北麓、飯盛山の裏に当たる高さ270～280㍍の山中にある。砂溜池・中池・古池と新池があり、総面積は17ヘクタールと広い。これらの水は、専ら古池へ集められ桜現川に流れる農業用水である。新池ができるについて水争いなど生臭い歴史があったものの、その水と緑に美しい風景を見せている。

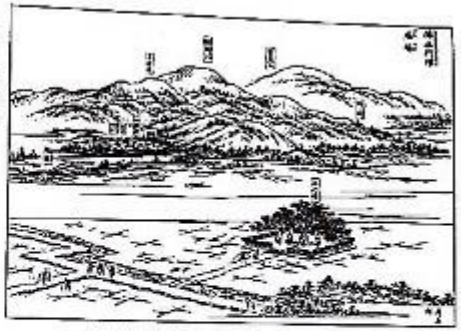
異国情緒すら感じられる風景は、水と緑の広さと静寂が、人の生活臭をいっさい遮ぎりているからかも知れない。

この室池の地には『延喜式』に「讃良郡讃良氷室一所」と記されている氷室が置かれていた。『日本書紀』の仁徳天皇六二年の条に、大和国の都介の氷室が記されている。「地下一丈程掘った中に茅萩を厚く敷き、その上に氷を置き、茅で蓋をする。夏を経ても消えない。その月途は、暑い月に、水酒に漬して使う。冬期に氷を蔵め、春分から取り出して使用した」と。

この付近一帯は萱草が多く、サギソウ・ウメバチソウ・ミミカキグサなどの群落もある。また多くの鳥たちの巣や、冬季の鶴でも親しまれている別天地である。

コース概説

今回のコースは、鎌倉末期、皇位の継承が、公卿・幕府の思惑がからんでもつれたとき、不利を覚悟で一身を投げうってあくまで正統の天皇を守り、明治維新の原動力ともなった大楠公楠木正成の嫡男で、父にも劣らぬ忠孝両全、篤厚く、智勇にすぐれた小楠公楠木正行の最後の地を訪ねる。過ぎし日の事跡を正しく認識するとともに評価する一日としたい。



楠木正行墳　壓隙『河内名所図会』

JR環状線の京橋駅から学研都市線に乗り、四条畷駅で下車。駅前を少し北へ行った楠公商店街を左に折れると西の突き当たった所に楠の大樹が目に入る。昨今の歴史教育のなかではすっかり忘れ去られてしまった、小楠公楠木正行の墓所である。

楠の大樹におおわれた墓域は寂然と静まり返っている。現在の大東市字ハラキリに於いて討死された正行の遺体はこの地に葬られ、南無楠現と書いた小碑が建てられた。楠の大樹は正行の活躍を顕彰するため、正長二年（1429）、山城の国に住む人たちが、碑の脇に二本の楠を植えたのが成長したものという。年を経て一株の如く合した楠は、内に小碑を包み込み幹囲り10㍍という巨樹に成長し、大阪府天然記念物に指定されている。

正行の墓は約12㍍四方の小さなものであったが、明治一〇年2月、明治天皇大和行幸にあたり、勅使をもって金幣を賜り、現在の規模にまで拡大され、内務卿大久保利通の筆になる「贈従三位楠木正行朝臣之墓」と記された大石碑も建立された。正行の墓地を出て楠公商店街をまっすぐ東に向かう。東高野街道と交差した所に一の鳥居があり、突き当たり飯盛山の麓に四条畷神社が鎮座する。祭神は、楠木正行。弟の正時以下24柱を配祀する。慶応四年（1868）、正行の殉節の地に神社創建を地元の有志が願い出て、その後も紆余曲折を重ね、明治二二年（1889）、明治天皇の勅許を仰ぎ、四条畷神社の社号宣下を賜い、別格官幣社に列格せられて、翌年4月、招鎮座せられた。

広い境内には参拝者の姿も少なく、ひっそりと静まり返っていた。昭和七年には甲司村を四条畷村と改称し、小楠公正行は地元に溶け込んだようであったが、戦後の歴史から全く忘れ去られたのを象徴するかのように、静寂だけが満っている。

一の鳥居から東高野街道を北に向かうとほどなく塚脇のバス停。道の東側に和田賢秀の墓地がある。賢秀は正行の従兄弟で、源秀とも新発意とも言う。正行討死後も敵にまぎれて高師直の首を取ろうと迫るが、わずかのところで見つかり諸膝を切られる。首を掻こうとする湯浅太郎左衛門を賢秀はにらみつける。その眼は閉じることなく湯浅に首を取られる。歯を食いしばって、眼を大きく見開いた凄絶な姿に日夜悩まされた湯浅は、七日

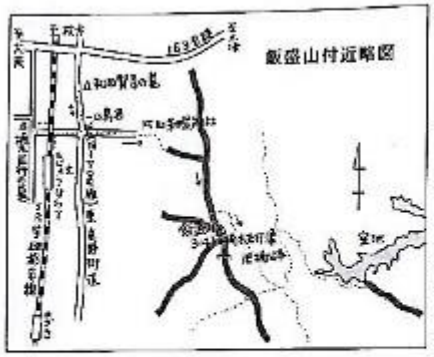
の後に狂い死んだと『太平記』は伝える。

天保二年（1831）、誤平の人永田友之は墓碑を建て賞賛に、

昔問へば　すゝき尾花の　嵐吹く

の句を刻む。

四条畷神社から飯盛山に登る。丸木の階段を上る。大阪府が整備した広い尾根道をゆるやかに登る。坂が急になり、登りつめると飯盛山の山頂。楠木正行の銅像が出迎える。吉野の知恩輪堂での姿を写したという像は、凛々しい頭立ちで北



に向かって雄姿を誇示している。見据える方向に視線を向けると、京都をも一望され、この山が東高野街道の要衝地に位置することがわかる。大阪の街並みから淀川を挟んで北摂が一望され、六甲の山並みとともに淡路島まで遠望できる。

台石には「忠孝両全」の文字が記され、北摂・西国街道の桜井の駅跡（高槻町）にある楠木正成・正行父子の別れの像の台石にある「誠忠孝公」の文字が想い起こされる。正行の銅像の後方に再建者の田伏兼松氏の像が建つ。昭和一二年に楠公会によって建立された黒岩淡翠氏制作の像は戦争によって供出された。

この地に初めて城を築いたのは、鎌倉時代末、北条高時の一族である佐々目憲法であった。付近には千畳敷・高櫓・馬かけ・鶴屋敷の地名が残る。戦国時代に入り、細川家家臣、三好長慶が城主となる。永禄三年（1560）、堅固な山城を築いて畿内に勢威をふるったが、長慶の死後は三好三人衆と松永久秀との内紛が続き、最後は織田信長によって破壊された。

山頂を後にして興公寺に向かう。この寺は寺名の通り、楠木正行とともに四条畷の合戦で戦死した人々の冥福を祈るために、昭和二七年に建立された寺で、八大龍王がまつられている右側に、「正平年間楠氏一族戦没霊十供養塔」がたたずむ。

南朝ゆかりの地を訪ねた後は、府民の森・緑の文化園むろいけ園地で憩いたい。ここは平安期に氷室・自然氷の貯蔵穴の置かれた地。休憩した後は、生駒山頂をめざして縦走してみたい。

歴史の表舞台から遠ざかった飯盛山は、いま四条畷から整下までの全35㌔の生駒連山縦走路となって延びた。

☆コースタイム☆

JR京橋駅（学研都市線約13分）四条畷駅（5分）楠木正行墓（15分）和田賢秀墓（15分）四条畷神社（1時間）飯盛山山頂（20分）興公寺（30分）むろいけ園地

＜費用＞

JR京橋駅～四条畷駅　290円

＜地形図＞2万5千＝生駒山

＜問い合わせ先＞

四条畷神社社務所　0720（76）0044

緑の文化園むろいけ園地案内所　0720（79）6362

特選コースガイド①　大和奈良

石上神宮から天理ダムへ

竹之内山

初級の上コース（★　）

慶佐次　盛一

大和盆地を取り囲む山々は交通の便がよいのか訪れる人も多く、登山道もよく整備され公園風にまとめられた山が増えてきた。今回はそんな中から、駅から歩けて、由緒ある神社を訪ね、登山道も未整備で、ちょっぴりワイルドな自然に親しめ、天理ダムへとくだる小さな山をご紹介しよう。コース自体は初級者向きだが、地図が必要だから初級者のやや上のコースとしたい。

近鉄天理駅で下車。駅には周辺の観光ガイドや「てくてくマップ」などの資料が常備してある。参考資料にいただいてから出発しよう。まずはアーケード付きの天理本通商店街を東へ、天理教本部を経て石上神宮をめざそう。さすがに天理教本部があるだけに、商店街のアーケードを抜けると天理教本部で、宗教関係の諸施設を過ぎて布留町につく。

信号を右折、ゆるい坂道の車道を数分歩くと石上神宮への標識があり、左折する。放し飼いの鶏が目につきだすと、もう石上神宮の境内である。

伝説上のツタカという魚が棲むという鏡池の側には牛の像がある。祭神は布都御魂大神で、これは神剣である。神功皇后五十二年（372）に百済王から贈られた国宝七枝刀はあまりにも有名で、もとは大和政権の武器庫だったとの説もある。神剣は神武天皇元年に宮中に奉祀、のち崇神天皇七年にこの地に移し奉ったというから、今から二千年以上も前の話である。清楚な拝殿（国宝）にお参りして、しばらく真海自然歩道をたどる。

境内を出て内馬場町の方へ進む。このあたりは観光客も訪れず、2月も末になれば梅が馥郁と香ってくる。道は次第に東西へ向き、車道を横断して内馬場町の小さな集落に入る。集落を抜けると山間に拓かれた段々畑で、目の前に低い山並みが迫る。

正面の低い尾根を挟んで左右に段々畑が続く。昔の地形図には正面の尾根に竹之内山まで破線路が描かれていたが、今は抹消されたようだ。しかし道は残っている。尾根の突端まで坂道を登り、左の農道に少し入ると右側に溝状に深く掘れ込んだ道がある。枯れ木などが入り口を塞いでいる場合は、ちょっと分かりにくいから要注意だ。

深く刳られた溝状の道が尾根にのり、その尾根が東南の方角、つまり竹之内山の方へ向けば正解だ。あとはひたすら尾根をたどるだけである。植林帯だからある程度山道は残り、やぶに悩まされることもない。展望には恵まれないが、右に大和盆地が望める所もある。そんな登りを続けていると、434㍍峰へと書かれた標識が杉の木に打ちつけられている。

ここまで来ればもう山頂は近い。傾斜はややきつくなり、低いササが現れると踏み跡も消えてしまう。ここは頑張って登りきると、古い標識が倒れている稜線に出る。再び道が現れ、これを右へとればすぐに3等三角点の竹之内山である。地形図には434・0㍍の標高が打たれているが山名の記載はない。それだけに訪れる人が少ないのか、静かなたたずまいを残し、展望は得られないもののいかにも大和の小さな山という雰囲気がある。

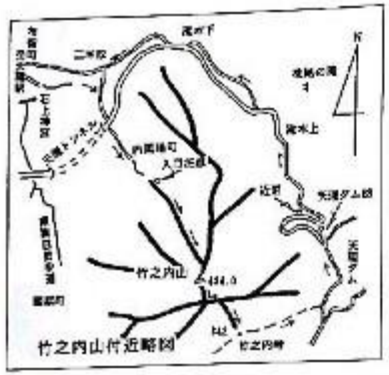
下山はさらに西へ進み、竹之内峠へくだる。こちらのほうはテープや小さな標識が残され、踏み跡もしっかり残っているから迷うことはない。ただし、峠直前のくだりは道が悪いから慎重にくだろう。峠の東側には地蔵尊がまつられ、昔日の往来が偲ばれる所である。

峠から東へ、天理ダムへ向かう。広い道も進むほどに先細りになる。湿地状になって道が消えかけている所もあるが、これは一部分ですぐにしっかりした道になり、天理ダムの車道に出て左折する。

天理ダム湖畔は、ベンチや休憩所も設けられており、遊歩道の感覚で歩ける。ダムは総工費九〇億円をかけ、昭和五十四年に完成。青垣湖の愛称もあるらしいが、私はこの愛称のほうが好きだ。国道に合流すると天理ダムのバス停があるが、昼間は便が少なく天理駅へは歩いたほうが早い。

車道沿いには梅林もあり、そちらこちらと紅や白の花が開いている。ダム下へくだる最後のカーブの手前の左側にも梅林があり、梅林の中をくだる階段の近道がある。あとは滝本上、滝本下、二本松を経て元の布留町へ戻り天理駅へ向かう。

静かな竹之内山山頂



竹之内山付近略図

△コースタイム▽

近鉄天理駅（40分）石上神宮（25分）竹之内山取付（50分）竹之内山（20分）竹之内峠（30分）天理ダムバス停（2時間）天理駅

△地形図▽2万5千＝大和白石・初瀬・大和那山・桜井

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!

・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2型（45人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもサロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒578　東大阪市瓢池本町1－20 オカダビル4F
電話 06(745) 3911・FAX 06(745) 3983
（夜間・電話 06(946) 0816・FAX 06(946) 6044）

特選コースガイド㉑　近江

2等三角点のある山

湖東三山と山

山形　威之

湖東三山と言ってもこれは山のことではなくて、湖東の有名な三つの寺の山号のことである。

松峰山　金剛輪寺
龍応山　西明寺
釈迦山　百済寺

いずれも天台宗の古寺である。私は特に寺に関心があるわけではないが、2等三角点の山を探していて、湖東三山の金剛輪寺に桑川山（松尾寺山）を、百済寺に同じ点名の百済寺村を見つけた。

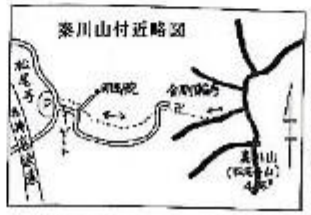
桑川山（松尾寺山）（468・8㍍）

点名　松尾寺村　中級コース（★★）

名神ハイウェイを八日市インターで降り、国道307号線を彦根方面に向かう。道標に湖東三山の百済寺・金剛輪寺・西明寺の名が出てくるので、しばらくと金剛輪寺の駐車場に到着する。

無料の広い駐車場に車を置くと、大きな提灯のぶら下がる山門をくぐり、本堂までの石段を登る。山門から本堂まで300㍍ばかり、登山の足慣らしである。石段の両側には水子供養の地蔵尊が無数に並び、一体一体にたと風車が供えられていた。やがて本堂に到着する。一般の観光客はここまでで一巡かくことになる。もっとも本坊まで車道が通じていて、マイクロバスが上がって来ている。

国宝になっている大悲閣本堂は、檜皮葺きの立派な建物で、七百年の歴史がある。内部には重要文化財の天平期の仏像が数多く安置されている。そのほか三重塔や二天門など、古寺のたたずまいは一見の価値がある。寺を拝観したら目的の山に向かおう。



本堂の周辺を探してみたが登山道らしいものが見当たらない。そこで本堂の若い僧に尋ねてみると、彼は私の姿を見回したうえで「霊宝殿から石段を登ると石碑があり、そこから登ります。ただし、道は荒れ放題で、落ち葉と倒木で埋まっているし、時々枯れ木が倒れてくるので、くれぐれも注意してください。お一人ですか」と、ちょっと登って欲しくない様子であった。初めに2万5千分の1の地図を示し、三角点の調査と言っておいたので、拒否はされなかった。

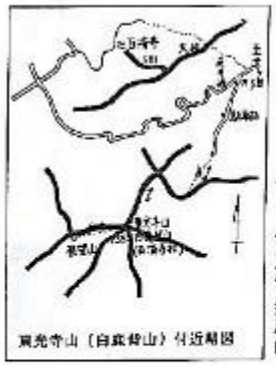
松尾寺村（桑川山）2等三角点

石碑の所に行ってみると、山側にはビニールのテープが張られ、立ち入りを禁止しているようであった。踏み込んでみると、道はすっかり落ち葉に埋まり、枯れ枝が左右から道をふさいでいる。最近は全く歩かれていないようだ。松の混じる雑木林で、枯れ木が目立つ。やぶこぎではなく、枯れ枝こぎで尾根道跡をたどる。雑木林のなかはどこも同じ状態なので、道を踏みはずさないよう注意する。幸い所どころに紫のビニール紐が付けられていて、見失わないようにたどって行く。30分ばかりで稜線鞍部の峠に登りつく。あとは南へ、これも草をかぶった道でやがて頂上に到着した。

雑木に囲まれて展望はなかったが、設置されていた三角点は左書きの新しい標石で、古びたポールに折られた小旗が絡まっていた。道は悪道に近く、測量の目的以外に登る人もなさそうだった。

≪コースタイム≫

金剛輪寺本堂（30分）峠（10分）桑川山



≪地形図≫5万＝御在所山
2万5千＝百済寺

東光寺山・白鹿背山（755・2㍍）

点名　百済寺村　初級コース（★）

南に戻り、愛荘町の百済寺を訪れる。この寺も金剛輪寺と同じく山の中腹にあり、古い石段を登って本堂に達する。

点名百済寺村の2等三角点は、この寺の裏山ではなく、南へ一つ谷を隔てたピークにある。永源寺町の君ヶ畑に抜ける車道を角井峠に車を走らせる。峠を過ぎて少し東にくだった所に南にのびる林道が現れる。ここに案内の総看板が建ち、林道終点まで1・5㌔、そこから展望台まで1・1㌔と記され、その途中に三角点も描かれていた。これなら簡単と車を林道に乗り入れると、雨で流された道はガラ場状で、道には草も茂り、けっきょく500㍍ばかり入った所に空地を見つけて車を止める。

登山口には展望山と書かれた道標が立ち、植林の斜面をひと登りで高圧鉄塔の建つ稜線に登りつく。稜線には整備された鉄塔巡視路が走り、小さい登りくだりを二つばかりで、簡単に山頂に到着した。

登山道の一隅に標石が入っているだけの、山頂とも言えないピークである。西に小倉への良い道がくだる。

展望山の道標はまだ西の尾根を指しており、地図ではピークはなく、尾根の端が展望台になっていた。行ってみると、展望台の標柱が立ち、石作りの方位盤があったが、木製の展望台はすでに朽ち果てて片隅に積み上げられていた。広くもない空地はすでに草に埋もれ、もちろん展望台がないので展望も得られない。

山頂には白鹿背山の山名板が置かれていたが、これは西隣の東光寺の山号で、白鹿背山や東光寺山と呼ばれている。しかし点名は百済寺村である。

残る西明寺にも行ってみたが、ここにも国宝の本堂や三重塔、たくさんの仏像が安置されているので、お詣りするのもよいだろう。しかし、ここには2等三角点の山はない。

≪コースタイム≫

角井峠林道500㍍地点（15分）林道終点（10分）峠（16分）東光寺山

≪地形図≫5万＝御在所山
2万5千＝百済寺

特選コースガイド③　奈良中部

宣長がたどった壺坂道

畑屋越

初級コース（★　）

柴田　昭彦

お里・沢市の『壺坂霊験記』で有名な壺阪寺（江戸時代までは壺坂寺と書いた）は、大宝三年（703）、弁基上人による創建と伝えられている。

壺坂寺から比蘇寺（大淀町比曽の世尊寺）へ向かう壺坂越の古道は、藤原道長ら平安貴族が吉野詣での際にたどったものとされ、今日の地形図に示された、壺阪峠（離宮の峯）を越えて、田口・恵佐・炭峠・比曽を経由するルートであると、一般に信じられている（前登志夫『吉野紀行』、雄崎司朗『奈良大和かくれ古寺巡礼』、上田正昭編『探訪古代の道』第一巻、中正谷正『関西山越の古道』下巻、直木孝次郎『新編わたしの法隆寺』など）。

ところが、秋永政孝氏によると、壺阪峠を越えて、田口へ出る道は、明治二十三年頃、軍用材を切り出すために新たに開かれた林道であって、高取官林を通るので、官林越と呼ばれたという。そして、道長ら平安貴族がたどったのは、官林越の西側を尾根伝いに越える「行者道」と呼ばれる古道によって、田口に通じたのだという（『大淀町史』昭和四十八年）。また、古老の話によれば、官林越開通以前は、壺阪寺から田口までは道らしい道がなくて谷の石を飛んだりして行ったものだという（『高取町史』昭和三十九年）。

従って中世の壺坂越が、壺阪峠から田口に至るルートであったとする通説は、かなり疑わしいと思われる。

明治15年（1882）「大阪全図地図」より

しかし、秋永氏の言う「行者道」については、宮坂敏和『吉野　その歴史と伝説』（名著出版、平成二年）にもふれてあるが、実際にどの道であるのかについては、はっきりしていない。

しかるに、近世（江戸時代）の壺坂越については、いくつかの文献によってルートが明らかにされている。

本居宣長が『菅笠日記』に記すところによると、明和九年（1772）3月10日、吉野を出て、六田へくだり、柳の渡しを経て、土田に出ている。そこで蕨餅を食べたあと、平坦な道を少し行き、右の方へ分かれて山沿いの道に入り、畑屋という里を過ぎて吉野方面をふり返りつつ峠を越えてくだり、壺坂寺に詣でている。この壺坂越のルートを、畑屋越と呼んでいる。

畑屋越の古道（峠の南側）

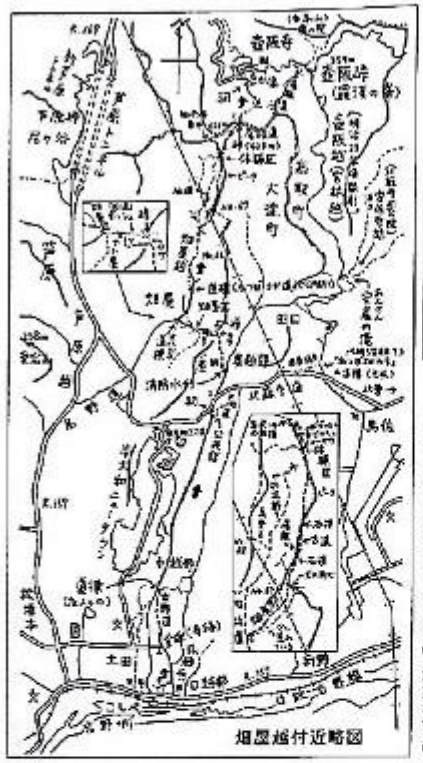
嘉永六年（1853）の暁鐘成『西国

三十三所名所図会』には、壺坂寺から吉野への道が、次のように記してある。

「先吉野に至るにハ、壺坂の門前より左へ坂を登り、峠より十町許下りて、右ハ下市高野等の道、左ハこしべ比蘇寺道、又夫より十四五町過て岐路、右ハ越部、左ハ比蘇寺。此所に農家一軒あり、越部村の内也。越部の一竹家といふ。是より比蘇寺に至り、吉野六田川に出る。およそ行程一里許。又越部より六田川に出るも壺数大抵同じ。」

文化4年（1807）「西国巡礼細見絵図」より

つまり、江戸時代の巡礼者は、壺坂寺からすぐに次の札所へ向かわず、吉野へ寄り道をすることが多かった（井上薫・田中智彦『西国三十三ヵ所巡礼』新潮社）のだが、その際に、やはり、畑屋越の壺坂道（吉野道）をたどったことがわかる。壺坂寺のすぐ南の峠から畑屋へくだり、高野山方面への道と分かれて、東南の奥越部へ山道を越え、比蘇寺や越部を経由して、吉野へ通じるコースがよく利用されていたのである。


畑屋越付近略図

ひょっとすると、明応五年（1496）に、三条西実隆が壺坂寺に参詣したあと、「畑越」坂。以外之嶮難也。下レ坂者、比曽寺。」と記している坂道は、通説では壺阪峠越だが実際には畑屋越を指し、当時の行者道だったのかもしれない。

江戸時代によく利用された畑屋越も官林越の開通によって利用者がなくなり、官林越が壺阪参りの巡礼や馬方、米を運ぶ人などでにぎわったが、電車の開通後はさびれてしまった。

今回、宣長の足跡を求めて越部から畑屋を経て、壺阪寺へ至る、畑屋越の古道をたどってみたので紹介しよう。

近鉄吉野線越部駅下車。駅前の信号で国道（伊勢街道）に出合う。宣長は土田まで進んでいるが、車の往来を避けて東へ少し歩いて、坂本橋を渡ってすぐ左折

してガソリンスタンドの壁に沿って歩いてすぐ右折すれば、ほどなく吉野道に出合う。左折して200㍍ほど北上したあたりは堂坂と呼ばれ、古代寺院、越部の四堂跡と伝えられている。田園風景を楽しみながら歩いていると、上り坂となり、左へ折れてすぐ駅前からの新道と合流する。ここは中越部（常門）で、分岐点に自然石道標があって、「左よしの」と刻んであり、たどってきた道が古道であることを示している。

北上して左手に南大和ニュータウンを見ながら歩くと、やがて奥越部に入り、公民館の前のポストが目に入る。少し先で広い道路に出合う。右手に灯籠と祠があり、以前は房佐へ抜ける古道（比蘇寺道）が通じていたものと考えられるが、今では旧道は消失している。越部の一箇家とは、このあたりの農家を指しているように思われる。

広い道路の左側に墓地があり、左へ分岐する田口へ通じる道をたどる。200㍍ほど進むと、左側に消防水利の表示があり、ここで左折する。正面の民家の前の道を抜けると右手に祠があり、山道をたどる。やがて少しくだったところでササやぶの道になり、そのまま進むと峠である。古道はここで左に折れてやぶを抜けると左手が畑で、まっすぐくだると小屋へ通じているのだが、廃道になっている。そこで峠から20㍍ほど引き返すと西側にエスケープできる道があり、畑に出たらその左端をくだり、溝のすぐ上で右折すれば小屋へ出ることができる。

小屋から少し西へ上がったところが畑屋辻と呼ばれる小さな峠である。「高取町史」や「大淀町史」によれば、明治の頃、毎年3月18日の壺阪会式の際、ここに店が出て、こんにゃくなどを煮るよい匂いがして、下淵や桧垣本方面からの参拝者でにぎわったという。

畑屋辻からくだると竹林に入る。右への分岐道を見送って進むと左手に庚申碑があり、ほどなく畑屋へ出る。ここには文化四年（1807）の灯籠と石標がある。「みぎかうやみち、左よしのみち」と刻んであって、桧垣本へ向かう高野道と奥越部へ出る吉野道との分岐点であり、交通の要衝であったことがわかる。

石標分岐で右をとり次の分岐で右へ進むと、150㍍ほどで「左つぼさか道」と刻んだ石標が見つかる。道路の改修の際、分岐の中央にあったのを左手に移動させたと、地元の人に聞いた。左の農道（旧道）は歩きにくいので、右の舗装道を進む。

やがて、民家が尽きて地道になる。300㍍ほど進むとコンクリート舗装が現れる。右手に水が流れ落ち、そのすぐ上に右へ入る山道があり、そのまま進んでもよいが、古道ではなく歩きにくい。古道の入り口はこの山道に踏み込んですぐ左手にあり、山道のすぐ上を並行して続いている。やがて、火の用心の看板が立つ分岐点に出て、先ほどの山道と合流する。道なりに北へのびているゆるい坂道が古道で、しばらくの間、尾根筋の右側に続いていて、幅も広く味わい深い。

古道の左側の尾根には巡視路が通っているので、赤い石標を目印にそちらを歩いてもよいが、やがて合流して一本道となる。ほどなく「休猟区」の看板が立つ分岐点に出る。正面の直登コースと左への道は巡視路で、右への道が峠に続く古道である。筆者が初めて訪れた時、ここの古道の入り口は猛烈なササやぶになっていて、完全に廃道化していた。

今回、畑屋越の現状を確認するために、踏み込んだ。ササやぶの中を進むと、やがて分岐点から峠まで分け入ったところ、四つの区間がやぶに覆われていたが、痕跡はよく残っていて、幅も広く、通過できる程度に整備し、青テープをつけておいたが、利用されないと再び通れなくなることであろう（猟期には、捕・罠手・鉄砲を忘れずに）。古道をたどらない時は、正面の直登コースを赤ペンキの目印に従って進むとよい。赤い石標に出て、左へ踏跡に注意して進み、杉の木の白ペンキの目印のところへ出たら、東へ尾根をたどり、右手にくだれば畑屋越の峠に出る。

地蔵もなく、峠の名称さえもないのは淋しい限りだが、畑屋峠と呼ぶのが適当かもしれない。峠からは赤ペンキの導くままに、壺阪峠の北西100㍍のあたりに出てもよいが、青テープに従って古道をたどることをおすすめする。古道の趣が色濃く残り、味わい深い道である。少し倒木があり、雨後はぬかるみやすいところもあるので注意しよう。

丸木橋を渡り、左側に谷を見ながら進むと下方に祠が目に入る。そのまま進んで谷を少しさかのぼり、大観音像の立つ場所の上のほうの尾根を横切って、壺阪寺の鐘楼の南方にある谷間に出てから門前に達したのが古道であろうが、現在では廃道になっている。

祠へ向かってまっすぐにくだる踏み跡があり、祠の下方には古い石垣らしいものも見える。祠から道路に面したゲートのところへくだる。ゲートは閉鎖されているので、手前で右へ回り込んでやぶを抜けると道路に出られる。壺阪寺前のバス停はすぐ前である。寺に参詣して、諸堂やレリーフ、匂いの花園などを楽しんでから、ハイキングコースをくだるのもよいだろう。

畑屋越は、壺阪峠越（官林越）が開通していなかった頃の壺坂越であり、歴史を刻んできた道である。その古道を後世にも伝えていくようにしたいものである。

（平成9年3月20日・7月22日歩く）

△コースタイム▽
近鉄越部駅（50分）奥越部分岐（30分）畑屋（1時間10分）畑屋越の峠（30分）壺阪寺

△地形図▽2万5千＝飯豊山・吉野山

山の本紹介

『大和路石仏散歩』

石福健造著
土舞と生活社
（学習ブックス）
本体1300円

大和路は素晴らしいと、つくづく思う。春や秋はただ歩くだけで楽しいし、夏にも、冬にも、四季それぞれの自然の美しさが身にしみる。そして、どんな所を歩いても、その背後にある歴史の深さが感じられる。

寺社や史跡を訪ね歩くうち、最も親しむようになったのが石仏だ。「野ぼとけ」といわれるように、野山にたたずむ石仏は、自然の風景に溶け込んで美しい。（本書「はじめに」より）

石仏を訪ねて大和路を歩く、日帰りの20コース。分かりやすいイラストマップ付きで、表情豊かな石仏の名品がたくさんの写真で紹介されている。初心者でもつい訪ねてみたくなる本です。

関西登山案内書の変遷　上

阿部恒夫
（日本山書の会会員）

(一) 関西登山案内書の黎明（明治時代）

小島烏水は一連の著作中、『日本山水論』（明治三八年・隆文館）の第四章「日本山系概論」で、早くも全国の名山にふれている。なかでも（其四）近畿・関西の山脈として、伊吹山、鈴鹿山脈、笠置山脈、葛城山脈、三上山、愛宕山、比良山、比叡山、高野山など近畿の山系にまで言及している。本格的な登山案内書ではないにしても、山岳専門書で関西の山を地理学的に紹介したのは、本書が嚆矢であろう。

続く明治三九年、高頭式編になる『日本山岳誌』が博文館より上梓され、ここに本邦総合登山研究書がいちおう大成されることになる。

ちなみに「近畿」とは皇居があった京都付近すなわち畿内に限定され、「関西」なら逢坂の関より西の地域と言われる。「関東」とは、箱根の関所より東の地方に区分される。一方、関東とは現在では東京を中心とした、いわゆる首都圏の延長サークル的な広がりを指しているようだし、関西も京阪神を中心にした広い範囲の意味に解釈されている。

(二) 地方案内書の台頭（大正時代）

『日本の山水』（河東碧梧桐著、大正四年刊、泰山閣）は、地方の名山を比較的詳細に述べている。なかでも関西地方の代表的景観として吉野群山が大きくとりあげられ、其の展望、吉野川沿岸、大台原山、前鬼山、役行者、大峰道路、大峰山岳観、其の雄壮と八章節にわたって詳記されている。

大正六年二月一五日発行『吉野群峰』（奈良市・植村書）は、おそらく関西登山案内書の魁（先駆け）であろう。別冊の『吉野名所』（白黒写真三十二葉・二十二頁）が半年も先に刊行されたことで知られている。このため、案内書と写真集の揃いはめったに見られぬ稀覯本である。

これらの山域が古くから修験道や大台教会（神道の一派）の道場として、遥拝者が多かったからであろう。しかしまた一方で、明治年間の日本アルプス探検登山が、黄金時代としての全盛期が終わるにつれて、標高こそは低くとも、次の山域をめざして未知の世界に憧れた当時の低山主義（日本アルプスの高山主義に対比したもので、非今の中高年者の低山徘徊趣味ではない）が、大正時代に入って登山の流行とともに、当然、手近な郷土の山が登山の対象となった。

日本アルプスという存在は、その頃の大衆登山者には高嶺の花であったから、近郊の低山にやたらと「〇〇アルプス」という名前をつけるのがはやった。学生や有閑階級のハイカラ趣味のハイキングやキャンピングが、庶民の徒歩（無銭）旅行や参拝登山と入れ替わっていった結果であろう。

地方における中級山岳登山は、山小屋、登山道、指導標などの面で、日本アルプスの夏山縦走より困難であったし、現在でも一部の山域では、同じことが立証されている。このような時代の背景と必要に迫られて、大正末期になってやっと地方登山案内書が刊行されるようになるのであった。

近畿登山研究会の『近畿の登山』（大正一三年発行）は、抽珍判とはいえ三三〇頁もあり、京阪神を中心とした日帰りの山、及び大和アルプス（吉野群山）のガイドブックで、付録に富士山案内までもあった。生駒、金剛、和泉・葛城・鈴鹿山脈、北摂・京都の山々、神戸・須磨、多紀・湘南・大和アルプス、奈良山地、熊野・紀伊連嶺など、地図・索引もあり、総合案内書の先駆本となった。

森本次男著『紫林の山旅』

(三) 登山案内書の確立（昭和前期）

住友山岳会編『近畿の山と谷』（研文堂刊・昭和七年初版、一一年改訂版、一六年増補版）こそ、数ある関西の総合登山案内書中の決定版であり、偉大な金字塔でもある。同じ明文堂の『大阪周辺の山々』や、山と渓谷社の『関西の山・三〇〇コース』などは、本書の亜流であり模倣である。戦前と戦後では、登山案内の山域、自然、交通などの条件は驚くほど変わった。しかし現在でも、その大部分は参考に値するし、その後のガイドブックのほとんどすべてが本書の影響を受けている。

ところで『吉野群山』（岸田日出男／笹谷良造共著、昭和一一年・郷土研究社刊）は、大和山岳会の正統による吉野をめぐる紀行と考証で、吉野の山の魅力たっぷりだ。

大正一二年以降、比良研究に着手された角谷太郎氏の最初の労作『比良登山図』（昭和七年・日本アルカリ会発行）は、今日からみれば三万五千分ノ一の地図にすぎないが、当時としては得がたい資料と情報だったのである。その後の研究成果を公にされたのが、『比良連嶺』（明文堂／昭和一四年初版・同一六年目版）であり、「比良案内書」の原典となった。さらに同氏の研究は進んで、『比良展望』（趣味の京阪叢書・第六輯・昭和一七年・京阪電鉄発行）となり、戦後の二一年には同シリーズが「ハイカーの径」として復活した。京阪系宝書房の第五輯『比良叢書』がそれで、比良山系の開拓と啓蒙に心血を注いだ「比良三部作」が完成した。

不朽の名著『京都北山と丹波高原』（森本次男著、明文堂／昭和一三年初版・同一八年改訂版）が、「山旅叢書」として、前記『比良連嶺』にさきがけて発行され、著者自ら「北山課程」を屋杉荘に開講、京都社会人岳界の聖地となった。角倉・森本両氏の著作集が戦前・戦中・戦後と精神的な影響は大きく、京都府山岳連盟創設の大黒柱になったことは、年者など第二世代のよく知る通りである。

『六甲・北摂ハイカーの径』（昭和一二年初版・同一六年改定六版、木藤猛一郎著、阪急ワンゲルの会発行）にも触れておきたい。

『京都をめぐる山々』（森本次男／昭和一七年、京阪電鉄発行）は前記「趣味の京阪叢書」第一〇輯なのだが、戦時下の出

版のため両書ともあまり知られていない。

森本次男著『樹林の山旅』（昭和一五年、朋文堂刊）は、副題「奥美濃紀行」とあり、文献目録では紀行文集に扱われたりする。しかし内容は案内的紀行文であり、文学的案内記だから、登山案内書の分類にいれるべきである。奥美濃地方のかくれた山岳地帯を足繁く訪れ、当時このあたりは至って交通が不便なこともあり、最近までガイドブックの空白地帯だったため、数葉の概念図とともに文献としての価値は高い。さらに古書としての人気も衰えず、消耗品的な登山案内書の中では異色の存在であろう。

積雪期の案内書として、『冬期登山とスキーツアー』（昭和一三年初版・同一七年五版朋文堂刊）は、冬山の総合技術書まで兼ねており、合計二万部も売れたと聞いている。共同執筆者として近畿地方は関西山小屋倶楽部の山田奈良雄氏が分担している。いずれにしても朋文堂は、雑誌「山と高原」「山小屋」などを月刊していたから、森本氏、角倉氏、西岡一男氏など、関西の同人誌的執筆陣お抱えの感があった。

また『日本山岳案内』第五輯「スキー場・西部編」が、鉄道省山岳部の総力で、昭和一六年に博文館より発行されている。

以上のように戦前の登山案内書は、関西も関東も出版社だけでなく、電鉄会社も熱心だったのが、その特色でもあった。

しかしながら、戦局の悪化につれて、登山案内書も他の書籍同様、しばらくの間、暗い灰色の時代を迎えることになってしまったのである。

（次号につづく）

山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

1 北アルプス総図
2 白馬岳
3 鹿島槍・黒部湖
4 剱・立山
5 上高地・槍・穂高
6 乗鞍高原
7 御嶽山
8 中央・南アルプス総図
9 木曽駒・空木岳
10 甲斐駒・北岳
11 塩見・赤石・聖岳
12 妙高・戸隠
13 志賀高原・草津
14 軽井沢・浅間
15 西上州・妙義
16 美ヶ原・霧ヶ峰
17 八ヶ岳・蓼科
18 富士・富士五湖
19 箱根
20 伊豆
21 丹沢
22 高尾・陣馬
23 大菩薩連嶺
24 奥多摩
25 奥武蔵・秩父
26 奥秩父1 雲取山・両神山
27 奥秩父2 金峰山・甲武信
28 谷川岳 苗場山・武尊山
29 越後三山 巻機山・平ヶ岳
30 尾瀬
31 日光 男体山・奥鬼怒
32 那須・塩原
33 磐梯・吾妻・安達太良
34 飯豊山
35 朝日・出羽三山
36 鳥海山
37 蔵王 面白山・船形山
38 栗駒・早池峰
39 八幡平 岩手山・秋田駒
40 十和田湖 八甲田・岩木山
41 ニセコ・羊蹄山
42 大雪山・十勝岳
43 白山
44 霊仙・伊吹・藤原
45 御在所・鎌ヶ岳
46 比良山系
47 京都北山1
48 京都北山2
49 京都西山
50 北摂の山々
51 六甲・摩耶・有馬
52 葛城高原・二上山
53 金剛山・岩湧山
54 紀泉高原（改訂中）
55 高野山（改訂中）
56 大峰山脈
57 大台ヶ原・大杉谷・高見山
58 赤目・倶留尊高原
59 氷ノ山 鉢伏・神鍋
60 大山・蒜山高原
61 四国剣山
62 石鎚山
63 福岡の山々
64 九重・阿蘇
65 祖母・傾
66 屋久島 種子島

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春頃発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くださいますようお願いいたします。
※昭文社の「山と高原地図」へのご質問・ご意見がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また新情報等お教えいただければ幸です。

株式会社 昭文社
本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川 新潟・金沢・名古屋・京都・広島・福岡

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽近鉄登山「霧氷の和佐又山へ」1月11日(日)雨天決行〈集合〉大和上市駅前9時15分〈コース〉大和上市駅（バス）和佐又口―周遊路散策―和佐又ヒュッテ―和佐又口（バス）大和上市駅（約12㌔健脚向）参加は中学生以上の健脚な方・無料（バス代は別途）＊アイゼン必携、天王寺事業06（624）0382〜3

▽近鉄登山「お山詣参三峰山」1月15日(祝)雨天中止〈集合〉榛原駅前9時10分〈コース〉榛原駅（バス）みつえ青少年旅行村―造林小屋―三峰山―八丁平―造林小屋―不動滝―みつえ青少年旅行村（バス）榛原駅（約10㌔健脚向）参加自由・無料（バス代は別途）＊アイゼン必携、上本町事業06（775）3566

▽歴史街道を行く 大和七福神と寺宝巡拝ハイキング「第一回寿老神・恵比須天・弁財天巡拝」1月18日(日)雨天2月22日(日)または2月28日(土)に延期〈集合〉橿原神宮前駅中央改札口前10時〈コース〉橿原神宮前駅―久米寺（寿老神）―安倍文殊院（弁財天）―おふさ観音（恵比須天）―桜井駅（約12㌔）参加自由・無料（交通費・朱印・拝観料は別途）上本町事業06（775）3566

▽歴史街道を行く 大和七福神と寺宝巡拝ハイキング「第二回大黒天・福禄寿神」1月25日(日)雨天2月22日(日)または2月28日(土)に延期〈集合〉壺阪山駅10時10分〈コース〉壺阪山駅―子嶋寺（大黒天）―石舞台古墳―談山神社（福禄寿神）―多武峰（バス）桜井駅（約10㌔）参加自由・無料（バス代・朱印・拝観料は別途）、上本町事業06（775）3566

▽歴史街道キャンペーン'97〈歴史街道100選〉探訪ハイキング「第5回飛鳥を訪ねる」1月31日(土)小雨決行〈集合〉飛鳥駅前10時40分〈コース〉飛鳥駅―国営飛鳥歴史公園館―高松塚古墳―川原寺跡―橘寺―石舞台古墳―岡寺―飛鳥寺―飛鳥坐神社―甘樫丘（バス）橿原神宮前駅（約10㌔）参加自由・無料（拝観料・バス代は別途）＊受付先着1000名様に「歴史街道オリジナルワッペン飛鳥版」を進呈、天王寺事業06（624）0382〜3

▽歴史街道を行く 大和七福神と寺宝巡拝ハイキング「第三回布袋

○新ハイ関西サービスチェーン

名峰・二岐山 小白森―大白森―甲子・旭岳への縦走基地 1名でも宿泊可（要予約） [illegible]
日観連 福島・二岐温泉 大和館
〒962-[illegible]
福島県岩瀬郡天栄村二岐温泉
☎0248―84―2021
F 0248―84―2706

四阿山・湯ノ丸山・池の平湿原・浅間山の登山基地 標高1360m、日本百名山のうち約40座が眺望できる雲上の大パノラマへ
新鹿沢温泉 真田屋
〒377-[illegible]10
群馬県吾妻郡嬬恋村新鹿沢温泉
☎0279―98―0111

富士眺望・富士五湖 東海自然歩道 （石割山・ハリモミ純林）
三国山の麓
ペンション コットンテール
〒401-05
山梨県南都留郡山中湖村平野
☎0555―65―8515

大菩薩連嶺の中間から湯ノ沢峠分岐点 個室・岩風呂あり JR中央線初狩駅下車タクシー10分 バス20分登山口下車徒歩3時間
山小屋 福ちゃん荘
〒404 山梨県塩山市上萩原2832
☎（自宅）0553―33―4639
（山小屋）[illegible]

機」 2月1日(雨天は2月22日(日)または2月28日(日)に延期〈集合〉上ノ太子駅—竹内街道—二上山・岩屋峠—当麻寺中之坊(石装尊)—当麻寺駅(約5㌔)参加自由・無料(朱印・拝観料は別途)、上本町事業06(775)3566

▽冬の葛城高原樹氷登山」 2月1日(雨天中止〈集合〉葛城駅前8時15分〈コース〉葛城駅—太田—伏越—当麻駅—博奥社—葛城山頂駅(約10㌔)(往復)参加自由・無料(バス・ロープウェイ代は別途)＊アイゼン必携、天王寺事業06(624)0362-13

▽文学散歩「万葉の心を求めて万葉の丘に立つ④天香具山」 2月8日(雨天中止〈集合〉桜井駅前10時10分〈コース〉桜井駅—土舞台—安倍文殊院—万葉の森—天香具山—藤原宮跡—八木駅(約11㌔)参加自由・300円、講師武原川大学教授大森芳尚氏、上本町事業06(775)3566

▽歴史街道を行く、大和七福神と寺宝巡拝ハイキング「最終回寅年の信貴山毘沙門天王」 2月15日(日)(雨天は2月22日(日)または2月28日(日)に延期〈集合〉竜田川駅前10時〈コース〉竜田川駅—信貴山奥の院—信貴山朝護孫子寺—信貴山赤門前—信貴山のどか村—恩智駅(約12㌔)参加自由・無料(朱印・拝観料別途)、上本町事業06(775)3566

神戸電鉄

▽神鉄ハイキング「新春歩き始め、性海寺鬼おどり見物ハイク」 1月15日(雨天中止〈集合〉押部谷駅10時20分〈コース〉押部谷駅—近江寺—生吉神社—性海寺(鬼おどり)—押部谷駅(約10㌔家族向)、参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521)0321

▽神鉄ハイキング「樹氷の六甲に挑む、石切峠と紅葉谷道雪景ハイク」 2月8日(雨天中止〈集合〉深田池公園(阪急御影駅北約100㍍)9時30分〈コース〉阪急御影駅—深田池公園—白鶴美術館前—石切道—渡奈古—紅葉谷道—有馬温泉駅(約13㌔健脚向)参加自由・無料＊アイゼン必携、神鉄観光事業部078(521)0321

山陽電車

▽山陽ハイキング「鉢伏山・梅尾山ハイク」 1月18日(雨天中止〈集合〉須磨浦山上展望園前10時〈コース〉展望園—おらが山—桐尾山—行者の滝—月見山駅(約8㌔一般向)須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520

▽山陽ハイキング「播州・松めぐりハイク」 2月1日(雨天中止〈集合〉高砂十輪寺山門前(山陽電車高砂駅下車南へ500㍍)10時〈コース〉十輪寺山門前—高砂神社(相生の松)—尾上神社(尾上の松)浜の宮天神(菅公お手植の松)—別府駅(約12㌔一般向き)須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520

▽山陽ハイキング「ジェームス山・鉢伏山ハイク」 2月15日(雨天中止〈集合〉滝の茶屋駅前城が山公園10時〈コース〉城が山公園—ジェームス山—旗振山—鉢伏山—須磨浦公園駅(約7㌔家族向)須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520

□これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。

民宿 平ケ峰渓谷と釣りの山小屋
標高二百四メートル定宿公園内
清四郎小屋
はんものの手打そばと山菜は
樹海
〒946 兵庫県北条郡
電話 0220—55—6028(集荷山)
期間外 0257—2—5026

汗をたっぷり流せる温泉と
笹ケ鉾牛のシャブシャブ
日本海の鮮魚と山の幸
ハイカーの宿
ナガサキロッジ
〒949—21 新潟県中頸城郡
妙高高原町池の平温泉
電話 0255—86—2261

富山の花、温原の花
妙高山と八ケ岳
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949—21
新潟県中頸城郡妙高高原町
池の平温泉 ナガサキロッジ
電話 0255—86—2261

海から昇る朝日と海に沈む夕日
を眺め、山と海の両方が楽しめ
る、太佐渡縦走の要点。昼と夜
昼に酔いながら語らいはずむ
国民宿舎 大佐渡ロッジ
1泊2食付3,600円
〒952 新潟県両津市椎
電話 0259—27—4570

せせらぎ

題字・小林玻璃三

丑年生まれの山友が6月に定年退職したのを記念して、「牛」のつく名前の山に登ろうということになりました。

まず手始めに8月11日「牛岳」に登りました。その日は晴天で足下には砺波平野から富山市の町並み、その向こうに富山湾が霞んで見え、東には立山連峰が望めました。その後、「牛廻山」「牛草山」「牛堀山」「牛巣山」と登り、10月10日には「牛ヶ峰」(静岡県)の山頂ですきやきをつつきながらリインで乾杯してこの行事のお開きとしました。

丑年生まれの年男が、今世紀最後の丑年に、「牛ヶ峰」で牛を食らう。このような無理やり理由は他に登山者がいないこと、0・2㌶の踏み台に乗ればジャスト999㍍になることからである。

事前調査の結果登山ルートが無いのが分かったので、県境尾根をとることにする。メンバーはAさん・Iさんと私と三人なので気楽に山に取りつく。すぐに背丈の倍もあるクマザサの歓迎を受け、地図と磁石、そして鉈と気力でササ原を泳ぐ。しかし、冬期の降雪でササは倒れ、機に斜めに密がついたままで前進を拒む。

歩き始めて6時間、正午を過ぎたので食事をしながら現在地・所要時間・日没時刻等を考え今後の展開を話む。谷筋に少しくだっているので展望尾根にのり、踏み跡かけもの道があればピークを目指すことにする。が、尾根近くにもけものすら歩いた跡がない。

残念だったが入山地点へきびすを返し、やっと景色が目に飛びこんだのは入山後8時間30分が過ぎてからであった。手足がいっぱいにのばせ、そして遠望のきくことがなんと嬉しいこと

休憩食事入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福島館
〒250—06 神奈川県足柄下郡
箱根町仙石原1—39
電話 0460—4—9041

「伊豆の踊り子」の情緒 レトロな宿
眼下に河津川の渓流
湯ヶ野温泉 湯ヶ野荘
ご宿泊の方に当荘「天城山」ハイキングコース案内書を差し上げます
〒413—05 静岡県賀茂郡河津町湯ヶ野93
電話 0558—35—7225

四季織りなす霧降高原のハイク
上宮堆・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき造りと味の宿・日観連
温泉旅館 けやき山荘
〒390—15
長野県南安曇郡安曇村梓枝高原
電話 0263—93—2555

きわやか信州
蓼科高原 山吹の湯
湯田中温泉(渋温)
日野屋旅館
〒381—04 長野県下高井郡
山ノ内町湯田中温泉観光
電話 0269—33—3578

か。

身も心も軽くなり、車に帰り着いたのは、陽も西に大きく傾いて午後4時を回っていた。

反省の弁は後に譲るとして、これは初秋のリナ山での顛末記である。（須磨岡　輔）

山行短歌

8月5日　山陰大山
日本海を視界から消す雨霧よ
大山の夏遥かに霧れて

8月13日　和泉葛城山
渓流にて動えば日照る私刑より
渇きは焦えて熱き血は生まれ

8月19日　乗鞍岳剣ヶ峰
陽は昇り来て乗鞍に回くだは
夏の激歌を君に奏でる

8月31日　紀北鉢盛山
紀の川に巻かれる如く山あれば
遊けるブルーに染まる被線

9月20日　丹波三尼山
嫁さん貰った友を車で連れ出して
誘惑するもの青き峰々

9月28日　北摂三草山
神の峰を流れて来た風が生む
稲穂の波は金色に燃え

10月6日　鈴鹿藤原岳
背丈越す藤原攻めて山の峠間
出会う眺望にブラボーと叫ぶ

10月14日　大台が原山
まるで草標のトウヒの白骨林に
何を弄り君等は行くか

10月16日　比良武奈ガ岳
春に来て忘れて帰った山の眺め
晴れ渡る三六〇度の再会

（木村　太郎）

秋雨秋林

篠つく雨も山頂に着くころには細雨になっていた。ガスは稜線へと昇っていくけれど、西の山稜の上は灰色の雲が居すわっている。

山歩きはヤッパお天気の日が良いわね、そうだよね、でも雨もまたおつなものですヨ。

暑くもなく寒くもなく、雑木林の中を霧雨や細雨とともに、ブナの滑らかな木肌を伝う雨滴の動きを見る。流れるガスのなか、木の葉から泉に落ちる雨だれの音を聴きながらしっとりとした落ち葉の上を歩く。秋雨秋林は絵になる。

七人山の山頂は、木の実ときのこを拾い、鹿の鳴を呼ぶ声にその姿を探しながらユラユラと到着した。ゆっくりとお昼にする。雨の日は虫が飛ばないから急かされない。

霧みはシシのヌタ場、ほんの先ほどまでヌタって居たんだネ。どこでも歩けるブナと楓のすてきな雑木林、盆をさしてお喋りしながら歩く逍遥の世界に満足している。

ササを割って東雨乞に着くと、視界は全開となってくる。雲は高く昇って遠く布引山脈が霧に浮かぶ、鈴鹿の主稜は雲の袴をひるがえして、幾重にも連なっている。

山々の一番美しい姿、それは嵐の後の天候が回復していく過程に見られる。台風で荒れ狂う天地、翻弄される木々と渓谷に明るい陽が差して平穏に戻る時。冬将軍の何もかも押し殺す強さ、そのあとに来る優しさは、我に敬虔な感動を与えてくれる。

山歩きはヤッパお天気の方が良いわね。だけれども、天候の変わり目は、感動も大きくなって、山歩きが充実するのもホントのことなのです。

（西井　克治）

結婚記念日の山に大笠山を選んだ。人形山・金剛堂山・白木

標高2000m上の温泉
湯の丸高峰自然林愛林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384
長野県小諸市高峰高原
電　0267－25－2555

日本最高位の温泉（2400m）
立山・室堂平
みくりが池温泉
連絡先〒930－14
富山県上新川郡大山町室堂3－47
電　076－482－1031
4／9－11／25は現地へ
電　0764－65－4595

ハイキングに／スキーに／
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　熊の湯温泉下車
電　0269－34－2421
東京本社・東京都新宿区新宿3－20－5（新光第2ビル）
㈱スポーツサービス
電　03－3341－0211

塩の道　千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399－93
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電　0261－72－4452

峰など登りたい山はたくさんある。しかし、大笠山を選んだ。ブナオ峠から行こうか、桂湖からの近道にしようかと、コースは決めかねていた。

あいにく出発日は雨で、まず見に行ったブナオ峠のキャンプ場は荒れていて寒々としていた。やはり近道がいい。桂湖へ戻り、いよいよ激しくなった雨にも負けず、大黒谷吊橋手前にテントを張った。

翌朝、雨が少し残ったので相棒はいまひとつ意欲がない。8時過ぎ空が切れた。急いでそいそと準備をして出発。急登にガッチリした金属性のハシゴが取り付けてあるのがありがたく、どんどん登った。一度休憩を入れて10時40分、天の又1522ｍへ着く。まだ先は長い。

ここから少し行った所で、左手に堂々と笈ヶ岳が姿を見せた。それをフィルムにたくさん収めた。残雪期にその長稜を登りに来るのだと思うと胸が熱くなる。

紅葉が始まろうとする9月のブナの森は、赤いナナカマドの実に飾られていっそう美しい。右手に時おり、奈良岳や大門山が大きく見える。やがて、パッと目の前が開けると避難小屋に出た。現在ヘリコプターで資材を荷上げして建て直し中である。

そこから山頂への急登を見上げるとアングリするが、30分程でブナオ峠からの稜線との分岐に出た。頂上までもうすぐだ。12時35分、二人で山頂に立った。雲海の顔は明るい。これに白山の展望があれば申し分なかったのに。

（栗津　典子）

9月下旬、中国山地の東端に位置し、中国地方第二の高峰とされる氷ノ山（会鶴の山）に登った。目的は、私自身標高差940mの登山が今後も可能かどうかを確かめることにあったが、まずは順調に予定時間通り登・下山できた。これならばまだ二～三年の低山歩きは可能だと自信を持った次第である。

ルートは多田ケルン横から登山道に入り、地蔵道～氷ノ山越～山頂～夷岡根～奈良尾という縦断コースをたどった。のぞきの滝を通過する手前の登山道脇に、《氷ノ山遭難者に捧ぐ》との遺難者の冥福を祈願する石仏があり、はっと胸を打たれた。「石仏と一緒にあゆめ夢の国」と記された石碑も並んでおり、それには1997年と併記されているので、遭難場所とは異なるにしても、今冬1月に遭難された5人のために彫立されたのではなかろうかと推測され、思わず合掌したのであった。

ちょうど一年前、京都府の最高峰皆子山へ登った時のことが思いだされる。寺谷へ入ってしばらく登ると、登山道の横に、内部がきちんと片づけられた古い無人小屋がある。「昭和42年1月元日、日本アルプス極高原風雪にて両雄せる石崎雄二郎二十九才の慰霊のため多数の浜清による石崎小屋、父記」との貼札があったので由来を知ったが、柄に「石崎さんお元気ですかS60・4・21　京都山上の会一同」と書かれた紙も留められていて、強く胸を打たれたのであった。

登・下山の途中にこうした情景を目にすると、いつも遠しく寂しい気持ちになる。しかし一方ではボカを犯しやすい私に対

春・秋　小グループ
白馬の自然案内します
白馬ファミリーペンション
和田森
〒399－93　長野県北安曇郡
白馬村八方和田野
電　0261－72－3351

登山歴20年のオーナー自然案内
針の木岳、雨飾山～火打山など
へご案内します。
テントキーパー
1泊2食付き　6500円から
〒399－93
長野県北安曇郡白馬村おちくら
電　0261－72－2151

八ヶ岳南北縦走の中心地
49年秋新館増築完成全館個室
木の香匂う新浴室温泉水風呂
オーレン小屋
1泊2食付き　6000円
4月末～11月末開設
〒399－02　小谷村
茅野市湯川2229　小谷秀夫
電話　0266－72－2279

北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー
JR茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します
宿料高原
プチホテル　カナール
〒391－03
茅野市北山蓼科高原横谷丸平55
13の1
電　0266－67－2258

し、焦らず英知を傾けて、謙虚に行動するようにと忠告してくれているような気がしてならないのである。　（東谷　宏）

つい先日、いきつけの書店で、登山ガイドブックなどの並ぶ棚の一角に、気持ちがパッと晴れやかになるような書物を見つけました。書名は『森を楽しむ山登り』（松倉一夫著　山と渓谷社刊）

最近の忙しさにかまけてまだ読んではいませんが、パラパラとめくって見た目次から、あるいは「まえがき」の「これまで誰でしょうがなかった林道歩きや林縁歩きが苦にならなくなった」という著者のことばから、深く心和む感慨を覚えたのでした。「ああ、ついにこういうガイドブックが登場したのか……」と一人悦に入ってしまいました。

山登りの目的は、人それぞれだとは思うのですが、山に平地より高いという地形的な違いだけでなく、はるかに豊かな自然を育んでいるのですから、そうした自然を風景としてしか感じられない歩き方は、やはりさびしいと思うのです。

群衆の中の人間には、親しみも感じられず、その個性もわからないと同様に、風景としての自然には、あまり親しみがもてません。山を歩きながら自然のなかに分け入って、その営みのありさまに感動できる山登りを続けていきたいと気にします。ただ、そのためには一定の条件整備がどうしても必要なようです。

10月例会の能郷白山山行は、80人近い参加者となりました。能郷白山という山の人気のほどに驚かされましたが、自然と親しむには、やはり無理がありました。できるかぎり少数のほうが山の自然も優しく迎えてくれるようです。

そうしたことから、1月の例会山行から定員制にしました。

（鷲見　守康）

十月山行報告

2日　「伏見公民館「大和の峰を歩く」（牧岡～南生駒）案内。参加38名。

5日　「やまと地形図の会」例会。Ⅲ△正雪～鳴川峠案内。参加25名。

10日　「点のつどい」例会、Ⅲ△城ヶ峰とⅡ△高取。参加33名。

13～14日　「大和渡歩会」番外。大彩谷～大台ヶ原へ。参加18名。

16日　伏見公民館「平城京への道・最第」紀伊路その2（吉野口～笠縫）案内。参加36名。

20日　Ⅲ△不動池（八丁峠）へ。計370点、94%。

27日　「大和渡歩会」例会。Ⅰ△滝門岳へ。頂上で宴。参加31名。

29日　「生駒さくら会」天川みたらい渓谷案内。参加26名。

30日　「峠一番」例会。鳩ノ首峠（西熊野街道）案内。参加22名。

（上田　伸弘）

「頭号のコースガイド「頭中山」で上谷コースは覚えていて歩きづらいと紹介しました。しかし、会員の方の報告では、このコースは昨年夏の京都高校総体のおりに整備して使われ、今ではとても歩きやすくなっているとのことでした。訂正してお知らせします。

（村田　智彦）

日本唯一の女人禁制の山「大峰山」（前鬼口）の登山口
和歌山県「女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋善八
1泊2食付　¥6,000円から
〒638-104
奈良県吉野郡天川村洞川
電　07477-4-0309

九州の最南峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-43
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電　09972-6-3021

ハイキング・キャンプに／
鈴鹿国定公園
明神渓谷　あさけ茶屋
〒510-112
三重県三重郡菰野町千草
電　05939-93-1789

○「せせらぎ」欄は自己投稿です。最新の情報をお寄せください。山行の思い出や感想など。一行15字詰め・20行程度にお書きください。

新ハイキング倶楽部編集室

山行計画

（1・2月）

新ハイキングクラブ倶楽部

このページの山行計画には、「△貸に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・PAXでの申し込みはお断りします。「貸切」のほかに参加者代表の自の資格代表者をいただくことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点毎の既、保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（後行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容には次の通りです。（安田火災海上保険会社と契約）

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金　日額	5000円
通院保険金　日額	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・5本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行　②スキー使用の山行　③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行　④宿泊場所内の事故　⑤病死の場合（詳細は係まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書

山行名（正確に記入すること）

期日

住所　〒

氏名

会員番号
（会員でない方は会員外と記入）

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先　TEL
（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

冬期（1・2月）の登山道は積雪があり、凍結しています。各山行計画欄には特記してありませんが、ロングスパッツ・アイゼン・ストックかピッケル・サングラスなどの冬山装備で、また手袋・下着・雨下は防寒・防湿用のものを、登山靴は防水してからお出かけください。

京都・大文字山（初級向き）

期日　1月2日㈪　日帰り

集合　JR名古屋駅中央改札口7時10分／JR山科駅9時50分

コース　名古屋駅（電車）山科駅—地下鉄山科駅（電車）蹴上駅—日向大神宮—七福思案処—大文字山—大の字火床—銀閣寺（徒歩約3000m）（名古屋駅から青春18きっぷ使用）

費用　2万5千円（京都東北部）

地図　◎小出長蔵　○村田智彦

係　〒448刈谷市一里山町一里山59の3　小出まで

申込み　五山の送り火（8月16日）の山へ。家でゴロゴロしているなら京

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも、緊急連絡先など、記載すべき事項はあれなくご記入ください。

申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃にします。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

（初心者向）やさしいコース

（初級向）どなたでも歩けます

（一般向）ハイキングの標準コース

（中級向）かなり経験者向コース

（やや難向）（難向）は、危険な所があり、キツイ登りや、くだりが長く続くコースと、ご理解ください。

郡へ。初詣でがてら遊びに行こう。
＊名古屋からの人は青巻きっぷの有効を明記してください。JR山科駅・地下鉄線上駅に集合の方はそのむね明記してください。雨天中止、雪決行

平日木曜ハイク38
新年会山行・十三石山から氷室
（一般向き）
期　日　1月8日(祝)　日帰り
集　合　叡電出町柳駅京都バスのりば9時20分
コース　出町柳駅（バス）市ノ瀬—十三石山—万灯岳—寺山—ダラノ坂—氷室—秋遍谷口—光悦庵（新年会）—叡山電鉄前（解散）
費　用　約5500円（宴会費・保険料）交通費は各自
地　図　昭文社「47京都北山」
係　◎前中　毅　○氷見国一
申込み　〒610—01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

比叡・崇福寺跡から延生山
（一般向き）
期　日　1月10日(日)　日帰り
集　合　JR湖西線唐崎駅9時30分
コース　唐崎駅—崇福寺跡—参見ヶ丘—川原—延生山—北白川バス停（解散）
費　用　約2000円（大阪から）
地　図　昭文社「47京都北山」
係　◎菱沼弘子
申込み　〒610—01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
人に出会うこともまれな静かなコースです。現在自然歩道は大雨で閉鎖していますが十分通れます。小雨・雪決行

宝殿駅より高御位山縦走
（初級向き）
期　日　1月11日(日)　日帰り
集　合　JR宝殿駅北出口10時（大阪発9時の新快速で）
コース　宝殿駅—辻—P183m—高御位山—鷹ノ巣山—P155m—JR曽根駅
費　用　約2700円（大阪から）
地　図　2万5千＝加古川

係　◎井上　保
申込み　〒674明石市大久保町高丘3の1・20の104井上まで
三年前、兵庫南部地震で電車が不通だったので、京都・大阪方面の方は参加できませんでした。今回は逆コースで再度計画しました。歩行は4時間。小雨決行

自然観察山行6
美濃・池田山（一般向き）
期　日　1月11日(日)　日帰り
集　合　JR東海道線大垣駅8時30分／近鉄揖斐線池野駅前9時
コース　大垣駅（電車）近鉄池野駅前（タクシー）霞間ヶ渓—池田の森—池田山（往復コース）
費　用　約1500円（大垣駅から電車・タクシー・保険代等）
地　図　5万＝大垣
係　◎鷲見守康
申込み　〒504岐阜県各務原市蘇原村羽町1の19の5鷲見まで
定員20名
探奨の山の前衛峰、標高924mの池田山をスノーハイキング。池田の森からは南に広がる美濃平野の見晴らしが見事です。＊申し込みハガキに集合場所を明記してください。また、マイカーで参加の方はそのむねお知らせください。小雨・雪決行

鈴鹿を歩く41
文三ハゲから綿向山・水無山
（健脚向き）
期　日　1月11日(日)　日帰り
集　合　477号線の音羽・北畑口8時30分
コース　備野（車）滝山林道—文三ハゲ—綿向山—水無山—能野（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社「45御在所・鎌ヶ岳」
係　◎岩野　明　○山本久雄
申込み　〒610—01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
文三ハゲから冬の綿向山と水無山をめざす。小雨・雪決行

京都北山歩き61
愛宕神から滝又の滝

期　日　1月13日(火)　日帰り
集　合　京都駅前JRバス田山行きのりば9時
コース　京都駅（バス）愛宕道—畑谷出合—滝又の滝—余野—滝ノ町（バス）京都駅
費　用　約2000円（京都から）
地　図　昭文社「47京都北山」
係　◎今西光男
申込み　〒610—01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
定員25名
山城三名瀑のひとつ、滝又の滝を見に行きます。小雨・雪決行

湖東・太郎坊山（一般向き）
期　日　1月15日(祝)　日帰り
集　合　JR近江八幡駅近江鉄道のりば9時
コース　近江八幡駅（電車）市辺駅—船岡山—岩戸山—小脇山—花松山—太郎坊山—太郎坊宮—太郎坊駅（電車）近江八幡駅
費　用　約3500円（大阪から）
地　図　2万5千＝八日市
係　◎村田智愛
申込み　〒610—01城陽市寺田大畔10の10　村田まで
麓下に湖東平野と琵琶湖を展望する修験道の山を歩きます。小雨・雪決行

播磨・瓜生峰渓から三濃山へ
（一般向き）
期　日　1月18日(日)　日帰り
集　合　JR相生駅北出口9時25分（大阪発8時の新快速で）
コース　相生駅（バス）瓜生口—瓜生峰渓—三濃山—金出地（バス）JR上郡駅（解散）
費　用　約1000円（バス代）
地　図　2万5千＝二木・三日月
係　◎須磨岡　維
申込み　〒671—12姫路市余部区上余部50の2の11須磨岡まで
早春の息吹きを感じながら冬枯れの静かな里山を歩きます。雨天中止

平日ふれあいハイク6
奥比叡・玉体杉から御来峠
（一般向き）
期　日　1月25日(火)　日帰り
集　合　京都地下鉄北大路駅京都バスのりば8時40分
コース　北大路駅（バス）登山口—大谷—三体杉—地蔵山—御来峠—野村坂れ（解散16時頃）
費　用　約1000円（北大路駅から）
地　図　昭文社「47京都北山」
係　◎川上大堅
申込み　〒610—01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
冬の山らしい奥比叡を歩きます。小雨・雪決行

雪ん子と遊ぶ1
鈴鹿・クラシからイブネ
（上級向き）
期　日　1月24日(日)　日帰り
集　合　朝明渓谷入口・千草発電所上の駐車場8時
コース　朝明渓谷—根ノ平峠—神崎川—小峠—イブネ—クラシ—クラシ谷—根ノ平峠—朝明渓谷（解散16時頃）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝御在所山
係　◎筒井克治　○木村吉秀
申込み　〒610—01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
昨年の再探奨、コースは雪の状況で自在に変えます。雪があれば楽しさは倍加する。小雨・雪決行

三輪の山36
鈴鹿・局ヶ岳（一般向き）
期　日　1月24日(日)　日帰り
集　合　国道166号線鈴鹿町役場・道の駅鈴鹿車場9時30分
コース　道の駅（車）堀出バス停（徒）局ヶ岳神社—新登山口—旧小峠—局ヶ岳—旧登山口出合—局ヶ岳神社（車）道の駅（解散16時頃）
費　用　150円（交通費各自）
地　図　2万5千＝局前
係　◎長崎英九　○鈴田克夫
申込み　〒519—03鈴鹿市大久保町2065鈴田まで
＊マイカー山行

伊勢の櫛ヶ岳と呼ばれるように、鋭い三角形の山で、山頂からの展望は抜群である。雨天決行

ハイキング入門12
北山・雲取山（初心者のための）
期　日　1月25日(日)　日帰り
集　合　京都地下鉄北大路駅京都バス広河原行きのりば7時55分（出町柳駅発7時50分に乗車も可）
コース　北大路駅（バス）花背峠口—思井—寺山峠—雲取山—寺山峠—花背峠前（バス）北大路駅（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「47京都北山」
係　◎西沢忠二　○湯浅次男
申込み　〒610—01城陽市寺田大峰10の10　新ハイキング関西まで
＊定員10名（会員に限る）

雪山歩きの基本をお教えします。冬山装備（送信ハガキで案内します）で、またランチタイムは取りませんので行動食をご用意ください。＊出町柳駅から乗車の人にそのむね申し込みハガキに明記してください。雨天中止

京都北山歩き62
北山・明智越（一般向き）
期　日　1月25日(日)　日帰り
集　合　JR山陰線亀岡駅9時40分
コース　亀岡駅—明智越口—峯の堂—銭坪広場—分岐—保津峡駅（解散）
費　用　約1000円（京都から）
地　図　昭文社＝「47京都北山」
係　◎中西信行
申込み　〒610—01城陽市寺田大峰10の10　新ハイキング関西まで

雪の明智越を歩きます。コースはほぼ平坦で歩きやすい道です。小雨・雪決行

週末ハイク5
北山・金閣寺山から鞍馬山（一般向き）
期　日　1月31日(土)　日帰り
集　合　JR京都駅烏丸中央改札口8時20分
コース　京都駅（バス）大原バス停—宝泉院—寂照山—金閣寺山—江文峠—奥谷峠—鞍馬山—鞍馬寺—鞍馬駅（解散）
費　用　約1500円（会員から）

地　図　昭文社＝「47京都北山」
係　◎神谷東彦
申込み　〒610—01城陽市寺田大峰10の10　新ハイキング関西まで

洛北のはずれの静かな里山を民家の密集さに負けずに歩きます。小雪の散らつくなかなら最高の気分になれます。小雨・雪決行

伊賀・霧山（初級向き）
期　日　2月1日(日)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口7時10分／JR関西線柘植駅9時30分
コース　名古屋駅（電車）柘植駅—名阪国道下トンネル—霧山—霧山寺—名阪国道トンネル—柘植駅（解散）
費　用　約3000円（名古屋駅から）
地　図　2万5千＝上野
係　◎小出長春
申込み　〒448刈谷市一里山町一里山53の3　小出まで

山頂には雪があると思われますが、東部白鳥歩道なので安全に歩けます。＊申し込みハガキに集合駅を明記のこと。

雨天中止、雪決行

葛城・布施城跡から大和高原城山（一般向き）
期　日　2月1日(日)　日帰り
集　合　近鉄御所線近江駅9時30分
コース　近江駅—寺口—登山口橋—布施城跡—久保江—持尾江—大和葛城山—大和社—行者岳—葛城ロープウェイ前（バス）近鉄御所駅（解散）
費　用　約2000円（大阪から）
地　図　昭文社＝「52葛城高原・二上山」
係　◎村田智俊　○真比絵美
申込み　〒610—01城陽市寺田大峰10の10　村田まで

冬枯れの葛城山系をめざしてゆるやかに登ります。小雨・雪決行

平日水曜ハイク13
台高・高見山（一般向き）
期　日　2月4日(水)　日帰り
集　合　近鉄榛原駅8時50分
コース　榛原駅（バス）高見山登山口—小峠—大峠—高見山—高見峠—下平野（バス）榛原駅（解散17時頃）
費　用　約3000円（大阪から）
地　図　昭文社＝「57大台ヶ原」

係　◎鷲尾次男　○青木一雄
申込み　〒610—01城陽市寺田大峰10の10　新ハイキング関西まで

樹氷の美しい高見山を楽しみます。小雨・雪決行

平日木曜ハイク39　比叡の道⑮
比叡アルプスから振動寺（一般向き）
期　日　2月5日(木)　日帰り
集　合　京阪三条駅京阪バスのりば8時40分
コース　三条（バス）琵琶谷—比叡アルプス—東海自然歩道—無動寺谷大峰—根本中堂（往復）—肥前谷—大谷谷林道—坂本門前大社（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「47京都北山」
係　◎前中　毅　○米原勝二
申込み　〒610—01城陽市寺田大峰10の10　新ハイキング関西まで

北白川地蔵谷から立ち上がり叡山関へ至るやや足根を比叡アルプスと呼びます。コースは行者道の一部をたどるなど大半が比叡の古道です。雨天中止

自然観察山行9
美濃・養老山（一般向き）
期　日　2月8日(日)　日帰り
集　合　JR東海道線大垣駅8時40分／近鉄養老線養老駅前9時15分
コース　大垣駅（電車）養老駅—養老公園—三方山—笹ヶ原—小倉山—養老山（往復コース）
費　用　約1000円（大垣から）
地　図　2万5千＝養老
係　◎鷲見宇康
申込み　〒504岐阜県各務原市蘇原村前町1の19の5　鷲見まで
定員20名

冬の養老山系を訪ね、スノーハイキングとアニマルトラッキングを楽しみます。天候に恵まれれば、養老駅から雄大な濃尾平野の景観を眺めます。＊集合場所を申し込みハガキに明記してください。また、マイカーで参加の方はそのむねお知らせください。小雨・雪決行

雪ん子と遊ぶ2
鈴鹿・竜ヶ岳（中級向き）
期　日　2月8日(日)　日帰り
集　合　宇賀渓入口駐車場8時
コース　宇賀渓—中尾根—竜ヶ岳—道尼尾根—宇賀渓（解散16時頃）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝竜ヶ岳
係　◎岡井兄治　○木村吉秀
申込み　〒610—01城陽市寺田大峰10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

思いきりラッセルする。昨年と同じコースで竜ヶ岳へ挑戦します。小雨・雪決行

比良・蛇谷ヶ峰（中級向き）
期　日　2月15日(日)　日帰り
集　合　JR湖西線近江舞子駅9時（京都駅発8時17分）
コース　近江高島駅（バス）畑—ボボフダ峠—蛇谷ヶ峰—朽木グリーンパークてんくう温泉（入浴後バス）安曇川駅（解散）
費　用　約4000円（京都から）
地　図　昭文社＝「46比良山系」
係　◎長田智俊　○前定保夫
申込み　〒610—01城陽市寺田大峰10の10　村田まで

遠望の蛇谷ヶ峰へ、雪は深いがトレースがあります。下山後汗を流します。小雨・雪決行

紀泉・天見から岩湯山（中級向き）
期　日　2月22日(日)　日帰り
集　合　南海電鉄野線天見駅8時40分（解散発8時00分の急行高野山行まで）
コース　天見駅—渡谷—井関谷—根古峠—五ツ辻谷峠—岩湯山—山田分峠—三石山分岐—高山森林公園—紀見峠駅（解散）
費　用　約1500円（解散から）
地　図　2万5千＝岩湯山
係　◎真村誠治
申込み　〒646—0054　橋本市城山台2の39の7　真村まで

冬の岩湯山に大見から登り、高山森林公園の紀泉峠をくだります。天気が良ければ関西・大峰山脈がよく見えます。小雨・雪決行

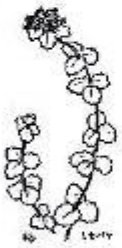
鈴鹿を歩く42
釜仙山西南尾根を歩く（熟練向き）

期　日　2月22日(日)　日帰り
集　合　河内長・河内国八の手前寺院広場8時30分
コース　入谷広場(昼)落合—汗ふき峠—笠仙山—西南尾根—笹峠—今畑—入谷(解散)
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「47京都市・伊吹・鈴鹿」
係　◎吉野　明　○山本久雄
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大群10の10　新ハイキング関西まで　＊マイカー—山行
真冬の霊仙山へ、西南尾根をくだります(21号・44ページ参照)。小雨・雪決行

ハイキング入門13
北山・横断ヶ岳
(初心者のための)
期　日　2月22日(日)　日帰り
集　合　京都地下鉄北大路駅京都バス岩屋橋行きのりば8時10分(出町柳駅発8時10分に乗車も可)
コース　北大路駅(バス)岩屋橋—志明院—楽師峠—横断ヶ岳—薬師峠—志明院—岩屋橋(バス)北大路駅
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「47京都北山」
係　◎西沢広二　○湯浅次男
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大群10の10　新ハイキング関西まで　＊定員10名(会員に限る)
雪山歩きの基本をお教えします。冬山装備(返信ハガキで案内します)で、またランチタイムは取りませんので行動食をご用意ください。＊出町柳駅から乗車の人はそのむね申し込みハガキに明記してください。雨天中止

京都北山歩き63
愛宕道から松尾峠・峰山
(一般向き)
期　日　2月24日(火)　日帰り
集　合　京都駅南JRバス周山行きのりば9時
コース　京都駅(バス)愛宕道—ウジウジ谷—田尻—松尾峠—峰山—梅ノ尾—周山寺(バス)京都駅
費　用　約2000円(京都から)
地　図　昭文社＝「47京都北山」
係　◎今西光男
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大群10の10　新ハイキング関西まで　＊定員25名
雪の裏愛宕道をのんびりと歩きます。小雨・雪決行

お知らせ
○「文学散歩」は係・松永さんの都合が悪く、1・2月の例会はお休みします。
○「地図読み山行」は1・2月の例会は毎年行っていません。3月から再開します。
○2月2日以降に申し込みハガキを投函される場合は、記載の七ケタの郵便番号を記入してください。それまでは従来通りでお願いします。



新ハイ特別企画

ハワイ島の山登頂
マウナケアとマウナロア
(一般向き)
期　日　4月3日(木)夜～14日(火)昼　5泊6日
コース　成田＝ホノルル＝ヒロ(泊)—マウナケア登山—ヒロ(泊)—マウナロア登山—ワイコロア(2泊)—ホノルル—(機中泊)＝成田
費　用　約27万5千円(予価)
申込み　〒330大宮市宮原町4の87の1　(係)高柳年雄まで　＊1月31日までに
マウナケア山(4206m)は30分のハイキング、マウナロア山(4170m)は往復8～9時間のハイキングです。申し込みの方には詳しい行程資料を送ります。

山行報告
(9・10月)
新ハイキングクラブ関西

室生・吉光山
9月7日(日)　◎小出良春
雨天のため中止しました。

比良・蛇谷ヶ峰
(平日ふれあいハイク4)
9月9日(火)　晴れ
京都駅8・17発(電車)近江高島駅9・00(バス)畑9・25～35—ボボフダ峠10・50～11・00—蛇谷ヶ峰11・55(昼食)12・55—猪ノ原場13・55～14・10—桑野橋14・50(バス)安曇川駅15・35(解散)
少し暑かったがコース途中あちこちで涼しい風が待っていた。麓の展望は南方の武奈ヶ岳が黒い雲におおわれていたのが残念であった。全員元気よく気持ちのよい山歩きができた。
(参加者)中村隆子　堀口与之助　松山みつ　山本　啓　赤松しげみ　西川友延　松山浩二　山口恵美子　村井　武　中村啓一　山崎吉五郎　石田芳弘　都司良江　都司喜八郎　吉田誠宏　野田節子　成川みさお　宮坂敏彦　渕田　京　妹尾一正　妹尾公代　中尾博子　岡田千恵子　浦上　明　秋田美穂　菊池すみ子　平　幸子　辻　行子　佐々木喜子　白根博子　木本文恵　大森元道　久野桂子　清林武親　小東マユミ　上田重子　西上利和　天野加奈江　○寺元恒夫　◎川上久雄(計22名)

朽木・白倉谷(大陸ハイク33)
9月11日(日)　晴れ
JR京田駅8・15(バス)西村井9・00～10—松木地蔵9・30～45—牛コバ10・45—大峰峠越れ11・20～35—高時子峠11・45—白倉岳12・05(昼食)12・40—中岳12・50～13・05—国吉13・20—坂生滝15・00～20(バス)京田駅16・00(解散)
ブナ林の小径を登り、山頂では百里ヶ岳・北丹山系・伊吹山などの展望を楽しみ、中岳の巨大彫をバックに記念撮影をした。
(参加者)高岡厚男　永見貞治子　乙畑恭雄　入江武史　広田不佐子　大谷春子　中村英雄　砂原恵美子　中井　博　北村　正　井上恵治子　川上友堅　河田　努　平川日恭子　平山秋美　金森節子　中上紀代子　岡　寛子　恵尾健治　松本いつ子　藤田敬雄　恵尾忠男　伊藤みはる　秋田桐陣　藤江益子　左近八栄子　戸根　茂　風見靖子　御田信子　北尾信枝　吉岡義枝　竹田喜美　○西上利和　○氷見周二　○藤田光彦　◎前中　敏(計35名)

鈴鹿・御在所岳(三重の山35)
9月13日(土)　雨
近鉄湯の山温泉駅着9・10(車)—養滝駐車場9・30—音羽—大瀬橋10・00—藤内小屋—国見峠12・00—御在所山上広場12・20(昼食)13・20(リフト)御在所岳13・30—長者ヶ池—カモシカセンター14・00—(中道)—白石谷—裏道への分岐15・55—裏道・よんの滝16・15—大瀬橋16・30～40—音羽—湯の山駐車場17・10(解散)
雨、降ったりやんだり。雨と汗でビショ濡れの人も。寒えながら頑張った楽しい山行でした。
(参加者)本村好和　小堀幸男　藤田和洋　川本　隆　高杉　均　荒井寛子　山本雅子　稲垣宗子　宮脇正人　平　巻子　藤井みつ子　○稲垣義夫　◎尾崎英五(計13名)

大峰・山上ヶ岳
(山伏修行1日入門)
9月13日(土)～14日(日)　1泊2日
〈13日　曇り〉洞川温泉旅館着16・00—聖宗寺入水行17・00(泊)
〈14日　小雨のち晴れ〉旅館2・30(宝)大峰大橋2・40—一本松茶屋3・40～50—洞辻茶屋4・30～5・00—鎖掛岩5・10—西ノ覗岩5・20～40—山上宿坊5・50(朝食)6・10—大峰山寺6・20—山上ヶ岳(1等三角点)6・25—お花畑周遊6・30～40—大峰大橋8・05(宝)旅館8・30—聖宗寺修了証授与10・00—旅館着荷物10・20～11・00—洞川バス停11・30(解散)
大峰の冷気のなかで全員緊張感につつまれ、水行から修了証授与まで充実した時間が過ごせた。山上のお花畑周辺にはトリカブト・カラマツソウ・オタカラコウの花が咲いていた。
(参加者)青柳　隆　瓜阪利明　堀本和幸　野口　修　堀井清之　森川信之　藤本一夫　清林武親　坂元正雄　◎奥村誠治(計10名)

芦生・伊吹北尾根
(自然観察新山行4)

9月14日(日) 雨
春日井駅9・00(タ)—国昌峠9・30～40—国昌峠10・40—太茶山11・20—面隆峠11・50(昼食)—静鳥ヶ原13・45—さざれ石公園15・20
(解散)
雨をついて、北区様を縦走しました。見晴らしが不良なのが残念でしたが、キク科・キキョウ科・リンドウ科・トリカブト属など秋の花が色とりどりに咲き、64種の花を確認できました。
(参加者)伊藤制男 落合 博 下村登子 高杉 博 田口芳一 田口京子 竹内孝一 田中樽子 堤 良男 徳田鶴子 西川友造 深坂 寛 深坂国子 山本 啓 ○奥井宰生 ◎登見千康(計16名)

湖北・山本山歩道縦走
余呉湖・椿ヶ岳から山本山
9月15日(日) ◎村田智俊
雨大のため中止しました。

九州・九重山
9月20日(土)～23日(月) 3泊4日
(20日) 東神戸(六甲アイランド)ダイヤモンドフェリー待合室集合19・15～20・00発(船中泊)
(21日) 晴れのち曇り 大分港7・55～8・10(バス)牧ノ戸峠9・50～10・10—星生山分かれ11・00～15—久住分かれ11・40(昼食)12・10—久住山12・35～50—大船ヶ城13・20～35—中岳13・50～14・00—星生山14・25～40—白口岳15・05～15—降立峠16・05～15—法華院温泉山荘16・35(泊)
(22日) 曇りのち晴れ) 法華院温泉山荘7・50—坊ガツルキャンプ場8・00—立中山分かれ8・35～45—段原9・15～25—大船山9・40～50—段原10・10～20—立中山分かれ10・50—法華院温泉山荘11・20(昼食)12・00—御ヶ池12・45～55—九重山登山口13・50～14・05(バス)鉄輪温泉・ひょうたん温泉15・50(入浴)16・45(バス)大分港17・15～18・45発(船中泊)
(23日) 東神戸港着6・35(解散)
久住山は多数の登山者で賑う。山頂からは由布岳・阿蘇山が遠望でき、九重連山の眺望もよく、硫黄山はゴウゴウと噴気を吐き出していた。中岳～星生山～白口岳と縦走し、急斜面の御鉢を法華院温泉へ下山した。翌日は予定を変更して大船山往復ルートにした。山頂周辺のキリシマツツジの群落を目にしたが季節に再訪したい意欲が高まる。最後に鉄輪温泉で汗を流し解散についた。
(参加者)美濃三枝 佐田次男 平松美子 武田久子 中村敏春 横井 徹 横井静子 安田文美江 三井紘一 前田栄三 小田鶴子 乙坪和雄 井上久子 中上紀代子 吉植 清 吉俣孝次 野口 修 谷 久雄 竹田利夫 森実喜美子 道広貴郎 前田孝一 川上香代子 岩林武雄 野崎武郎 辻 直彦 ○加藤元彦 ◎谷野実彦(計23名)

銚子ヶ口と水舟の池
(鈴鹿を歩く34)
9月2日(日) 晴れ
銚子ヶ口登山口8・30—尾根9・45—鈴谷川源流10・45—北峰11・20—西峰11・50—水舟の池12・05(昼食)13・05—大峰13・40—南峰14・25—銚子ヶ口14・50—東峰16・00—登山口17・00(解散)
須谷川源流の中腹にるみさんが倒れられた場所に献花・線香・花束を添えて黙祷を行う。北峰に登り銚子ヶ口山系の草原をのんびり歩いた。そして水舟の池は神秘的な静寂のなか、アキアカネが乱舞していた。
(参加者)藤村正人 山田明男 増野芝允 山田豊三 馬場鶴栄子 谷 守 山彩 明 奥村一平 薄田孝逸 池田繁美 高橋芳彦 高杉 博 寺井恒夫 高村孫三郎 島岡猛志 ○山木久雄 ◎谷野 明(計17名)

葵谷峠から奥保山
(京都北山歩き56)
9月23日(日) 曇りのち晴れ
京都駅八条口8・15(バス)山国9・45—竜ヶ坂—地蔵谷10・40～11・00—葵谷峠11・40—尾根広場ピーク11・50(昼食)13・00—東保山13・10～15—小谷からカモチ谷林道三合14・50～15・10—殿橋15・13～50(バス)京都駅17・15(解散)
曇空で少し雨が降ったが昼から晴れた。東保山からはあまり歩かれていない西尾根を歩き道のない急坂を八谷にくだってカモチ谷林道に出た。
(参加者)小林 稔 橋本豊二郎 今西茂男 飯田義子 本岡毅次 高大忠夫 前田攻雄 西川友造 山本 啓 本間 隆 太田黎子 酒田 誠 森脇真義 岡明三郎 守本 至 木全正秀 村上春代

高木 晋 入江武史 宮村孝次郎 平 幸子 川上友彦 御田昌子 辻 行子 白根雅子 中西 昭 多賀因二 若木峰一 中井ひろみ 血原満男 立花智子 田中喜美江 田中 誠 寺本幸男 吉田ソノ子 中西秋野 安藤真子 辻 嘉一郎 平田静夫 堀田栄子 野々山剛美 ○前定保美 ◎中西四行 (計13名)

鈴鹿・七人山から雨乞岳
3月23日(日) 雨のち曇り
朝明8・10—コクイ谷出合10・00—七人山11・00(昼食)12・00—東雨乞岳13・00～30—杉峠14・30—鈴鹿山脈保育園15・30—朝明駅17・40(解散)
坂本から雨池まで、予報は終日雨。朱雀峠に若干名参加あり、行くことにする。雨の中、七人山の道途と雨乞岳の変わりゆく景観に興味して鈴山跡に人の歩きを見て、定刻通り歩きました。
(参加者)小田静子 今西民代 ◎岡井元治 (計3名)

南山城・笠置山行場めぐり
(ハイキング入門8)
9月23日(日) 晴れ
JR奈良線宇治駅(タクシー)鵜殿谷—難峰山金胎寺—行場めぐり—笠置山頂(タクシー)JR宇治駅
(解散) ※タイムとらず
全員無事行場めぐりをし、紅葉前におりた。タクシーを待つ間に見た虹が美しかった。JR宇治駅第一ホテルレストランで反省会を行ったが、今回は特に問題点は見つからなかった。
(参加者)下村啓子 斎藤 隆 斎藤静子 隆 静子 中上紀代子 吉植清子 辻 行子 石丸宏子 石丸孝太郎 石丸宏子 夏 美智子 ○渡辺久男 ◎西沢広二(計12名)

多紀アルプス・西ヶ岳と三嶽
9月28日(日) 晴れ
JR篠山口駅9・55(タクシー)栗柄峠10・20—三嶽12・20(昼食)13・20—西ヶ谷—栗柄口バス停15・20(解散)
天候が良く汗をかきながら頂上西ノ岳まで登る。ふり返り見の展望もすばらしく、晩の茶畑にはムカゴの実もたくさんなっていた。
(参加者)平敬英子 浜田久子 中村静香 石田春美 岡山春美 堀 久子 奥村孫治 奥村孝子 浜田幸子 小田鶴子 今村 誠 西村 正 岡田 昇 岡田泉孝子 塩田昌憲 布施清美 加藤元彦 村上広子 船越和明 船越みよ子 杉村英代 美村孝治 大隈和洋 山本武臣 山本今子 長塚静子 吉植 清 宮本吉幸 宮本悦子 小森惠子 今神省司 金内一男 栗岡克子 青木一雄 須磨岡 紘 ◎井上 保 (計36名)

東海自然歩道を歩く(第一回)
算面から忍頂寺
(鈴鹿読み山行23)
9月28日(日) 晴れ
阪急茨木市駅8・16—茨木滝8・52～9・15—政の茶屋跡10・05～22—勝尾寺11・22～33—阪急箕面駅12・00(昼食)12・50—北摂霊園13・40～14・00—秋鹿茶屋跡14・18～20—阪急坂口14・50—阪急15・46～16・06発(バス)京中解散
地図読みの東海自然歩道シリーズの始まりです。資料に厳しいアップダウンに少々バテぎみの人もありました。レッスンは全員が熱心に受講し、地図とコンパスに親しんだ一日でした。
(参加者)三井紘一 入江武史 中村春一 吉田祐康 岩本いすゞ 渡辺節郎 松原敏一 松原久仁子 大木政夫 北方清重 菊池すみ子 横倉光子 八木重三 岡田千恵子 高木忠夫 甲大静子 光川二美子 松山浩三 岡崎滋博 吉岡千頌子 上坂征技 北川良子 田中三恵子 ○中村 登 ◎塚元一彦(計26名)

京都北山・半国高山
(木曜ハイク26)
10月2日(木) 晴れのち小雨
北大路駅8・25(バス)岩屋橋9・05—岩屋不動尊9・30～40—栗畑峠10・00～10—山岸山を経て綾坂峠10・55～11・10—長谷峠11・50(昼食)12・35—半国高山13・35～55—朱洞茶屋15・05—八野峠口15・30～50(バス)阪急大宮16・45(解散)—JR京都駅
鷲ヶ畑から小野郷へかけての尾根に残る5つの小さな峠と半国高山を訪ねた。
(参加者)高岡仁男 東 美智子 入江武史 石田芳弘 中上紀代子 中井 博 福田 努 武川みさお 渕田 京 石田芳子 永見昇妙子 富田政雄 山本 啓 那河内八郎 都河良江 西川友造 松本いつ子 松山みつ 金森節子 堅田美奈子 渡辺達郎 高木 晋 石丸八郎子 吉田誠宏 戸根 茂 山本千鶴子

川上久堅　瀬里善蔵　中村隆一
北尾信枝　今西光男　細上　明
秋田勉郎　清林武雄　細井和子
辻　巨子　白根清子　宮坂敏彦
辰見輝子　加藤佳彦　辻　京子
吉岡義枝　笠嶋俊夫　堀川清幸
中西松野　安藤昭子　中川久代
高木忠夫　竹田益美　○西上利和
○永吉理一　◎新中　毅（計22名）

岐阜・笹古山

10月5日(日)　晴れ
JR高山線上麻生駅10・15—中畑分岐10・55—笹古山12・10（昼食）13・03—朝日平路13・30—林道14・00—上麻生駅14・35（解散）

駅からすぐ登れる山だけに登山道は整備されていた。山頂には二体のお地蔵さま、四囲は360度の眺望で、やはりどこまでも青くおだやかな一日であった。

（参加者）菅見寿康　田中禮子　前川久枝　徳田桃子　飯田山菜子　東　美智子　◎小山良春（計7名）

御池岳の池をめぐる

（鈴鹿を歩く35）

10月5日(日)　小雨・曇りのち晴れ
鞍掛峠8・45（車）鞍掛トンネル三重県側8・55—鞍掛峠9・25—鈴北岳10・20—真ノ池—北池10・45—南小池—南池—ヲワグルミの池—中池—ウリハダカエデの池—丸池11・30—風池—大谷の泉11・55（昼食）12・40—等高の池12・45—丸山13・20—山東池—小西池—上池13・35—草原池—日本庭園の池13・50—天池14・00—鈴北岳14・30—鞍掛トンネル14・00（解散）

御池岳の池群しの名人山田明男氏の案内で御池岳の池群をめぐる。広大な山頂部は紅葉が始まっていた。深い樹林のなかのけもの道からササやぶ、雲霧のボッカタヤメイゲッの林、サルナシは実をいっぱい付けて待っていた。そして木々と紅葉を映した神秘的な多くの池に全員感激した。

（参加者）山田景三　池田啓蓮　池田繁美　谷　久雄　中川博史　吉田直二　藤岡千人　武村千鶴　斜井幸生　辻　宣序　宮杉　博　井上　光　鈴木　晴　豊田真理子　藤谷芳勇　鞍掛政枝　釣場たか子　落合ひろ子　石田良由美　○山田明男　◎菅野　明（計19名）

大峰・熊野峰と大天井ヶ岳

10月10日(日)～11日(月)　1泊2日

（10日　晴れ）近鉄橿原市口駅9・40（バス）栗谷峠登山口10・50～11・10—鞍掛峠12・00（昼食）12・40—鞍掛峠13・40～50—三ノ塚14・20—法力峠15・10～15—荒川紀の国屋旅館16・30（泊）

（11日　曇りのち晴れ）旅館7・10（車）玉置関トンネル西口7・30—五番関7・45～50—大天井ヶ岳8・40～50—岩盤峠10・10～20—大原山11・10（昼食）12・00—旅館12・30（入浴・休憩）15・00—洞川バス停15・10～45（バス）下市口駅17・20（解散）

二日間とも天候に恵まれ、色づきかけた大峰の二山を歩いた。秋山と温泉で幸せな二日間であった。

（参加者）木村紳恵　風間利明　岩城雪子　北野常士　近藤　恭　本岡俊次　石田修子　前田政雄　近江義子　森脇良義　波多野忠子　湯浅欣男　酒井敏春　山田景三　北川文子　本本文義　秋田義郎　鈴方由子　青木一雄　本篠幸夫　橋本治雄　三野　旭　高木忠夫　伊藤忠一　弘中武男　伊藤　真　川上久堅　城月清幸　長谷治美　○安倉正勝　◎荒田智俊（計31名）

奥美濃・能郷白山

（自然観察山行5）

10月19日(日)　晴れ
うすずみ温泉—温見峠10・00～20—1490ピーク11・25—能郷白山12・20（昼食）13・30—温見峠15・15（車）うすずみ温泉駐車場（解散）

終日青空に恵まれ、紅葉に燃える山腹の色彩を楽しむとともに、広々とした頂上部で山岳展望を楽しみました。70名を超える参加者にとまどい自然観察山行とはいきませんでした。

（参加者）足立哲子　飯田由美子　伊藤則男　稲垣郁子　井林寿美子　金森郁子　鈴合　博　高今ひろ子　河原昌尚　河合正彦　河合雅代子　北尾信枝　熊木秀雄　久保田英次　小堂　学　呉比治美　郡司義八郎　郡司良江　斎藤三佐子　嶋田幸子　鈴木広和　鈴木広子　田中かね子　高彦　博　武田悦子　田中順子　田中博子　谷　久雄　堤　良男　徳田郁子　中川博史　中井ひろみ　中坊智代　西川友義　西口真雄　西村泰治　橋本　寿　鳥久保幸子　古川裕子　星野正弘　星久保　豊　前川久枝　松林立美　伴仲信幸子

松元賢治　三井紘一　的場たか子
南　宣子　宮坂敏彦　宮本直幸
宮本信子　森川信之　森島紀美代
森島　満　森田和子　森本真智子
山根弘美　山本　啓　山崎多恵子
横井　徹　横井寿子　安田文美江
吉田直二　若原悦子　○加藤元彦
○川上久堅　○西上利和
○山口義治　○村田智枝
◎菅見寿康（計74名）

御池岳南部・奥の平

（鈴鹿を歩く36）

10月18日(日)　晴れ
少文谷分岐広場8・40（車）御池林道広場8・50—8・78ピク9・30—31ピク9・55—東泊11・40—南峰11・55（昼食）12・50—奥ノ池13・10—東のボタンブチ13・40—河合峠15・10—小文谷林道16・10—公園広場16・40（解散）

すばらしい秋晴れのなか早くも紅葉が始まっていた。ブナ林の尾根から南峰に登ると秘境奥の平はササ原の緑と紅葉が明るく輝き、雄大な景観を見せてくれた。ノリウツギの咲き誇れる東のボタンブチでは南に延々と続く鈴鹿の山並み、眼下には深く切れこんだ真ノ谷の紅葉が広がっていた。

（参加者）山田景三　山形　明　小森　稔　藤村正人　大石修実　武村千鶴　関村一平　谷　守　神野孫允　森澤元博　森澤治子　池田繁美　八田岩司　高村孫三郎　○山本久雄　◎菅野　明（計16名）

三光谷（鎌山）から中尾根（鎌山）

10月19日(日)　晴れ
青川渓谷入口8・00—三光谷出合9・20—金松沢—亜字跡出探索10・30～11・10—P2鞍部11・30（昼食）12・30—孫太郎山鞍地13・00～30—鈴谷分岐—谷出峠14・30～15・00—青川渓谷入口16・30（解散）

『郡鈴谷田峠鎌鞍山の今昔』は華やかな頃の谷間を記している。今は荒れた山谷間を、雑木にからむ蔦やカラマツの葉が芝居を隠していた。神寺の広大な跡地、鉱口、坑道が使われた道をたどって往昔共の跡を訪ねました。

（参加者）山田明男　木村靖彦　池田隆一　小畑妙子　今西光代　中村健次　○木村吉秀　◎岡井克治（計8名）

アソガ谷から鈴鹿尾根

（京都北山歩き57）

10月19日(日)　晴れ
山町線駅9・15（電車）貴船口駅9・45—アソガ谷11・00—旧花背峠11・55（昼食）12・55—鈴鹿尾根14・00—奥の谷15・00—貴船口駅15・45（解散）

紅葉に少し早い旧花背峠からサケの多い鈴鹿尾根の縦線を経て奥の院をのんびり歩きました。

（参加者）入江武史　石丸宗太郎　石丸宗子　山下恒三　堀口昌之助　堀口昌子　中島一男　中島せつ子　吉田繁宏　堀　久子　石田賢二　大橋完道　藤田　努　前田政雄　福井清之　西田一夫　鹿原きよみ　松田好市　小関新枝　陳　嘉子　芝野繁明　岡田春美　岩本いすゞ　中村野谷　鶴明三郎　宮谷繁吾　小郷知子　北川田鶴子　上髙延枝　菅原孝子　橋本賢二郎　森脇吉義　堅田幹夫　堅田美春子　○加藤佳彦　◎今西光男（計27名）

比良・北小松から駒迫岳

（週末ハイク3）

10月25日(日)　晴れ一時曇り
JR北小松駅9・10—蓬之郷9・30—流峠10・20—ヤケ山10・50—タンヤマの頭11・35—ヤケオ山12・00（昼食）12・50—駒迫岳13・20—カラ岳への縦路13・35—イチョウガレ口13・55—イチョウガレ—大津ワンゲル道分岐14・30—大津ワンゲル道—展望台15・25—イン谷口16・15～20発（バス）JR比良駅16・30（解散）

秋の暖かい一日、北小松ルートとイチョウガレルートからの駒迫岳への急登に汗を流し、大津ワンゲル道の急降下に肝を冷やしながら、終盤になった比良の紅葉を楽しみました。

（参加者）森川信之　坂月清幸　近藤　恭　浜谷健司　木岡俊次　後川俊男　占部信雄　砂原恵美子　野口　修　岩本政美　金森郁子　瀬戸静香　堀木秀雄　岩本弘子　高木繁夫　堤　良男　高木忠夫　徳井孝子　中村静香　小田勝子　今村　真　西田一夫　宮角孝雄　松山浩三　村井一也　山田祐代　左前敏子　吉岡義枝　上田幸男　竹内寿久子　堅田美春子　○加藤元彦　◎菅野忠彦（計32名）

東海自然歩道を歩く（第2回）

竜王山から摂津峡

（地図読み山行24）

10月26日(日)　晴れ
阪急茨木駅8・20～35（バス）忍

乗寺バス停9・20〜10・05—奄上山10・30〜11・00—穴仏・自然石11・18〜40—経塚12・10（昼食）12・55—主作大滝13・10—竜山の滝13・30〜35—法竜観音14・10〜30—荻谷14・50—サッカー場15・15〜25—黒津峠15・40—二の口バス停16・05（解散）

東海自然歩道シリーズ第2回は準図読み初参加の9人。コンパスの使い方と地形図の読み方を勉強しながら歩き、紅葉が始まった里山の風景を楽しみました。

（参加者）石原 篤　石原君子　三江紘一　石田孝子　菊池すみ子　湖 久子　増田孝夫　増田千恵子　前田君子　大木政夫　光川二郎子　辻村幸治　北方清車　松本ミユキ　甲木静子　吉田裕輝　大浜冠佐子　西山陽子　大崎雅郎　岩本いすゞ　坂倉静子　本郷孝夫　八木敬三　川端熊治　吉嶺孝次　○中村 登　◎塚元一彦　（計22名）

ミタライ渓谷から洞川温泉

（文学歴史散歩38）

10月26日(日)　◎松永忠一

リーダーの都合で中止しました。

比良・八淵の滝

（ハイキング入門9）

10月26日(日)　曇り一時雨

JR京都駅（7:35）近江高島駅（バス）ガリバー旅行村—魚止の滝—大御神—七曲道—オガサカ道—比良野社—カラ谷—ロープウェイしゃか坊駅（リフト）さんろくリフト前（バス）JR比良駅（解散）ネタイムとらず

八淵の滝を最初から最後まで全員安全に通過することができた。数々の滝と紅葉は美しく心残りもたいして気にならなかった。

（参加者）小山晴美　井上恵美子　中野宗一　森藤 隆　森藤裕子　隣 嘉子　石丸宏子　石丸常太郎　東 美智子　○藤浪次男　◎西沢広一　（計11名）

泉州・三国山から槍尾山

10月26日(日)　晴れ

南海岸和田駅8・30〜45発（バス）牛滝山9・25〜35—葛城—空三角点11・15〜20—石道橋12・00（昼食）12・40—鍋谷峠13・00—経塚山13・20〜25—七越峠13・50—三国山14・00—ゼロ14・10〜20—千本杉峠14・30（弥栄）—槍尾山15・40〜50—16・10—槍尾山バス停16・40（バス）和泉中央駅17・20（解散）

水もれ日のなか、7時間コースを全員最後までしっかり歩いた。鍋谷峠の焼きシイタケと槍尾山のきつねうどんは美味だった。

（参加者）平敷美子　宜田久子　吉戸 清　兼田幸子　山岡多恵子　山村旭夫　青木一雄　岡田恵美子　福本孝雄　向田 豊　高野神雅子　石原国次　鮫島利明　鮫島ゆき子　野口 修　秋田橋郎　砂原忠美子　真田明子　米谷敏子　山下勝彦雄　三上隆行　荒井宮子　弘中征男　藤三政雄　山野 貞　山本 勉　岡田真介　○長村誠吉　◎岡田 昇　（計20名）

湖南・鶴荒山と竜王山

（水曜ハイク11）

10月29日(水)　晴れ

JR草津駅9・00（バス）上桐生9・30〜40—落ヶ滝10・15—北峰縦走路出合10・40—鶴荒山11・10—北峰縦走路—天狗岩12・00（昼食）12・50—白石峠13・10—竜王山13・30—白石峠13・44—泊坂廃寺仏14・15—上桐生15・15〜30（バス）草津駅16・00（解散）

冬型の気圧配置であったが、太陽が昇るにつれ汗ばむ陽気になった。天狗岩では風がきつかった。

変化の多いコースで一日楽しく過ごした。

（参加者）西沢広一　石原君子　松村雅子　松山みつ　長居良彦子　大浦隆造　高三明子　新家勝義　渡辺篤子　永田弘子　北田鶴子　立川郁夫　田中貞実　成川みさお　川端敏子　中村静香　江坂美智子　富永一美　谷 久美　平松君子　兼田久子　松平信三　波多野忠子　青林武親　堅田峰夫　堅田美恵子　青木一雄　辻 行子　小林伊与子　白根清子　兼田幸子　菊池すみ子　岡田千恵子　辻 晃子　光川二郎子　○岡田 昇　◎藤浪次男　（計37名）

青生高原・三国岳から杉峠峠

（大曜ハイク35）

10月30日(木)　晴れ

JR安曇川駅8・50（バス）生杉芝走路谷10・00〜15—クチクボ峠10・45〜55—三国岳11・15〜30—上谷野田畑谷出合付近12・30（昼食）13・10—杉峠峠13・50〜14・05—地蔵峠15・25〜45（バス）安曇川駅17・15（解散）

杉峠峠から青葉山を望むなど、秋本番の青生高原を楽しんだ。多人数のため二班に分かれて行動した。

た。

（参加者）高岡信男　阪口千鶴子　入江武史　奥村清一　渡部ヨシミ　北村 正　北村 補　砂原京美子　中尾博子　島 初子　松本いつ子　西川友造　池本仁郎　池本由貴恵　山本 浩　川端繁子　郡司良江　北川良雄　北川敏子　石浜俊子　北尾信枝　山田勝三　南 寛子　高木忠夫　水見喜代子　長田美奈子　長尾一正　林尾公代　梁田美奈子　三宅 明　藤井栄子　中村栄子　前田政雄　中村 稔　中村佐代子　神 伸　川上次郎　小林初百子　中村英雄　芝野泰明　水木美登里　島田美子　平野淳士　佐々木国子　青林武親　金森節子　長谷川紀代　巻田 晃　宮内紀子　宮村孝次郎　梁川信夫　山木初子　山本 勉　本郷美夫　城月満幸　秋田稲師　宮下国子　大原元造　山岸孝次　高木 晋　宮原明子　宮脇敏彦　稲井和子　中村 保　加藤佳彦　森脇彰子　森脇佳子　辻 行子　白根清子　吉岡敏枝　郷田博子　今西光男　石辺八栄子　中村初子　○永良雪二　○藤田光彦　○西上利和　◎宮田 敏　（計29名）

新ハイキングクラブ関西

入会のすすめ

このページの山行例会を通じて正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー（会員）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してたのしいお仲間になりませんか。会員には符号「新ハイキング・別冊関西の山」（年間隔月6号分）をお届けします。会員は山行例会に優先参加できます。

入会金　500円（バッジ代）
年会費　3000円（送料共）

新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び符号からの送本かを忘れずにご明記ください。

尚、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

山行リーダー募集

リーダーは2か月に一、二回程度の山行計画を立案し、実施していただきます。

経験のある人や、やってみたいと思われる人は、当会本部（村田）までご連絡ください。

マニュアルを記した小冊子「新ハイ関西・リーダー必携」を送ります。

○新入会員紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号3468からbonnzzzzまで

【三宮】　大西新郎　紫木伸人　多賀瑞子
【阪急】　下條雲章　横田瑞枝
【芦屋】　吉田孝子　安藤裕美
【京都】　安藤裕美　明石啓子　寺田久広　林 文夫　田山英子　菅生孝子　太前 健　寺本俊子　服部きよみ　安田礼蔵　板倉俊子　井上英一　国松孝雄　若松勝子　井上利恵子　若松 克　喜坂みちる　肥田基二　後藤俊二　大数健司　岡久光明　岡久素子　西村俊子　久村 元　今井重光　今井美智子　松本京子　阪口敏和　阪口ひろ子　郷田素伸　郷田博子　渡辺 保　中尾博子　米川 龍　米川リツ子　志水啓子　福井隆也　福井ミツ子　【奈良】　中村 保　吉川佳子　石田守広　前川和佳子　【兵庫】　酒井敏幸　【摂水一美　植上昭男　森 秀雄　森 瑞代　堀原靖和　宮内節子　波多野紀子　松山哲子　中島一男　中島せつ子　平良 守　三好恵三　（62名）

訂正とお詫び

32号（晩秋）28ページ上段の小見出し「付知町」の読み方は「付知町」が正しい。同ページ下段1行目「不知」は「付知」が正しい。29ページ中段13行目「夢く…」は「夢く…」が正しい。同ページ中段24行目「登段」は「ひきまた」で通っている。同ページ下段6行目及び30ページの上段23行目と25行目の「ピーク」は「独標」が正しい。30ページ下段「亀裂岳」の電話番号は0573（82）2−51が正しい。（編集室）

一番早くお求めになりたい方へ

前もって書店に毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。（隔月刊）の発売日は偶数月の20日ごろです。